

765-204



1200501597983

765

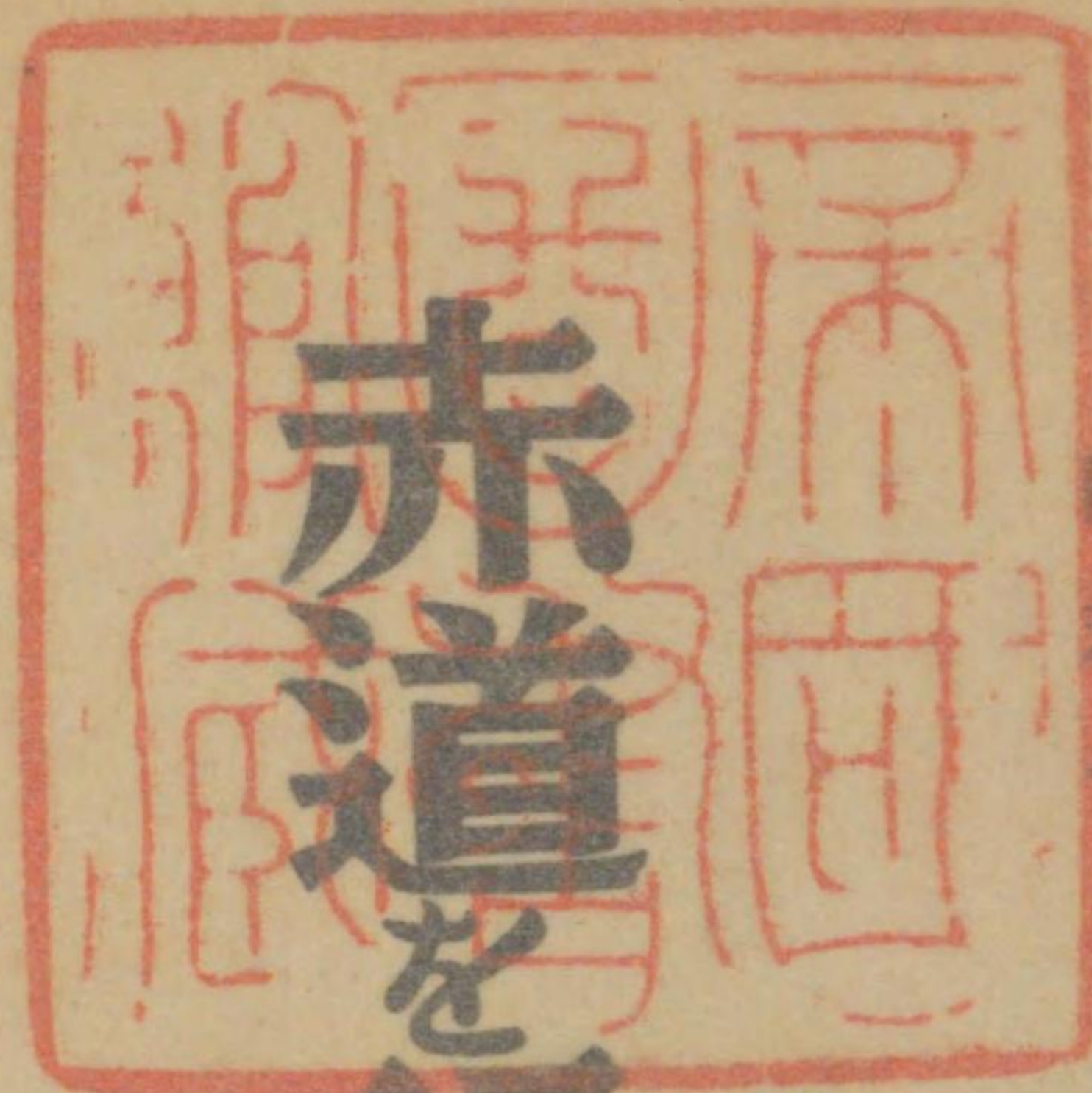
204

外道を行く

517

765

204



赤道を行く

昭和十四年版

(新嘉坡案内)



新嘉坡日本人俱樂部編

765

204



赤道を行く

昭和十四年版

(新嘉坡案内)



新嘉坡日本人俱樂部編



度みて本書を 開南の大先達

眞如法親王の英靈に捧げ奉る

みそなはせ ちとせののちに たまちはふ
みことかしこむ ころがすがたを

新嘉坡日本人倶楽部

文藝部委員 竝拜



新嘉坡市の紋章

新嘉坡市の紋章は傳説的に「椰子樹下の獅子」とせられ來つたが、昭和十三年二月の海峡植民地立法會議席上で其の様式を決定公表せられた。此處に掲げるのは市内(THOMPSON ROAD)の運河上に架してある「紅橋」(JUMBATANMERA)の欄干に附いてゐるそれである。

765
204

新嘉坡日本人俱樂部編

赤道を行く (新嘉坡案内) 目次

はしがき.....一頁

馬來半島

位置。面積.....一頁

地勢。氣象.....二頁

動・植物.....八頁

文化史。人種。人口.....二四頁

政治.....四七頁

交通。通信.....四九頁

通貨。貿易.....六九頁

在南邦人の三大事業.....八六頁

目次

新嘉坡 目次

位置。面積。地勢。……………九四頁
 文化史。人種。人口。……………九六頁
 宗教。教育。新聞。……………一一一頁
 衛生。……………一二二頁
 空から見た新嘉坡。……………一三三頁
 在留邦人活動情況。……………一四〇頁

市内見物の栞

旅券査證。……………一六二頁
 官公廳所在地點。……………一六四頁
 半日の觀光。……………一七一頁
 夜の歡樂境。……………一九〇頁
 みやげ物。……………一九六頁

附 録

役員及職員名簿。……………二〇九頁
 マラツカ案内。……………二一五頁
 ペナン案内。……………二一九頁
 馬來日用語百句集。……………二二六頁
 參考文獻及執筆者氏名一覽。……………二五二頁
 備忘及遊覽記念蒐印用餘白。
 廣 告 目 次。
 新嘉坡市内地圖。

目 次

はしがき

何しろ東洋の支關と呼ばれる新嘉坡である。一ケ年五千二百隻、三千五百萬噸の大小商船を吞吐するといふから、自然、既知未知、有名無名、幾百千の友を送り迎へる欣びを恣まゝにしなから、其間また兎角は應接に遑なしといふ憾みもある。

此等の人々から何か時にとつて便利な案内書、あとで讀んで以て土産ばなしの骨組に用ゐるべき虎の巻が欲しいものだ、といふ聲を何十回きかされた吾等だつたらう。昔、練習艦隊乗組將士などのために日本人會から上梓された『新嘉坡概要』といふ小冊子も、昭和十年發行の第六版まで、今は少々古くなつた。通る人案内所の主人公たる吾等、こゝに聊か懽然たるものがある。

で、この邊で一つ相當な奴を出さうでは無いか、といふ話があつて、郵船の岩嶋を編輯長に、正金の村田、日本人會の大内、實業界から岡本、加藤、小學校の上野、山縣、それに操觚界からは南洋日日新聞の志賀、新嘉坡日報の木村といふ何れも目録以上、腕に覚えの面々がタンクを率ゐる執る忠節に後れはとらじも大袈裟乍ら、こゝにインクを湛へペンを振りかざしての一紙報國を買つて出で、忙しいくと啣ちつゝも幾晩か夜更かしを重ね、相當眞劔になつて調査推敲のあげく出來

上つたものがこれである。

流石に口八丁、手八丁を以て自ら任ずる猛者連が、しかも夫々お手のもの、専門記事を擔當して汗をかいたのだから、御覽になれば相わかる如く、どこへ出しても愧かしく無いつもの本書であるが、唯、何しろ紙數に限りがあるのと、外地で出版の都合上、持ち寄つた原稿の半ばまで握りつぶしにせざるを得なかつたのは遺憾此上もない。

その代り、若しも本冊子の讀者にして尙一步進んで多少の専門的調査材料でも得度いといふやうな御希望があつた時は、更にいくらでも詳細に御答へ出来る用意がある。とだけ申添へておき度く、其の爲め巻尾に各執筆者の住所、肩書も明記しておく次第である。

ところで、所謂『南洋通』と稱せらるゝ人達に大凡三種あつて、即ち、まづ生れて初めて洋行の途中、半日一晚の碇泊で市中管見、ずつと通過して行つただけの學歴で、歸來忽ち一躍して夢思ひきや南洋經營論の大先生様になつてしまふ御客さん、次に、船の都合やデング熱の加減などで已むを得ず十日ほどをこゝに空費滞在して、悪い方面だけ一通り見て行つて下さるお方、そして最後に、これは拮据十載、土地の事情も情事も一切充分執拗く知り盡くされて本當の通といふべき資格を獲得の上、錦衣凱旋してゆく同志であるが、この書は元來、主として其の第一類、申さば多く行

雲流水の如き『素通連者』^{ストレンヂヤ}諸客のためのものであり、或は恐らく着船上陸の後、時間に餘裕の無い碇泊中、倉惶として入手せられたでもあらうから、左様の場合は宜しく第一章の馬來半島も第二章も後廻しにして、早速、半日の觀光とか、夜の歡樂境あたりのページを繰らるゝも結構だらう。また、そのやうなお方々のため、親切にも巻末には『マレー日用語百句集』まで附けてある本書である。

若しそれ、當方面に就て更にもつと七むづかしい調査研究でも遂げ、進んで學位論文でも書からといふやうな野望を抱かるゝ先生方だつたら、終始大凡まづ本書文だけでも間に合はうが、或は少々物足りなくば宜しく巻末掲ぐるところの諸參考文獻を獵涉し、乃至、直接、一瓢を携へ來つて吾等の *Khohla* に入門されたが早いかとも思ふ。家中にはそれゝの技、けしからず堂に入つてゐる恐るべき連中が、手ぐすねひいて御いでを御待ち申上げてゐる次第である。

では、ごゆつくり。

昭和十三年十月

新嘉坡日本人俱樂部文藝部

編輯 同人 竝 拜

難讀主要地名表

星架坡。	新嘉坡。	(Singapore)
彼南。		(Penang)
馬六甲。	馬拉加。	(Malacca)
柔佛。		(Johore)
吉隆坡。		(Kuala Lumpur)
芙蓉。		(Seremban)
太平。		(Taiping)
怡保。	一保。	(Ipoh)

馬來半島

位置。面積。

太平洋と印度洋との水が赤道に沿うて交錯するあたり、英領北ボルネオ (British North Borneo)、ブルネイ (Brunei)、サラワク (Sarawak) の三州と、海峡植民地 (Straits Settlements)、馬來聯邦州 (Federated Malay States)、及び馬來非聯邦州 (Unfederated Malay States) 並びに近海に點在するココス島 (Cocos Isl.)、クリスマス島 (Christmas Isl.)、ランアン島 (Labuan Isl.) 等を覆ふ總面積約三四三六七五方呎、總人口凡そ五二三八九五九人(昭和十三年度推定)の地域を一般に英領馬來地方と呼ぶのであるが、其中、馬來聯邦州と稱せらるゝ四州 (Perak, Selangor, Negeri Sembilan, Pahang)、非聯邦州たる五土王領 (Johore, Kedah, Perlis, Kelantan, Trengganu) 及び海峡植民地の三港灣都市 (Singapore, Penang, Malacca) とが所謂馬來半島に在る。其の面積は約一三二七七七方呎、まづ我が九州と北海道とを合はせたものに等しく、北は北緯六度四二分四一秒の邊、ペルリス州の北端で暹羅國と境を接し、南方は即ち新嘉坡市の南端、北緯一度一五分四三秒に終つて、結局、南北に凡そ五三〇呎、そして東西は最も幅の廣いとて、約三二〇呎ほどで、地理的に所謂、廣義の馬來半島と呼ぶ北緯一三度三〇分、Tavoy—Bang-

Kok 線あたりから南へ長く垂れ下がつてゐる亞細亞洲の蟲様突起の南半分を占むる地域が、英領乃至英國保護領なのである。だから、一部の人が勘違ひしてゐるやうに、あの絲瓜のやうにぶら下がつてゐる半島が全部英領では無いので、南の方の稍、ふくらんだ邊のみがユニオン・ヂャツクの支配下にあると思つてよい。

地勢。氣象。

南支那海に面した東海岸、マラツカ海峡に沿うて印度洋の波に洗はれる西海岸、共に相當廣大なる沖積層の平野をなしてゐるが、その比較的低い平地から隨處に散在する一種特有な石灰岩山が、やゝもすれば絶壁の形をなして吃立し、又、其等の岩山には至るところ洞窟があつて、中には洞窟内に小さいながら一村落が在るほど廣大なものもあり、或は暗黒な底無しの洞穴に種々の珍奇な動物、白蛇とか大蝙蝠とか、大蟾蜍、巨大な蜘蛛などが棲んでゐたりしてお話が豪勢にぎやかになる。

半島には餘り高い山は無くして一番高いパハン州所在のタハン山 (Gunong Tahun) が二二〇〇米突、其他、ケランタン州、パハン州、ネグリスマビラン州、ケダ州あたりにかけて標高一九〇〇米突から二一〇〇米突程度のもの約十座を算へ得ようが、それ等の諸山を載いてゐる山脈といふものが比較的長い奴でも其の走向が半島の地軸と並行してゐないで、寧ろ何れも多少南北に緯度線に沿うが如く、英領馬來半島のまづ正中央に前述のタハン山を頂點としたW字、或はH字の如き形をな

してかたまつてゐる。

山脈は主として珪岩 (Quartzite)、花崗岩 (Granite)、乃至、白雲母花崗岩 (Muscovite Granite) などで形成されてゐて、特に南部馬來半島、即ち、こゝに述べてゐる英領の諸州に聳ゆる山の花崗岩は三疊紀以後の迸出にかゝるものと考へられてゐる。火山活動に伴つて噴出した火山灰とか其他のもので形成された火山岩系はパハン州に最もよく發達し、また、北部ケランタン州、トレンガヌ州、或はジオホール州にも多少分布してゐるが、何れも石炭紀から三疊紀へかけての地變の跡で、其の名残りが小さな温泉として所々に報ぜられてゐる。但し、爪哇以南の各地と異つて新嘉坡は勿論、馬來半島一帯、現在では火山の活動どころか地震といふものを全く知らない國である。

南部馬來半島には河川が多い。この邊が一面密林で覆はれてゐた一〇〇年前は勿論のこと、現今でも河川は海岸地帯から内陸への唯一の交通路たるところさへある。其の西海岸に注ぐものは多くは大きな泥床、乃至廣いマングローヴ濕地を形成してゐて、鰐の生棲に最適な條件を具へてゐるが、東海岸の河川は一般に砂が多く、常に南支那海の強風に見舞はれてゐるので河口に砂洲シヨールを形成したりして、兎角水深が充分で無く船を乗り入れるに困難なところが多い。

此等の河川、いづれも前に述べた隨處に散在する石灰岩や花崗岩の丘陵の間を縫ふて割合に低い溪谷を走り、乃至、上流では相當の急流をなし、或は海拔一〇〇〇米突以上の廣濶なる谷間を行き、などして、其の最も大いなるはキヤメロン高地 (Cameron Highlands) に源を發し、パハン州を

横斷して東海岸に注ぐパハン河、これは流程三二〇軒と測られてゐるがそれと、暹羅の國境に源を爲し、ペラ州を縦走して、西海岸に入るペラ河、延長二七〇軒といふのが大きい。

それから、此の地方には湖沼といふべきものが甚だ少ない。東海岸には北東季節風によつて吹き上げられた砂で瀉が形成されてゐるところがあるが、狹義の湖水は極めて小さいのがパハン州、ペラ州あたりに散在してゐるのみである。その代りに海岸に近いところには曖昧な沼澤濕地がいくらかもある。

で、海岸線はすこぶる長く、蜿蜒二〇〇軒に亘り、此の内、最も海岸線の長いのはジオホール州である。そのくせ磯の景色は一般に殺風景で、長汀曲浦、砂白く椰子青い濱邊といふのは僅かにケランタンからジオホールに至る間にのみ觀ることが出来るが、西海岸の方はマラツカ海峡に面した穏やかな泥濱とベンゴール灣(Bay of Bengal)を望む寂寥たる瘴磯が延びてゐるだけで無風流極まるものである。唯、マラツカ港の北、ポートディクソン(Port Dickson)の海岸と、マラツカ海峡の出口に當るデイデインズ(Dingings)あたりには砂濱が見られる。

半島に附屬してゐる島嶼は相當に多く、第一に新嘉坡も、彼南も島であり、東西兩海岸到るところ有名無名の島が連なつてゐる。

英領馬來は一般に氣象學上からは印度の一部と見てよいので、乃ち一年を北東季節風期(十一月から三月)と南西季節風期(五月から九月)の二つに分け得られる。但し降雨の關係は印度と反對

で冬分は濕氣が高く夏分になると乾燥してゐるが、これは北東の方面に南支那海の大洋があり、南西の方角にスマトラの大山脈が障壁を爲してゐるによるのである。

俗に赤道直下といふが、新嘉坡などは實に赤道を距ること僅かに一度一五分餘といふから、一度が六〇哩で、實際のところ、あの赤い線から一二〇軒、少し早い電車で先づ一時間行程であるに拘はらず、文化人が尙結構上品にかくの如く生活してゐられるのは、畢竟、やはり四圍海を廻らし、雲多く風快よくして、時に快適の一過性大驟雨の恵みもあるによるので、この所謂「夕立」(Squall)こそ南洋人の命の洗濯水なのである。

元來また馬來半島は他の熱帶地方に於けるが如き理不盡な高溫度を見ざる點で大いに恵まれてゐるのであるが、まづ木蔭、戸内で氣溫華氏一〇〇度(乃ち攝氏なら三十八度近く)に上ることは極めて稀で、夜分は最高でも華氏八〇度までであらう。新嘉坡市では曾て華氏六二度(攝氏一六度六分)といふ低溫に下がつたといふ記録があり、過去五十四年間の陰影下の一年平均氣溫は華氏八〇度七分といふから攝氏で二九度三分程度、そして、最高最低の平均溫度は華氏七四——七五度から八七——八度の間を上下してゐて一日の間の氣溫差はまづ華氏で一〇度位、これが殆んど一年中大差ないのであるから、考へ様によつては先づ大體住み心地のよいところと言へようし、着物の心配が要らないだけでも有り難いと悦んでゐる人もある。

こゝで、寒暖計の示度と實際上からだにこたへる有機感覺といふ奴とは必ずしも並行しない、と

いふことも考へてみる必要があらう。乃ち、湿度の問題、蒸發の良否、などを一應しらべてみる。日本の内地などでは、よく「鬱陶しい」といふ言葉を使ひ、五月雨の頃、時雨の秋、降りこめられて退屈と共に何んとなく暑苦しく御機嫌がよく無い。どうも寔に湿度が高い、蒸し暑くてやりきれない、と文句を言ふが、さて、其の時の湿度は？ 氣温は？ と正直なところを調べてみると案外に低くて落膽^{おちかみ}することがある。乃ち、地理地文の教科書に、我國は一汎に湿度高くして夏時六〇%を下ること稀なり、その海岸に所在する都市の如きにありては八〇%の湿度を示すことすらありとす。など、書いてあつて一應感心してゐるが、こゝ馬來地方、例へば新嘉坡市などでも湿度が六〇%以下に下がることなどはまづ無いので、高い時には九八%と上つて來る位、一年中が夏で夜分は間違ひ無く湿度九〇%以上を示してゐながら、たのまれもせぬのに斯くの如く夜更かしをして格別文句も言はずに原稿書きを楽しんでゐる其の量見如何、といへば、これ遍へに通風がよく、蒸發が盛んである賜なのである。

六づかしい生理學や物理學の御講義はお預けとしておいて、兎も角、何と言つても赤道直下、常夏の國と呼んで年中華氏八〇度の氣温に恵まれてゐるのである。こゝで若しも同時に高湿度が付き纏ひ、その上、空暗く雲低くして微風^{そよかぜ}も吹かず、釜中に坐するがごとくさながらにして蒸發が悪るかつたとしたら蓋したまるものでは無い筈で、即ち、濕球温度九〇度と來ると、これはもう義理にも原稿など書いてゐられるわけも無い、サーヴィスもこれまでなのであるが、幸ひに、われ等にも

讀者にも幸ひに、此處はどういふ吹き廻はしか、年中冷風あとを斷たず、漸く^{おんざり}する頃ともなれば判で押したやうに快よい風が頬を撫で來るのである。或は時に物すごかりける入道雲が一瞬のうちに天地を包んで、紫電一閃、森羅萬象おのきわたる雷霆のはためきと共に惜しげも無く萬斛の豪雨をたゞきつけ、兼て、見えざる巨腕急に暴威を逞うして森も林も轟々とゆるがせて、所謂スマトラ嵐と稱する奴、多くは季節風が方向を轉換する十月、四月の頃に襲來するが、これも實は大仕掛のものは極めて稀で、多くは迎へて以て樂しめる程度の風も雨も此の土地の人に取つて文字通り一服の清涼劑なのである。その上、雷鳴は相當聞くが落雷の被害は割合に尠ないのもうれしい。毎年、北東季節風の吹きはじめ、十一月頃には多く稍例外の降雨もあるが、雨量が一年中、概ね平均してゐるのも當地方の一特色である。一ヶ年の降雨量は平均して一〇〇吋、乃ち、二四五〇耗^{ポンド}であるが、處によつては少し降る地方も、又、雨の少ないところもある。概して半島の東側から南の方へかけて山脈に沿うて雨量が多いのは大洋を渡つて來た雲が山にかゝつてコンデンスするが故で、タハン山脈の東側などやペラ州タイピン市 (Taiping) の裏山など、過去二十八年間の平均一ヶ年雨量二三九吋一六といふから大凡六〇七五ミリ、新嘉坡市あたりに較べて三倍も雨が多い勘定である。反之、最も乾燥してゐるといふネグリスマラン州のジエレブといふところでは過去四十二年間の一年平均降雨量は僅かに六四吋八二、乃ち一六四六ミリに過ぎないといふ。

尙、新嘉坡、彼南の兩市では一年平均降雨量は九九吋(二五一五耗)、最も多い年で一三五吋(三

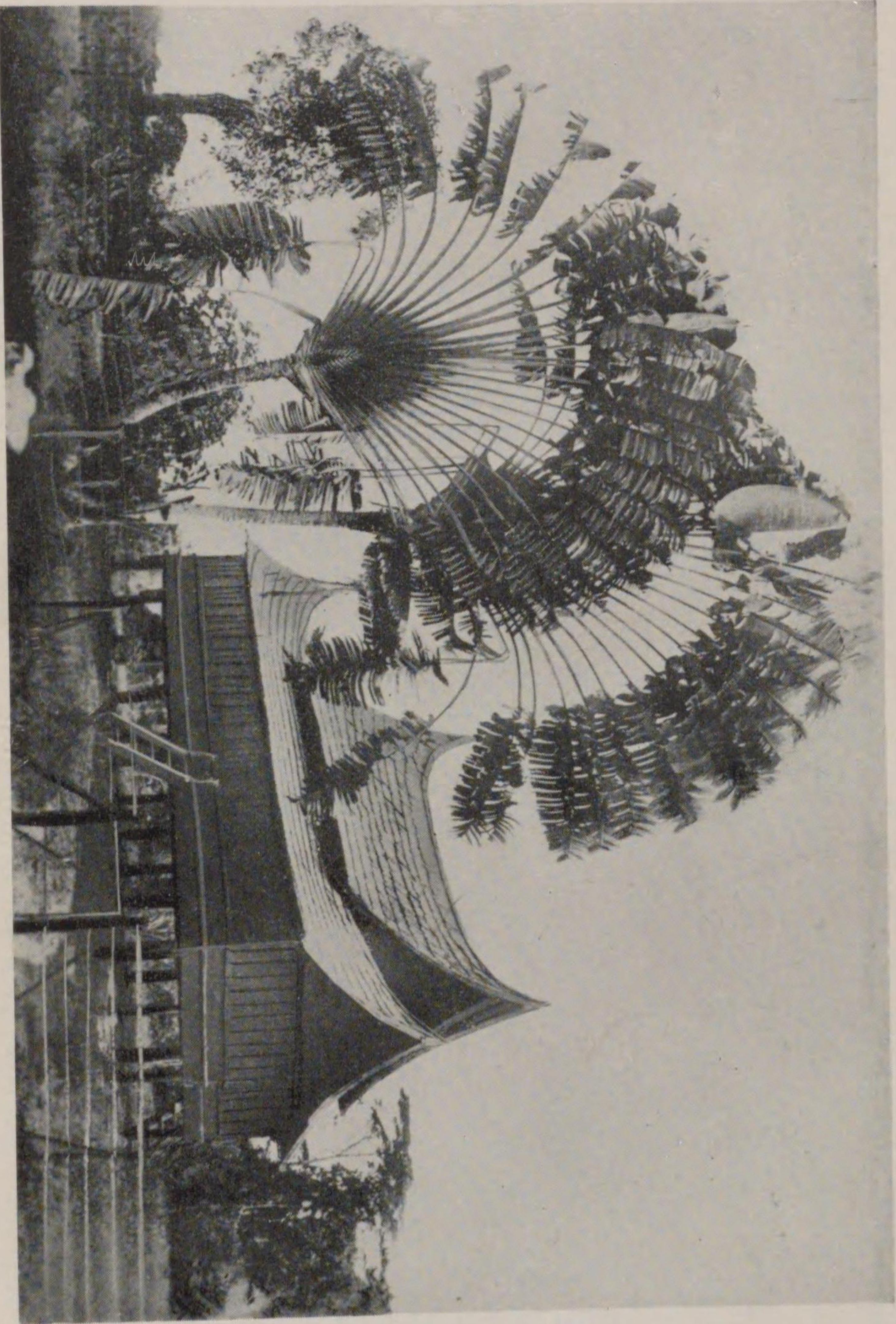
四二九耗)、少ない年で五八吋(一四七三耗)と記されてゐる。この兩市では一年三百六十五日、雨の降る日と快晴の日が半々といふが、雨の日と雖も終日降つてゐるといふことは極めて少なく、まづ十一月頃から翌年三月ごろまでが雨が多い。但し、印度や極東地方のやうに明瞭に雨期、乾期を見ないのである。

植物。

馬來半島は植物分布學上、所謂印度馬來區の一部であるから、此の區境に特有な二羽柿科の大樹をはじめ、全植物群約九〇〇〇種のうち三〇%までが樹木であるが、これは當地方の植物群を溫帶歐羅巴の植物群と區別する一特徴であつて、更に第二の特徴として此の地方には、蘭科、天南星科、羊齒科の如き氣生植物、それから纏繞植物といふ絢へる繩のやうな莖が熱帶林到るところを匍ひまわり、からみ附いて飽くところ無く發育してゐる偉觀を指摘せねばなるまい。この纏繞植物の中、特記すべきものに籐ボクシがあるが、これはアフリカ洲やアメリカ洲の熱帶には見られないものである。

其他、椰子科の植物も百數十種、棕櫚科、水龍骨科、芭蕉科、算へ上げたら限り無いが、松柏科の植物は一般に見當らない。まづ馬來地方に發育してゐる植物群中、約半分は此地のみに特有のものだ、といふから、此方面の研究は將來大いに期すべきものがあらう。

椰子と護謨樹のお話は後章に詳しく出る筈だが、こゝで一吋注意しておき度いのは、世に出てゐ



旅人木

る南洋紀行文に、多く所謂「扇椰子」と「旅人木」と混同してゐることである。これは大間違ひで扇椰子は棕櫚科の小さなもの、あの落陽を脊にして旗の如く幕の如く新緑の美を孔雀の尾のやうにひろげて立つ旅人木は芭蕉科の植物。忘れてもこれを扇椰子だの 'Travellers' Fan-Palm などと呼んで下さらぬやうお願いしておく。

動物。

動物分布は印度馬來區、乃ち北方タナセリム州タヴォイ地方（北緯十四度附近）から全馬來半島及び其の附屬島、スマトラ、ボルネオ、ジャバアの三大島を含む地域内に於て、ジャバアを除きては大同小異であり、特に平野動物に於ては何處へ行つても大凡同じものが見出される。

元來、此の區域の動物界は、世界中最も饒富密生してゐる林相を示す其の植物界の盛觀と相俟ちて、恐らく地球上最も繁榮を示し、南アメリカの赤道地方に於ける動物界を凌いで、其の種屬數も生棲實數も世界一饒多と稱してよからうと思ふ。また、當地方と西アフリカ地方の動物、殊に鳥類、昆蟲類の不可思議な相似は動物分布學上未だ充分に説明が出来てゐないし、第一、人類發祥の地點が恐らく當地方であるかも知れないといふこと、ジャバアから出土した直立猿人 (*Pithecanthropus Erectus*) と、現在の類人猿との比較解剖學なども興味ある研究であらう。

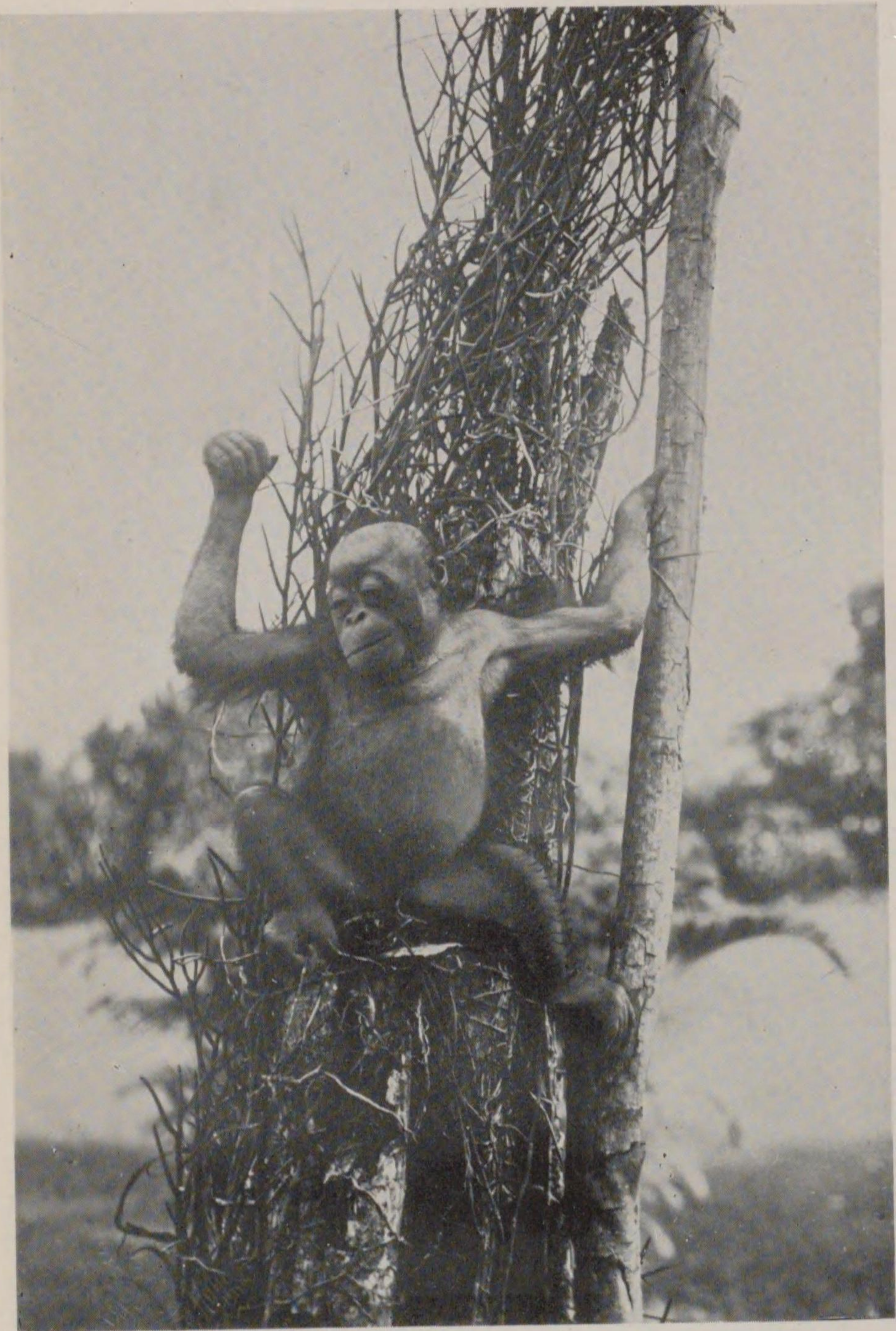
一々の動物に就て説いてゐては此の小冊子を百冊費して尙足らぬであらう。唯、編輯委員の一人

は聊か動物分類學に志あるまゝ曾て馬來半島の動物に就て小論文を發表してゐるから、以下二三の當方面生棲動物に就き通俗的な説明を試みやう。詳細は卷尾に掲げる文献一覽を御参照の上、ゆつくり御研究が願ひ度い。

第一に哺乳類であるが、先づ類人猿が三種、其の最も巨大且つ稀有なるのは大手長猿、俗に *Siamang* と呼び、主としてスマトラ島に棲むが、半島方面にもペラ州の北部、セランゴール州、ネグリスマラン州あたりで見かけるといふ。手が割合に短かく、といふても其の巨大な體軀に比して割合に短小といふ意味で、兩指端の間隔が一米六〇以上といふのは、さまで珍らしく無い。これを「森の人」(*Orang Utang*) とよぶのはよろしいが、ゴリラと混同されぬやうに願ひする。ゴリラは西アフリカに棲んでゐる奴である。

も一つの類人猿に小型の所謂ギボンといふ奴がゐる。其の鳴聲から土人は *Uwa-uwa* とよぶが、よく馴れて可愛いものである。

其他、印度の神話に出て來るハヌーマン猿とか、少し音痴な人間よりは遙かによく働きもするし役にも立つて——例へば椰子實の採集などに——感心な *Macaca nemestina* 等はじめ、無尾の猿、有尾の猿、かぞへ上げれば限りも無い。就中、擬猿類で一見ナマケモノによく似てゐる猫猿といふ奴、丁度日本で三毛猫を珍重するやうに一種のマスコットとして馬來の舟乗りが愛育するが、これなどもお土産話の種であらうか。兎も角、この地方は、猿に近い人間も相當棲んでゐる、と言



「森の人」(*Symphalangus Syndactylus Continentis*)

つたら失言であらうが、人間に近い猿は盛んに澤山ゐると思はれ度い。

肉食獸のうちで虎だけは是非とも御紹介申上げておかねばならぬ。今年は寅歳である。

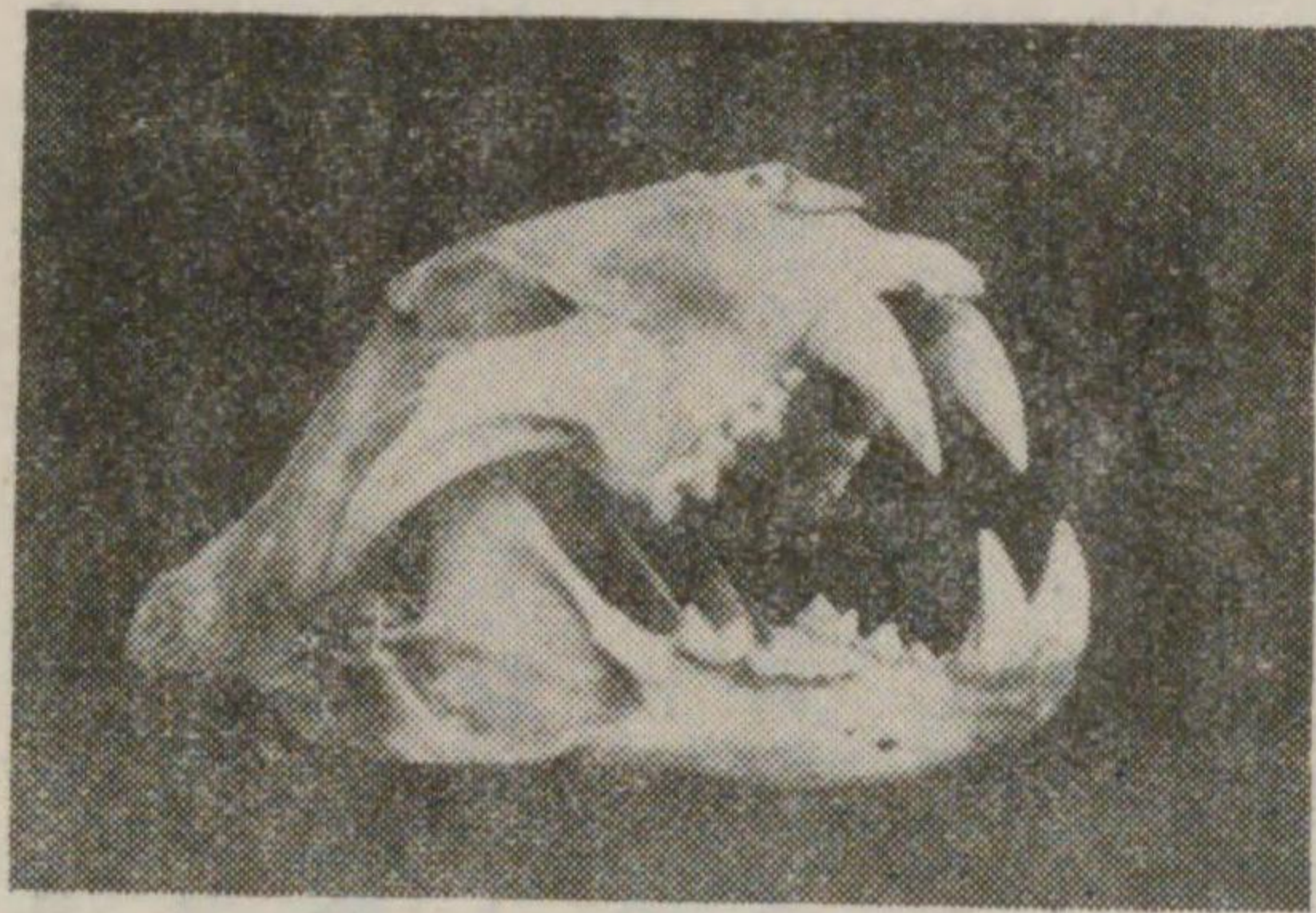
馬來半島に生棲する虎は其の名が世界的に大であるにも拘はらず、體軀の大きさは實は印度産の大形の奴にさへ劣る位で、勿論、滿洲や朝鮮産の巨大なものには比すべくも無いが其の猛性は恐らく世界無比で、立派な論據の上から、象を除く他の如何なる陸棲動物も馬來虎の暴猛には敵し難く、獸王と呼ばれる獅子が、この地方に一頭も生棲せぬのは虎のために漸次驅逐壓迫されて絶滅し去つたのであるといふ推測を爲すことさへ出来るし、又、アフリカ洲に獅子が覇を稱へてゐるのは畢竟其の地方に虎が生棲してゐないからだと結論してゐる動物學者さへある。むろん、これはロジックからは聊か物言ひが附かうが、とに角、公平に考へて虎の方が獅子よりは遙かに、遙かに、である。強いのだ。

當地方では虎は主として高地、隨分一〇〇〇米以上の高山地帯などにも生棲してゐるがまた、海岸の平地、沼澤地帯などにも出沒する。畢竟、常に鹿、野猪などの多産するところに虎も亦多棲し、かなり潔癖で山奥でも多くは溪流などに沿ふた多少の平地とか、とに角、足場のよいところを撰んで横行するらしい。これは一つは前申す如く餌獸たる小動物の居るあたりに虎も生棲する、といふ自然の理で、従つて千古斧鉞を知らず、は勿論だが、例のヂヤングルと呼ばれる蠻境でも、齡知らぬ巨樹すきまも無く聳え、蔭かげら、名もさだかならぬ雜草深く埋もれて、天日ために暗く、瘴氣

みなぎり溢れて涯も無いあたりには、猛獸毒蛇どころか、一性一青の動物を見ないかも知れない。多少高級な動物だと、必ず「相當な」餌が必要なのでこれ無くして生きてゆけないのは自明の理、特に肉食獸に於ては申すまでも無い話である。

だから斯様の蠻界を脊景としてのお話なら、象狩、犀狩、ウワバミ退治位のところにとゞめておいて、夢々、虎狩りに及ばれぬやう願つておく。況んや馬來半島奥地ヂヤングルの唯中、底無し

「虎」(Felis Tigris)



湖水のほとりなどで、過つて獅子など退治するに於ておや、である。因みに、印度馬來動物區でもボルネオ島には虎は生棲しておらぬ。或る相當知名の人のボルネオ奥地冒険談に猛虎と大格闘の段があつたが、あれは眞つ黒な嘯である。御用ぬなきやうに。こんな工合に書いて行つたら限りが無い。少々さきを急ぐ都合上、あとは簡略を宥され度い。

これは動物分布學で無くて或は人文地理か宗教學の領域かも知れぬが、馬來人と狗、及び猪との因縁話。

當方面には野犬、又は狼とも稱すべき所謂「森の犬」、俗に *Sit-sala* といふ奴がある。例のシエフアードとかアルセイシャンとかいふものと同じ系で、特に印度の *Dhole* 狼に近似してゐるが、赤色調の美しい體毛と、多毛の大

きな尾を持つた立派な犬、これが半島の北部、ペラ州、パハン州ではさまで稀で無い。時折、新嘉坡市でも見かける巨大な犬、赤色の體毛と金黒色の房々とした尾を誇らかに振り立て、横行してゐるが、山野ではこれが數頭乃至十數頭、群を爲して出沒し、羊、山羊、家畜などは愚のこと、時には水牛などさへ襲ふ位で、土人はこの野犬群を遠方からでも見たら、それこそ非常に恐れ怖れて、また傳説的に甚だ不吉なりと考へてゐる。で、萬々一不幸にもこの犬を見た時は、唯速かに口を開いて舌を露出しながら一目散に逃げ去るべく、若し當方で口を開くに先だちて犬の方で舌を吐いたら、それで萬事休す、一ヶ年以内に必ずや一家破滅、人生の最大不幸を見るであらうと思ひ込み信じ切つてゐる。

この種の迷信は馬來人だけで無く印度人間にもあるので、乃ち、印度人に言はせると右の野犬が排尿するところを目撃すれば近い内に必ず失明するとか、又、かゝる魔法を有する惡獸であるから、時に豫じめ樹木の幹、草原の繁みなどに放尿しておいて、人又は他の餌獸などがそれに觸れて失明するのを手を打つて喜んでゐる、など、眞面目に説き立てる。とも角も、犬といふ奴は回教徒、ヒンズー教徒などには、けしからず不吉な獸となつてゐるらしい。反之、羊は支那人同様に吉祥多様な良獸として知られており、豚を喰はぬ回教徒も羊は欣んで喰ふ。従つて筆者考ふるに「羊頭を掲げて狗肉を賣る」といふ言葉は支那本部から來たので無くて或は寧ろ南洋在留の支那人が言ひ初めた警句と見るが當つてはゐまいか。實際、新嘉坡市内などで、到るところに文字通り羊の生首を俎

上に飾つて衆客に示してゐる羊肉商が居るから注意して見て頂き度い。

猪、乃至、豚はまた回教徒としては悪性汚穢此上なき不愉快なる存在として忌み憎まれてゐる。馬來人に取つては「汝は豚也」、バビ也、との一言は死を以て争はねばならぬ侮辱で、忘れても此地で口を亡らしてならぬタブーである。であるから、曾て中支南支で盛名を恣まゝにした某邦商發賣の蚊遣線香が當方面で一向賣れぬ、藥屋さんに言はせると、あの渦卷線香輸入以來、客足が半減したといふ。不思議だ、そんな筈は無いが、といふので實は此の筆者も時の南洋協會當局者からなど相談を受けた次第であるが、初め考へたやうな熱帯に於ける品質の低下とか効能の如何、などでは無くて、實に、禍の源は其の野猪印、御叮嚀様にも馬來語でバビ、ウータンと説明までしてあつては、これは馬來人に取つては大禁物、むしろマラリアに罹つて死ぬとも此の一箱を手をせぬのは當り前。まことに笑ひ話では無い。當方面御觀光の諸賢も、どうぞ、斯様の方面も一應御氣をとめ頂き度いと思つたまゝ、お話は少々岐路に入つたがかくの如くである。

まだある。

事の序に述べさせて頂き度い、といふのは牛のことであるが、牛は印度教では神獸、人間様よりは遙かに神聖な吉獸とされてゐて、牛肉を喰ふなどは以ての外は勿論、御牛様の寝そべつて御座るところなどは遠廻りして合掌低頭してゆくのが印度人。曾て筆者の學兄たる外友であるが、例の種痘法、印度に天然痘が多いのでその豫防法徹底を期して盛んに種痘原理の宣傳と種痘接種の強制を

劃したのであるが、初めは宜しかつたが其内、任務に忠實な餘りか、種痘痘苗の調製法まで公開して大衆を教育せんとした。こゝに禍あつて、痘苗なるものは牛痘から調製せられ、先づ病毒を牛體に植ゑて發病せしめ、これを屠つて——我國では一々牛を殺さぬが、外國では殺す場合が多い——其の痘汁を掻き取り、法の如く痘苗に調製するところを教へてしまつたため、印度人ども、ふるへ戦きて恐れ、もう一人も種痘を受けに來ない。で、痘瘡一元論といふ學說を根據に、今回は羊痘を以て牛痘に代へたので、今は一同大安心、よろこんで文明の恩澤に浴してゐるといふ話、どの邊までが本當か知らんが、とに角、味のある話、近頃は醫者も衛生屋も意外のところは神經を使はねばならぬ、といふ一例である。

お話が思はぬ邊にまで脱線してしまつたが、もう少し動物の話をつゞけさせて頂く。

馬來の大野牛、即ち土語で *Seladang*、これは印度産の典型的な野牛とは細部に於て多少の差はあつても、先づ同一系、今では絶滅に近いところもあるが、パハン州、ペラ州、ネグリスマラン州、ジョホール州にも、まだ相當数が残棲してゐて、唯、植林地などを荒らし廻はるほどのことは無い程度に減少した、といふ。性質は相當に兇暴で、他の一種たる土名 *Sapi*、といふ奴と共に知られてゐる。

馬來象は印度象ほどには巨大で無いがスマトラ象、セイロン象よりは立派で、象牙は一對で四〇キロ以上の目方のも珍らしく無い。ペラ州などでは家畜として馴らして勞役などに使役してゐると

ころもある。

犀は二種あるが今は共に甚だ稀有のものとして野獸保護法の下に捕獲を禁じられてゐる位、特に單角犀は非常に尠なくなつた。

海牛類のザンノイヲ、乃ち儒艮ヂユゴン、俗に人魚といふものは新嘉坡近海にさまで珍らしく無い。捕獲すると悲鳴をあげ涙を流して身の不運をなげく、といふ話まではよいが、其の涙から一種の貴重な「惚れ藥」を作るといふ話は、どうかと思ふ。

鯨類としては近海には抹香鯨がゐる他、所謂南洋鯨、小鯨、といふものなどもゐる。

當方面には鳥類は總計六五〇種も居り、何も地理的に鳥類の生棲分布が變つてゐるとも思へぬが、とに角、ネパール高原、印度支那、暹羅あたりの山間に生棲する鳥で、他地方の低地には餘り發見されぬものも見られる。

凡百の所謂「獵鳥」と總稱せらるゝもの、何でも思ひ切つて豊富に生棲してゐるが、不思議に鳴類は少ない、僅か七、八種位であらう、しかも折々眼に觸れるのは其の二種位でマガモとコガモであるが、パハン州とペラ州それから新嘉坡市内でコガモを見る事がある。夜禽類も數が多く無い。二十種位のものであらう。ミミヅクは主として蠻林に棲むが、その小型のもので好んで月夜に飛翔して來るもの、冬期のみ飛んで來るものなど、馬來のお伽話によく出て來て「戀を守る鳥」だと

いふ。鸚鵡も數が少ない。特に黃冠鸚鵡(キバタン)といふ奴、所謂 Cockatoos は、元々馬來半島には生棲してをらぬのを、よく誤り傳へて問ひ合はせて來る。

當方面で寧ろ郷土的に主要なのは大角鳥科の、俗に「犀鳥」などと呼ぶもの、これは名のやうに見事な犀角様の大いなる嘴と硬い雞冠は、時には其の全體長の半分にも及ぶ位に立派に發達してゐて一見忘れ難き奇鳥であるが、其の飛ぶ時は羽はゞきの音よりも寧ろ巨大な嘴で風を切る音が随分遠方まで鎗矢のやうな音を響かせて一種の奇聲を放つのは誠に盛觀である。

鳴禽類は三〇〇種以上居るだらう。とても一々其の名さへ此處には擧げ兼ねる。

次で爬蟲類であるが、第一が鱧、これに三種を見るが、河鱧 (Crocodylus Plaustris) は甚だ稀で北部の、つまり暹羅方面にのみ居るが、馬來鱧 (Tomistoma Schlegelii) 乃ち俗に Gavial と云ふ嘴の細長い奴、これは多く矢張り魚族を喰ふてゐるもので犬や猫をとらぬ河鱧、主としてパハン州、ペラ州、セラシラン州などの河邊に澤山居て、大きいのは體長四米突もある。一番普通に知られてゐるあの醜惡な鱧口を商標として旅人を脅かし銀座人種のかなやみの種になる例の鱧、これは河口鱧とも呼び度い、或は入江鱧と名づけたらよいかも知れぬが、學名は Crocodylus Porosus、小は墓口から大は近頃トランクまで御用をつとめ、良質の皮革として知られてゐて、大きな奴は體長七米突以上もある。

鱈によく形が似てゐる大蜥蜴、馬來語では Bivayak といふが、時に體長二米突といふ立派なのがゐる。英國人はこれを誤つて Iguana と呼んだりするが、それは西半球にのみ棲む奴、當地のは寧ろ東半球特産の Agama に近す。これも亦其の皮を剥いで或は誇らかに抱きかゝへてよろこび、又は、草履に製して珍重する貴婦人もある。

俗にカメレオンとよぶ奇妙な動物、Came Leon だから「樹上の獅子」、馬來人はこれを Sumpu- Sumpu といふが「呪咀者」といふ意味、其の口の開き工合が、いかにも人の悪口でも云ふてやうに見えるからであらう、平生は美しい緑黄色で、怒つたり感情が激發すると褐色、乃至黒色に變調する。大きいのは五〇センチ位のも居る。(凡て動物の體長は鼻端から尾端までを測る)

龜鼈類は約二十三種ほどが當地に棲息するが其の最も巨大なる奴はオサガメ (Dermochelys Co. racea) で、マラツカ海峡などでよく捕へるが、體重實に一〇一六キロ、乃ち一噸以上、二百七十何貫といふ莫迦々々しい大きさ、龜甲の長徑三メートルといふのが捕獲されたこともある。其他、食用になるアヲウミガメ、それから玳瑁と稱せられるのを初め數種の所謂「鼈甲龜」、マラツカ海峡でも捕獲するが東海岸でも相當とらへてゐる。

陸棲の諸龜は約十五種ほど棲息してゐるが、それよりも陸棲のものでは蛇類について多少の記述が必要だらう。

この地方には約一三〇種の蛇が棲んでゐて、一般に有毒、有害なものが尠ない、特に有毒蛇といふものは甚だ少ないのである。

美事なのは錦蛇ウツバだらう。體長一〇米突に及び、雞、小鹿、豚、犬等は愚かのこと、時に牛や馬さへ捕食し、曾ては虎を襲ふて食つた話さへある。皮は美術品に、膽は貴重な漢藥として引きとられ、肉は一キロ十錢見當で新嘉坡市内でも時々賣つてゐる。そのスープは美味比すべきものが無い。

毒蛇は當方面に甚だ少ない、と述べたが、印度に於て Vempela Moorikan 即ち「暴君」といふ名で恐れられてゐる例のコブラ、或は其の最も畏怖すべき一種 King Cobra も居る。Hamadryad といふ本名であるが眼鏡蛇ともいふ。大きいのは體長四米突に近いといふが左様なのは稀有で、多くは二米突迄、但し、その一撃を受けたら即死である。

其他、勿論有毒蛇は相當生棲してゐるが、一々の詳説は割愛することにして最後に少し昆蟲類。全世界中、熱帯アメリカを除けば馬來地方の如く多種多様の蝶蛾の棲息してゐるところは無い。馬來半島の全面積は大凡二五〇〇〇〇方キロメートルで英本國の全面積約二四五〇〇〇方料に伯仲するが、英本國に生棲する蝶蛾の類、總計凡そ六〇種といふのに較べて當方面には約八〇〇種も居る、といふだけでよくお理解と思ふ。

有名な Alfred Russel Wallace の業績中特に大いに思ひ度いのは此の馬來の地を蛾に對して殊に注意すべき地なりと世界に紹介せられたことであつて、氏によつて世に出でた偉大美麗なアトラ

ス蛾 (Atlas Atacus) など、赤褐色の錦の如き翼は兩端間が三十センチメートルに餘るものさへある。

其他、擬態、警戒色、保護色など、思ひがけない造化の妙技を示してゐる數十の珍昆虫もあるが、魚類以下の記述と共にこゝには割愛のほかあるまい。

序でに、これは當方面觀光の中等學校學生諸君などに申上げる。斯學の専門家は一笑黙過されて然るべく、必ずしも一喝道破までの勞を煩はすまでもあるまい。即ち、簡単な小動物植物標本の作り方概要である。

植物の方は兎角、その花、葉などのみを保存されるやうであるが、出来れば全體としての標本を作られ度い。乃ち、或は細枝のまゝ、或は根なども共に持ち歸へられて、先づ叮嚀に、原形を崩さぬやう新聞紙の間に展して一枚一枚重ねてゆき、上に軽いおもしろを載せて、日光の直射を避け、通風をよくしておくのであるが、これは除濕と共に新聞紙に含んでゐるインクの爲めに適當に消毒されるといふ効がある。だから贅澤をやつて新らしい吸墨紙などを用ゐるのは寧ろ愚である。但し特に水分の多いもので除濕の必要一層なるものにおいて先づ吸墨紙を用ゐるもよろしからう。その新聞紙なり吸墨紙は勿論だが、標本を挟さみ展した紙は毎日必ず新らしいものと取り換へることが必要であつて、かくして一週間を経過すると標本は工合よく乾いて所謂「押し花」が出来上る。これ

を畫用紙の上に形よく置いて細い紙片で所々を帶止めし、紙の裏面に學名、俗名、採取地點、月日、其他を記入しておくこと法の如しである。

右のやうな標本が數枚出来たら適當の箱に納め、濕氣をさけて保存するが、念の爲めホドヂン錠、ナフタリン球などを入れておけば一層結構、先年、或る中學生が何か珍奇の植物を二三枚の葉と共に採集し來つてボール箱にそのまゝ納めおき、さて、諸所見物の末、歸航となつて宿屋の荷物中から件の小箱をとり出して、それでも一應調べるつもりで開いてみたら植物は影も形も無く一條の裸蟲、何か蛾の幼蟲だつたらしいが頗る醜惡な奴が蠢ごめてゐたので腰を抜かし、危く植物の進化論の一新學説を樹てるところだつたといふお話、何を言やがる、とのみ御嗤ひ下さらぬ様に。山の芋が鰻になつた昔話さへあるんだから。

次は動物であるが、小昆虫、即ち蛾、蝶、などの類は當方面には前述の通り頗る珍奇なものが豊富である。翅を傷けぬやうに上手に押さへて毒壺へ幽閉し度いが、青酸加里ソングライヘンなど用ゐるまでも無く、その毒室の方に筆者常用の左記殺蟲殺菌劑を綿花にしめして入れておいてもよい。即ち

クレオソート 一〇・〇

ナフタリン(末) 五・〇

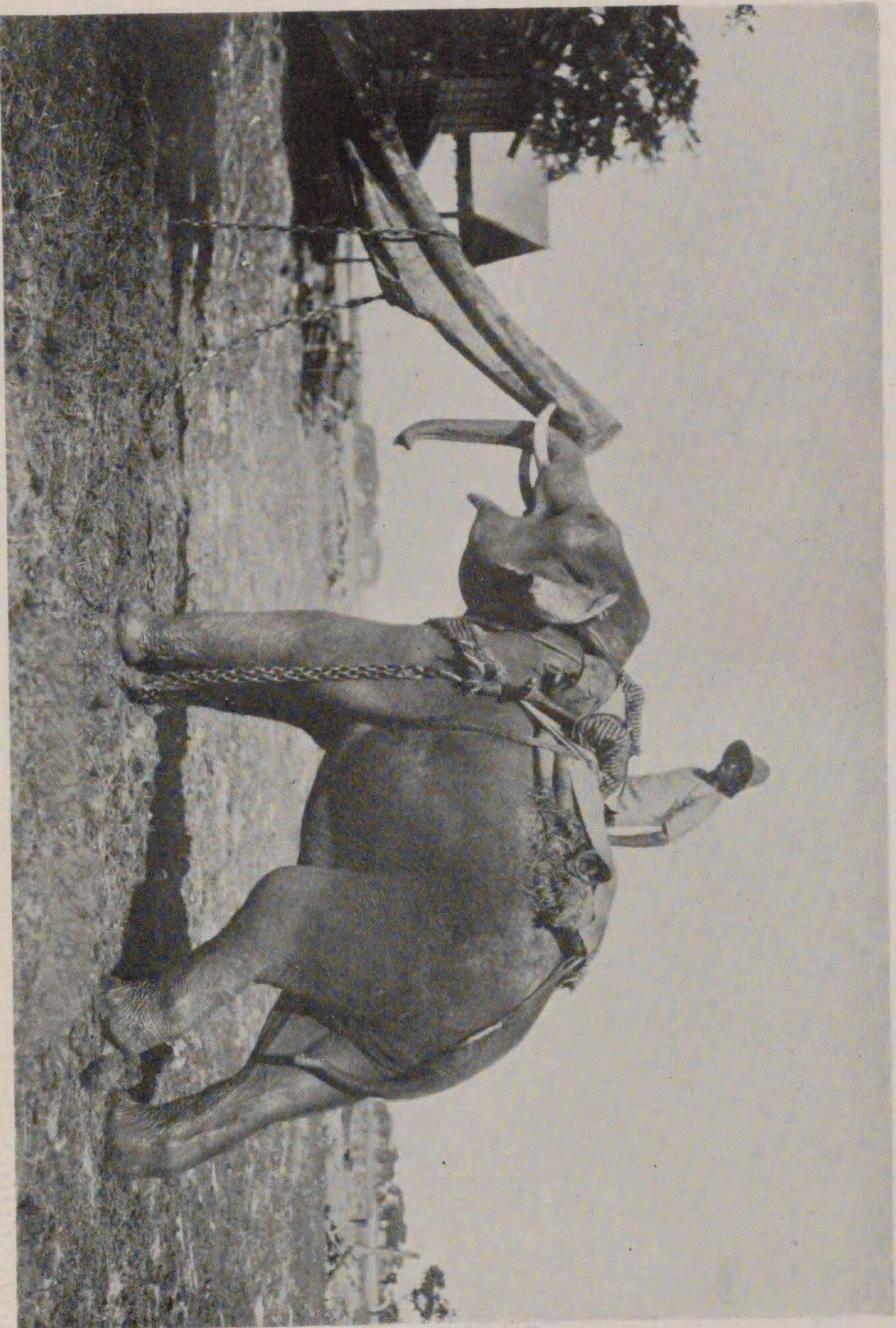
ガソリン 八五・〇

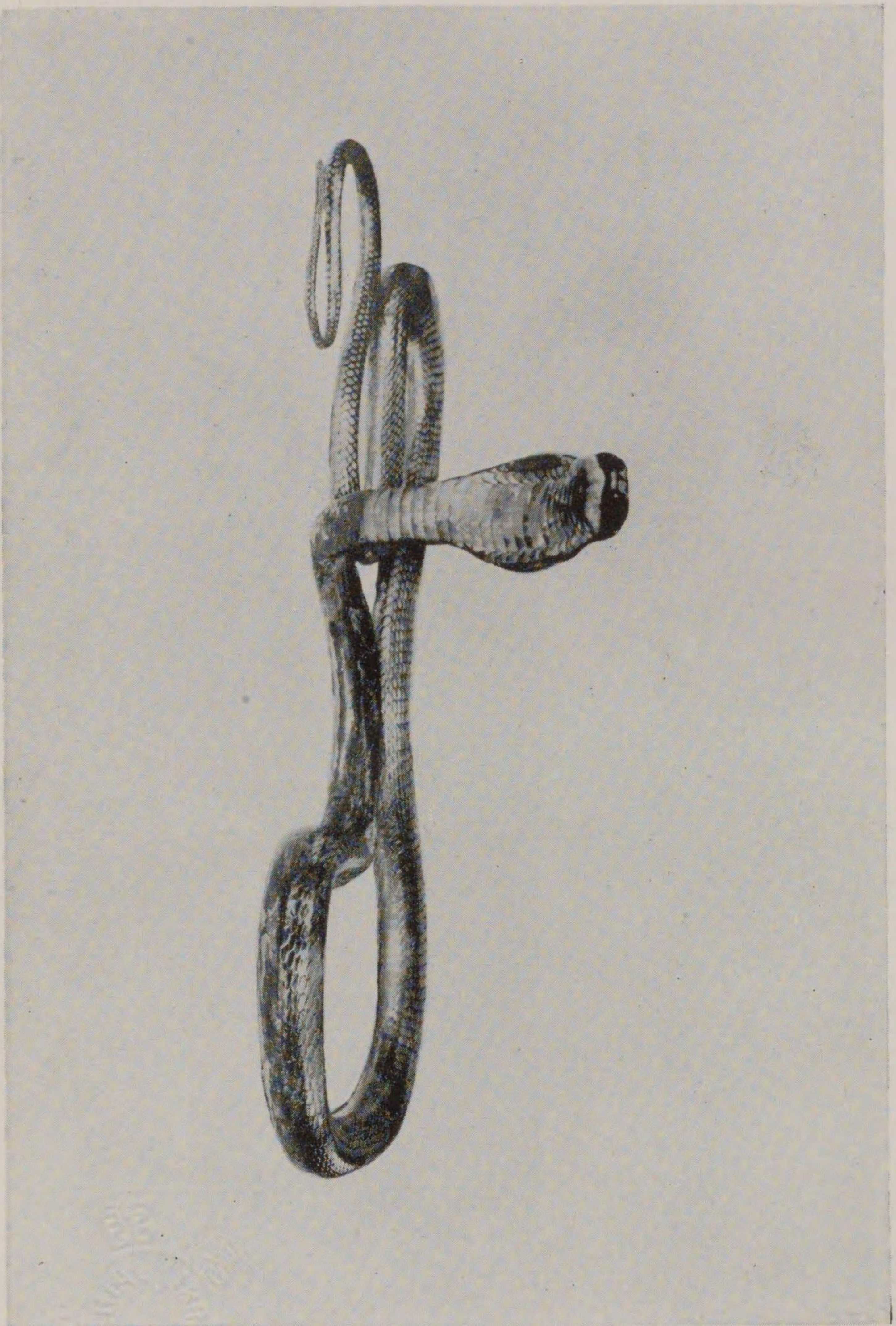
乃至、他の既製いろ／＼の蠅取粉、殺蟲液などのうちにも用ゐるに足るものがあらう。但し、大凡

は火氣嚴禁で、いづれも引火點は非常に低いから用心して頂き度い。但し或はまた旅行中など毒壺の用意ある人は稀であらうから、一層簡單には、あまり大きく無い標本なら指で胸のところを横からつまんで一寸押せば窒息——といふよりもショックで——大凡は即死する。強く摘まむと形も崩れる、指も汚れるから御注意。或は眼と眼との間をピンで一と刺しても簡單に處置出来る。

標本は、例へば *Atlas* 蛾のやうな大きな奴にあつては腹部を縦に切開して内臓を除き、綿花に酒精を含ませて清掃した後、一滴の前述クレオソート液でも滴下した適當の形の綿塊を入れておけば結構、同時に翅を破つたり鱗片を落したりせぬ用心は申すまでも無い。展翅して法の如くに固定した容器中にはナフタリン球、ホドデン錠の二三個を入れておくがよいし、一層確かなのは前述のクレオソート液を綿にしめして小瓶中に入れ、栓に小孔を穿つて適宜に殺菌劑の蒸發を期するがよい。筆者は常に點眼瓶の小さな奴（勿論ゴム帽を除いて）に該液を少許入れて箱の中に轉がしておくが、液の漏出することは先づ無いし、充分量の殺菌蒸發があつて寔に便利である。も一度申上げておく。この殺菌液は引火點が低い。研究室内で喫煙は御遠慮下さい。

幼蟲、孑孓、などはそのまま試験管内に酒精かフォルマリンに漬けて持ち歸つてよい。念を押します。酒精は六〇度程度が一番殺菌力が強い、無水酒精は殺菌の力は皆無であることも忘れぬやうに。又、フォルマリン水は三〇倍のものを使ふ。龜の卵や、蛇の卵、これ等は殻に小孔を穿つてから三〇倍のフォルマリン水に投入しておくが、鉛筆で殻の上に簡單に番號を書いておき、手元の控

マレー象 (*Elephas maximus hirsutus*)



キングコブラ
(眼鏡蛇)

(Hamadryad; 俗に Cobra de Capello; 更に
印度人間にては Vempela moorkan (暴君)
として知らる)

帳と照合することにされるとよいと思ふ。

尙、南洋方面には羊齒類の植物も多いが、此等のものゝ葉の裏にある孢子、又は、蝶蛾の翅の鱗片も同じ方法でよいが、斯様のものを自然の形態のまま移すには、アラビアゴム漿、或は鶏卵の白味を白紙に塗つて、靜かに平らに押しつけて捺染してしまふと簡單である。硝子板を酒精で清洗し、卵白を塗つて蝶蛾の翅を靜かに押しつけて鱗片を移し、バツクグラウンドに黒色の紙を當てたものは小額として永く机上を飾るに足り、以て久しく新嘉坡の一日を回想するに宜しからう。

それから、標本で思ひ出すのは、先達て關西の或る中學生氏から當方面産の蟬の標本一と揃へ欲しいがとの御注文であつたがこれは無理である。當方面には日本に居るやうな蟬は居りません。又考へてみても下さい、僅か二ヶ月間位の内地の夏でさへ、あの耳を聳するまでの蟬の鳴聲には降參のほかないのに、それが一年ぶつ通しだつたら、而して、一生の間休みなしに續くとしたら。

此の正月中、訪歐の途上お立寄り下さつた相當偉い先生様だが、胴蛇、と示された迷歌一首。

「ふるさとは雪に閉ぢてや更けぬらん椰子の葉がくれ蟬のこゑきく」

御氣の毒様乍ら地理學も動物學も美事に落第。ふるさとはどちらか忘れたが日本の内地なら時差は一時間四十分で、雪に閉ぢて更ける頃は御當地も月傾ける夜半近い筈、遠く來た割合に時間は遅れてゐません、シベリアの旅とは違ふと御承知あり度く、また、椰子の葉がくれには蟻は居よう

が蟬は前申す如くの次第、この歌、夢々御採用なきやうに願つておきます。

文化史

(一) 原始時代

南洋の原始時代、密林荒野の秘境に棲息してゐたのはネグリト族で、其の馬來半島に於けるものは一般にサカイ族と呼ばれてゐる。彼等は未開の蠻族で、現在では纔かに半島奥地の山間に半獸半人の原始生活を營なんではゐるものゝ其の數は極めて寡ない。

サカイ族に次で印度支那方面から南下して來たのがジャクン族といふ連中で、馬來半島、スマトラ、ジャヴァ兩島に廣く分布し後にこれが

(イ) ブキスマラユ族

(ロ) アチエ族

(ハ) メナンカバウマラユ族

(ニ) ジャヴァ族

の四族に分れて各地に棲んだ。右の内、第一のブキスマラユ族といふのは航海漁業に長けて、自然、海賊を事とし、第二のアチエ族は遊牧の民で、主としてスマトラを中心に馬來半島にも移住したが、此の二族は比較的當時としては高度の文化を有してゐたに拘はらず其の後裔は餘り振はない。他の



原住馬來土人

二族、乃ちメナンカバウマラユ族とジャヴァ族のうち、前者はスマトラ島に於てパレンバン王國を建設した後、馬來半島に渡つて現在の馬來人の祖をなし、又、後者は文化最も開けてジャヴァに於てマタラム王國を建てた。

(一) パレンバン王國の發祥

現在の馬來人に取つて遠い御祖と崇められるべきメナンカバウ王家は、サン・スペルバ・トリムルチ・トリプアナといふ王様によつて興された。彼は、西曆六〇〇年代に、スマトラ島パレンバン部落脊後の密林丘上に現はれてパレンバン河が沾ほす肥沃な草原を指さして自ら王の名を宣したが、原住民の土人酋長デマング・レバル・ダウンといふ者の女を娶り、其地一帯の統治者として盛名を馳せた後、スマトラ縦貫山脉を横斷して、メナンカバウの地に進出し、こゝで惡魔以上に畏怖せられてゐたシカチウムラといふ大蛇を退治して威勢四隣を壓し、乃ち、衆望を負ふてパレンバンとなり、後のメナンカバウ王家の祖を爲したといふ話。其後、パレンバン王國は漸く國威揚つて遂に海峡を越えて馬來半島に及び、八世紀の頃には今のマラツカ附近を征服して先住民族たるサカイ族を降し、ペラ河の流域地方を中心に次第に發展して十世紀頃には其の王はパレンバン及びケダ王と稱し、やがて、トレンガヌ、ケランタンの兩州をも其の版圖に加へ、更に一二五五年には遠くセイロン島をも攻略して大勢力を築くに至つたが、其間、或はジャヴァ人の侵犯を受け、或はシヤム人

リガウなる者の遠く寇し來ることなどもあつて、時に國歩の隆替はあつたが、とも角も久しきに亘つて馬來半島に君臨してゐたのである。

(三) シンガプラウの創業とジャヴァ人の來寇

これよりさき、西紀一一六〇年の頃、メナンカバウ王家の一族、サン・ニラ・ウタマ王といふ者、パレンバンより海を起えてテマセク島に渡り來り、こゝにシンガ・プラウの町を建て漸次繁盛を加へ來つたといふが、これが現在の新嘉坡のことで、其の名はサンスクリット語のシングハ(獅子)と、プラ(町)の二字から來たといふ話、或はプラウは舟、乃至プラオで島の意といふから、外海から見た島の形が臥せる獅子に似たりといふ説と、獸王獅子の如き大王の治める町、といふ意味、どちらでも一向差支へ無い。とに角、獅子といふものは馬來人は話にだけ聞いてゐて實物を知らぬ、印度にも居ないから、これは佛典乃至傳説から來てゐる獅子とも解すべきだらう。若しそれサンスクリット語でシングハとは更に「潜める力」、「根強き威光」などいふ意味もある由であるから、新嘉坡の今日を祝つて先見の明、八百年前、かくは名づけたとすればウタマ大王も亦相當の者である。新嘉坡市の公式紋章は卷頭に掲げた如く獅子樹下の獸王であるが大體、西洋の獅子は尻尾の揚がつてゐる奴と下に垂れてゐるのがあつて前者は大英帝國多くの獅子像これで、又、白耳義あたるのは尾を垂れてゐるのをよく見かけるが、こゝのは尾がS字を爲してゐるところ、圖案者の頭の

よさもしのばれる、などいふのは買ひかぶりかも知れぬ。

其後、シンガプラウは幾度か戦火に禍ひされたが、結局、五人の酋王を以て交々統治せらるゝことに協定が出來て、パレンバン王國に隸屬しながら他方、南部支那と政治經濟上密接な關係を保ち、相當殷賑な海港として知られてゐた。恰も當時、ジャヴァに在りては佛教徒がバラモン教徒を驅逐して勢力を得、多くのヒンヅージャヴァ王國といふものが建てられたが就中、ジャヴァ東部を領有して中部に於けるマタラム王朝と並び稱せられたマジヤパイト王國といふのは國威國光愈々揚がり、遂に師を起してボルネオ、スマトラを攻め、パレンバン王朝を仆した餘勢を以て、來つてシンガプラウをも侵し、殺戮掠奪を恣にし、更に馬來半島南部を席卷して大いに威を振ひ、爾來百年、この附近一帶あげてマジヤパイト王國の威に靡くことになつたが、この時の新嘉坡に於ける四民塗炭の慘苦は言語に絶し、大殺陣のあと、全島の土みな血を含んで眞つ赤に染まり、今に此地は一面赤褐色の荒土で、鬼哭啾々、怨靈の祟りで今だに絶對に米が稔らぬと傳へてゐるが、話は一應御尤もとして、こゝの地表は元々赤色のラテライト層でして、などいふ無風流にぶちこわす必要もあるまい。かくて後、シンガプラウの地は一時全く荒廢に歸して四百五十年、文字通りに忘れ去られてゐたのである。

(四) マラツカ王國の建設

一方、辛くも戰場を脱出したシンガプラウ最後の王、イスカンドル・シヤアは、恨みをのんでマ

ラツカに逃がれ、サカイ族其他の土族を驅逐してこゝに第二の故郷を建てたのであるが、其後このマラツカの地は不思議に累年發展の一路を辿り、スマトラ北部のパラク、パサイ、などの町々から繁榮を奪ひ取つて、南海隨一の商業都市として十五世紀から十六世紀の初め頃、隆昌其の極に達したので、既に十五世紀の初め頃からマラツカ王國といふものが出来、更に、セランゴール、ペラ兩州を従へるに及んで、スマトラ島のメナンカバウマラユ族は續々此地に來り加はり、マラツカの地は日を追ふて殷賑を極めるに至つた。

此間、十三世紀末葉、スマトラ北部のアチエに來つたアラビヤ人等は交易の旁ら熱心に回教の布教に努めたため、コーランの教は燎原の火の如く擴がつて忽ち、ヒンズー教、佛教の勢力を奪ひ、スマトラをはじめとして馬來半島、ジャヴァ一帯すべて回教に歸してしまつたが、其後、マラツカ王國の王族が半島各地に分封せられて幾つかの王國を創めるに及び回教の勢力も愈々僻遠の地まで及んで行つたといふ。

かくて十六世紀に至るまで、南海の天地は主としてジャクン族の舞臺で、大略、右の如き變遷を見たわけであつたが、こゝに十六世紀を迎へると共に所謂、西力の東漸といふ宿命的な悲運の下に民族の衰頹、國史の暗轉を見るに至つたのである。

(五) 葡萄牙人の侵入

即ち、十五世紀の後半に端を發した西歐諸國の海外發展熱は十六世紀に至つては頓に熾烈となり、一躍巨利を夢みる東洋遠征隊は相踵いで印度、馬來、瓜哇各地に押し寄せ、こゝに歐洲諸國の南洋蠶食史が展開されたのである。

彼等のうち、まづ馬來侵略の先鞭をつけたのは葡萄牙であつた。西曆一五一〇年、葡萄牙の戦艦四隻は司令官セキューラに率ゐられてマラツカに到り、國王マホメットに謁して貢賄を齎して通商を請ふたが、マホメット王も大いに欣んで兩國の和親將にならんとした時に、從來マラツカの商權を一手に握り、自ら南海の商王を以て任じてゐたアラビヤ人等は、これによつて彼等の地位を奪はれんことを虞れ、頻りに王に説いて歐人擊攘を奨め、王もまた遂に彼等の言を納れ、密かに謀り詐つてセキューラ等の鑿殺を企てたが事成らずして葡萄牙艦隊は港外にのがれた。此の恰好の口實を擱んだ葡國は心中ひそかに機到れりと爲して、印度ゴア州總督アルブケルケをしてマラツカ王問責の軍を起さしめ、乃ち軍艦十八隻を以て突如來つてマラツカを襲ひ、民家に放火して王宮に迫り掠奪暴行の限りを竭し、さしもの半島三百年の繁榮を誇つた王都も一朝にして灰燼に歸し、國王は危く難をのがれてデヨホールに落ちのび、これが現在のデヨホール王國の源を爲したのであるが、其後、葡萄牙は此地を經營すること前後百三十年、銳意盛運の回復に努めたので、マラツカは再び往時の隆昌を見るに至つた。

(六) 和蘭の活躍

葡萄牙に稍々後れて東洋植民地の争奪戦に参加した和蘭は、一五九五年、ジャバを攻略してバタビアを中心とする發展の歩を進めたが、幾何もなくボルネオ、スマトラを収め、更に一六〇二年マラツカ海峽に葡萄牙艦隊を破つて馬來半島を抑へ、一六四一年には竟に多年垂涎の地たるマラツカを奪取し、茲に葡萄牙に代つて、はじめて南海に覇を稱へることゝなつた。かくて南洋一帯は兎も角も一時和蘭の有に歸したが、蘭人は本國のみの利益を圖るに汲々としてゐて只管誅求を事とし、經營宜しきを缺いた爲め、マラツカも漸次衰運を辿り、亞いで興つた英國の巧妙且強力なる植民政策に壓せられて、南洋の天地は三轉して遂にユニオンヂヤツクの下に靡くことゝなつたのである。

(七) 英國のペナン領有

英國と馬來との商業關係は十六世紀末より既に將來を約束するものがあつたが、其後、東印度會社が設立されるに及び、和蘭に對抗して南洋に植民地獲得を狙つたものゝ、當時の英國はまだ和蘭の敵では無くて、纔かにスマトラ南部のベンクレーン州を本據として雌伏し、一方、印度經略に全力を注いでゐたのである。が、やがて佛蘭西軍を破つて全印度を掌中に収め、東洋發展の基礎を確立すると、再び海峽地方に其の食指を動かして來て、自然、ベンクレーンの位置地形が東方經略の本據として價值極めて薄きを知るや、キャプテン・ライトをして急に他に好適の地を物色せしめ、

先づ當時、馬來半島北部のケダ州が宗主國シヤムの内亂に乗じて獨立を企てゝゐるのを好機とし、單身長驅してケダ州に赴き、國王に取り入つて深く其の知遇を得た後、半島北部に對して虎視眈々たる蘭、葡、丁抹等の諸國に先んじて事を擧ぐべく、本國政府、印度總督等に説いて進言畫策大いに努めたのであるが、時未だ到らずして其の建策も遂に中央の容るゝところとならず、ライトも失意の身をセイロンに隱退してしまつて、あとは和蘭の獨り舞臺と見えたが、ライトは勃々たる雄心禁じ難きものあつて、終に印度總督ヘスチングを動かし、其の命を奉じて再びケダに渡り、同州に對する保護及び賠償と交換に、彼南島の割讓を受けんと折衝を重ねること久しく、遂に目的を達して一七八六年八月十一日、この地に英國旗の翻るを見るに至つたのである。

かくて海將ライトの勳功によつて半島に足溜りを獲得した英國は、爾來着々勢力を伸展して、一七九五年、更にマラツカを攻略して海峽一帯より和蘭の勢力を驅逐一掃し、一八〇〇年には彼南島の對岸ウエルスレー州の地を買收し、越えて一八〇五年、彼南總督を新任して印度政廳の手より馬來植民地を分離し、獨立經營を行はしむるに至つたのである。

(八) 英、蘭の争覇

其の頃東印度商會は既に衰運に向つてゐたマラツカの將來に見きりをつけ其の放棄を決議して總督に進言した。ところが、こゝに敢然立つて其の非を痛論し、東洋經營の抱負を披歴して總督を動

かし、遂にマラツカの維持を繼續せしめた白面一介の青年があつた。これぞ乃ち今、新嘉坡市公會堂の正廳玄關前に銅像となつて南方赤道に光る潮を睥睨し、萬古不退轉の負けじ魂を眉宇に誇りつつ、享年僅かに四十四歳——甚だ几帳面な人だつたと見えて其の四十五回目の誕生日、乃ち西歴一八二六年七月五日が命日であつた——“*Vita brevis, Ars longa*”の古言の如く、語りつぐ人あらん限り、後の世かけて傳へ残る盛名と偉業の御本尊様、スタムフォード・ラフルス卿その人であつたのである。

サー・タマス・スタムフォード・ラフルスは、西曆一七八一年七月五日、折からヂヤマイカ沖航海中であつた其の父君所有の一商船々上で呱呱の聲を聲げたので、當時其の父、ベンヂヤミン・ラフルスは右帆船の船主船長一家を擧げて海上生活をしてゐたのであるが、後年、席温まるに違なく、東西に奔走して國事に盡瘁せられた卿の一生が海上を出發點としてゐることも、まことに海外開拓の先鋒たるに相應しい話である。但し、右様の次第であつたから幼時正規の學歴を履むことも叶はず、専ら父母の膝下、風と光と潮の香の裡に普通學一汎を習得したる後、二十四歳のとき東印度商會の一事務員として採用せられ、彼南支店勤務を振り出しに三年の後マラツカに轉任、この頃まではまことに唯、尋常平凡の人と見えたが、二十七歳の時、時の英領東印度總督——當時左様の官職があつたので——ミントー伯爵といふ人に從ふて秘書役たりし頃、恰度、前述した東印度商會がマラツカ港の將來性に見切りをつけ、これを放棄せんとして其の行政委員會決議案を總督に提出する



SIR THOMAS STAMFORD RAFFLES,
(July 5TH 1781—July 5TH 1826)

や、敢然として起つて其の不可を唱へ、熱辯、遂に總督に迫つて一旦成文とまでなつた右の放棄命令を危く署名直前に撤回するに至らしめたのであるが、當時、卿の力説した堂々たる東方經營論は總督並びに關係官民一同を大いに感服させ、爾後、一介の書生を以てして大英國東方開發政策の樞機に必ず參與するほどの信任を贏ち得たのみならず翌年總督に隨行して約四ヶ月間カルカッタに旅行中、帷幄に策を献じてジャヴァ討略を企畫し、全馬來行政權代行の印綬を帯びて、英兵凡そ五〇〇〇、土民兵六〇〇〇、計一萬一千の軍を引率、直路カリマン水道を突破してバタビアに迫り、殆んど一兵に衄らずして首府を攻略し、其の郊外コルネリスの一戦に大捷を收めて佛蘭西軍の首將ヤンスセンをスマランに追捕し、ジャヴァ全土を平定して其の副總督に任ぜられたのが一八一一年、齡三十歳の若冠であつたが、其後、僅々五年足らずの間に新占領地の治績大いに見るべきものあり、關稅を三分ノ一に切り下げて和蘭人獨占たりし土人に對する搾取的交易を禁斷し、機會均等による輸出入を各國人に許した結果、國庫收入忽ち八倍を算するに至り、自ら豫て揚言した『瓜哇の地を東方文化の中心帝國とする』理想はやくも實現の緒に就いたといふが、このラフス卿の新占領地振興策は、後、一八三八年、サラワクに建國したラヂヤ・ブルークが新領君臨の大典に當つて『予は萬事ラフス卿の政治を此土にも布くべきを誓ふ』と述べてゐる位、實に善政といふべきであつたのである。

後、一八一六年に至り、前述海將ライトの功績によつて着々和蘭人の勢力を半島方面から驅逐し

たあとの後始末、乃ち、ヴィエンナ會議といふものゝ結果としてジャヴァの地を和蘭に割讓することゝなつたので、ラフルス卿も久方ぶりにロンドンに歸省し、翌一八一七年、あらためてスマトラ島マルボロ副總督に就任、よく和蘭政權に對抗して國威の發揚に力を致し植民政策に努力すること前後六年、其間、即ち一八一九年一月はじめて新嘉坡に上陸、二月六日これを收受して英領と爲した偉業は、また後章その條下に再説するところあらう。

(九) 新嘉坡の復興

さて、西歷一八一五年六月十八日、大ナポレオン王、白耳義のウォートルローに於て英普聯合軍と血戦して敗れ、その後始末のヴィエンナ會議でジャヴァが再び和蘭國旗の下に返還された結果、ラフルス卿は前申す如くスマトラ島に暫時天下の形勢を觀てゐる間、これは急に更に恰好の根據地を新設するに非ざれば結局、英國の勢力は和蘭人の爲めに南洋から驅逐さるゝに至るかも知れぬといふ危機に直面してゐることを覺り、よつて直ちに船を艤して對岸、ペナンに渡りて英國東印度總督府に建言し、一八一九年一月、前述の如く軍艦六隻を率ひて附近探檢の航程を起し、同月二十九日新嘉坡島に上陸するや其の優越せる地形を認めてこゝに一大貿易港を建設すべく、同島獲得運動に着手したのであつた。

で、先づ彼は新嘉坡島の支配者たるダト・トモンゴンと交渉し、其の宗主權を有するデオホール王アブダル・ラーマン・シヤアをして其國と交を修め、新嘉坡に貿易地設定の權を與ふることを約せしめたところが、此の密約を嗅ぎつけた蘭人は直ちに其の妨害を策し、當時、新嘉坡港外にある蘭領リオ島に在つたデオホール王を捕へて強迫し、前述修交條約の無効を宣言せしめ、且、英人を國外に放逐すべき旨を發令せんとしたが、一と足違ひでラフルスは逸早く新嘉坡島に上陸し、現今のフオート・カンニング丘、升旗山の名で知られてゐる燈臺山の頂きに英國旗を翻へしてしまつたのみならず、偶々、代官ダト・トモンゴンによつて、そのリオ島にあつたラーマン・シヤアは眞のデオホール王でなくて、これは蘭人の傀儡に過ぎず、眞の王は、矢張りリオ島に隱遁せる先王の長子ハツサン・シヤアであることを知り、一夜密に人を遣はしてハツサン・シヤアを迎へ來り、これにダト・トモンゴン及びパハン州王を加へて會議を開催し、確實な條約を締結して遂に新嘉坡島の一部、即ち、初めは僅かに周圍十哩の地を領有することになつたのが二月六日、當時、附近には海賊の後裔が二三百人、支那人、土着漁夫が二三百人も居たであらうか、全く荒涼たる一蠻島に還元してゐたものを、卿の先見の明は恐れ入つたもので、後、四ヶ月ならずして人口五〇〇〇人を突破し、附近の流浪民踵を次いで續々とラフルス傘下の新植民地に移住して來たといふから驚く。

かくて、上陸當時の卿の手記に

『海岸一帯は散亂せる骨片骸骨を以て覆はれ、或は既に白骨となりて久しく風雨に曝されたるもの、又は未だ新鮮にして血肉にまみれたるもあり。長き頭髮そのままに残り、齒牙完殘せるもの、又は



これを缺くもの、凄慘、見るに忍びず、足の踏み場もなかりき』

といふから、これ等は多く海賊のため陸上に拉致せられて非業の最後を遂げた犠牲者であつたらう。人に道なく、道に人なき南溟蠻界の一孤島が、後、數年、ラフス卿自身

『これ人智のよくするところに非らず、努力の致すべきものに非らず。唯、機運と云ひ、宿命と云ふべし。新植民地今日の發展は神の攝理なり』

アーメン、と報告してゐるが、天佑か、神助か、それもあらう。但し、三分通りが天運なら、後の七分も天運。宿命的の運を亨けてこれを開いて完璧とするところに男兒の本領は耀やき存するを知る。いやさか。

西曆一八二四年、卿は錦衣英國ロンドンに歸省したが、勳功によつて榮爵を授けられ、名譽法學博士に列し、又、東印度商會は莫大なる賞金を以て勞を犒らはんとしたが堅く辭して受けず『余は樂しみて事に當りたるなりき。報酬、おのづから其間、すでに領せり』と答へたといふから其のたと爲りも大凡わかる。卿の歿後、政府が其の未亡人に『故人、國事に奔走の間、内助の功尠ながらざるを賞し、故人の名に於て、英國々王これをラフス夫人に贈る』と録し、金一萬ポンドを附與した話と共に、流石々々の美談である。

卿は一面かくの如き國士、無雙の政治家であつたが、其の母君がまた偉い人で、特に博物學に造詣淺からず、襪襟の間、よく膝下に各種の動植物標本などをならべて教へたので、自然、實驗科學

にも趣味深く、父船長に隨つて海外各地巡航の少年時代には好んで醫書をひもとき、又、特に博物標本の蒐集を樂しんでゐたのみならず、自ら進んで船醫の職に當つたことさへあつた程で、當時、卿の理想とするところは實に自然科學の學徒たらんとするにあつたと傳へらるゝが、晩年、故國に歸るや當局を促がして、今の王立動物學會をロンドンに創設し、スマトラ島より携さへ來つた各種の動植物標本等を寄與したが、其の自然科學者としてのラフス卿の名は別に *Rafflesianca* の屬名によつて知られる。ラフレジアなる熱帶植物などによりても後世に永く傳はるであらう。ラフレジアは、馬來には其の六種ほどがあり、就中、ラフレジア・アルノルデイと稱するものゝ如きは花の直徑十八吋、重量十五英斤を越ゆる豪華なもので、凡て蕁科植物の根に寄生し、地上に現はるゝは、其の壯大なる花だけで、あとの幹莖部は全て菌絲の如くに退化して地下に潜み、花粉は好んで腐肉を訪るゝキヤリオンフライと稱する昆蟲の媒介で撒布されるといふ珍奇な植物である。

ラフス卿は歸國後二年、西曆一八二六年夏、前述べた如く昭和十三年から算へて恰度百十二年前の七月五日、其の滿四十四年の偉大なる生涯を終へてロンドンに病没され、英靈はウエストミンスター寺院に永く護國の神として祭られてゐる次第なのである。

(一〇) 英國の馬來半島統一

其の後英國は半島内部の回教諸國併合を策し、一八七一年諸國に内紛あるに乗じてペラ州とパン

コール條約なるものを結んで其の内政に干渉し、同時に他の各州政府内にも英人の駐在官を派遣することを強ひた。ところが當時の彼南總督クラーク、其後任者ジャボイス、ペラ州駐在官バーチ等の地方官が自らの功を急ぐ餘りに盛んに壓政を布いたので土人の怨をかひ、一八七五年、パササラの酋長たるマハラジャ・レラ等が蹶起してバーチを襲撃慘殺し、部下英兵を破つて氣勢大いに揚り、爲めに一時、半島各地土民の動搖を來したが、間もなく急を聞いて香港、印度などから馳せつけた援軍には敵すべくもあらず、遂に敗れてケダに走り、後、サー・フランク・スエテナム卿、總督として着任するに及んで、さしもの内亂も全く平いだ。聽て一八九五年、ペラ、セラランゴール、ネグリスマラン、パハンの四州を以て馬來聯邦州を組織せしめ、從來の駐在官政治を廢して英國海峽植民地政府に隸屬せしめることゝしてしまつたのみならず、越えて一九〇九年、英暹條約によりてシヤム國が從來握つてゐたケランタン、トレンガヌ、ケダ、ペルリス四州の保護權を英國に讓渡したので、最も早く英國に屬してゐたヂョホール州と共に、此等五州を馬來非聯邦州として英國の保護領となすことになり、かくて多年の目的たる英國の半島統一は名實ともに完成を見たのであるが、爾來、政治、産業、交通等の整備發展、日を追ふて進み、寶庫南洋として英國植民政策の勝利を今日に物語つてゐる次第である。

顧るに往昔、土候の國を成してより幾變遷、近世西歐勢力の侵入とともに再び彼等の起つを見ず、徒らに歐洲諸國の好餌として爭奪の的となり、半島竟に英國の手に歸してよりは其の經濟發展に對して絶大なる貢獻をなし、輓近國際情勢重大を告ぐるや、巨億の費を投じて竣成せる新嘉坡軍港は、英國東洋政策の一大基地として其の生命線の守りに任じてゐるが、曾ての日、誰かこの南海瘴癘の蠻境に今日の將來ありしを識り得た者があらうか、ラフルス卿の卓見を以てしても恐らくこゝまでの宿命を豫想しては居なかつたに違ひ無い。

人種。人口。

設備の完全してゐる近代都市にあつて充分な訓練のある市民を目標としてすら、動態統計などいふものは難事中最なるものと云へよう。何年も前に實施された國勢調査の成績が「最も確からしい」と信すべき示表を提供してくれる頃、天下の形勢、*Status Quo* といふ奴は、てんで似ても似つかぬものに變つてゐるのが元來當然である。

まして況んや、況んやまして、此の地に於ておや、斯の民に就ておや、と一應お斷り申上げておく。

馬來半島奥地は別として、新嘉坡の如きにあつては、俗に、日々五十四の異人種が二十七の異國語を語つて暮らしてゐる、などいふ。蓋しAからZ、あらゆる言語とエトセトラが常用され、またそれに二倍する數の人種が一つ青空の下に、おのがじゝお國言葉を使つてゐるといふ意味であらうが、眼で見えてわかる如く、耳で聽いて驚ろく通り、色わけとりどり世界の民が、よくもまたこんな

に集まつた人種展覽會の壯觀にあきれる。
 で、最近の人種別人口を稍正確に示表したもの、といふのが昭和六年四月一日の國勢調査報告であるが、それは學究的の文献、こゝでは多少大雑把でも最新最近の數字を並べたいのが本書の念願であるから、昭和十三年八月二十日の發表の政府豫報、その六月三十日に於ける未校正數字を示表してみると次の如くである。

英領馬來半島面積人口示表

行政區別	州	廣袤	
		平方哩	昭和十三年六月三十日人口
海峽植民地	新嘉坡植民地	二一七	七一〇〇三七
	彼南植民地	一〇八	二三五九六九
	マラッカ植民地	七二〇	二二三九六一
	ウエルスレー州	二八〇	約一九五〇〇〇
	ヂンヂン州	一八三	約一一五〇〇
	ラブアン島	二九	約一七〇〇
	クリスマス島	六二	約一六〇〇
	ココス島	一〇	約一六〇〇
	計	一六〇九	約一三八〇〇〇

馬來聯邦州

ネグリスマラン州	二五〇〇	二八一〇八九
セランゴール州	三二〇〇	六六一〇〇〇
パハン州	一四三〇〇	二〇九三一七
ペラ州	七八七五	九三八四二一
計	二七九二五	二〇八九八二七

馬來非聯邦州

ヂョホール州	七六七八	六一九五〇六
トレンガン州	六〇〇〇	一九九七二八
ケラントン州	五八七〇	三九四二九七
ケダダ州	三六四八	四九九八三四
ペルリス州	三一六	五四九四四
計	二三五一二	一七六八三〇九

英領馬來半島

總計	五二九四五	五二三八九五九
----	-------	---------

即ち、本稿執筆當時（昭和十三年八月下旬まで）には、まだ、彼南植民地の對岸ウエルスレー州、ヂンヂン州、それから遠隔放洋の群島、クリスマス、ラブアン、ココスあたりの報告が間に合つてゐないので此等は大體近確數を以て示表せざるを得なかつた爲め、總計は、約五、二三九〇〇〇人

としておくが、これを大凡五萬三千方哩の面積に割り當てると一平方哩に約九十八人が棲んでゐる勘定であるからこれを我國に於ける每平方哩人口約四百七十人（昭和十年度内地面積一四六五一平方哩、人口六九二五一二六五人）に較べたら桁違ひの人口稀薄地方といふわけであつて、しかも新嘉坡のやうな僅々十五平方哩（郊外住宅地とも）内外の都會に、あとで申述ぶる如く七十一萬（昭和十三年六月三十日政府公認人口）の住民が密集してゐて、乃ち此の地域では每平方哩四七三〇〇人程の稠密といふと、領内の大部分は全然不毛無人の蠻境と稱してよいかと思ふ。それでも右述べた英領馬來半島全土人口總計約五二三九〇〇〇人と申すのは前回の國勢調査、即ち昭和六年四月一日の示表から見ると約八十五萬人餘の増加なのである。

では其の約五百二十四萬といふ總人口中、一番多いのは一體何國人か、といふ質問は、他の地方でなら甚だしい愚問であらうが、こゝでは眞剣な問題、即ち、其の國土にありて其の國土人の數よりも外來人の方が多い、といふわけ、まづ次表を御覽願ひ度い。

（昭和六年四月一日國勢調査）

人種	男	女	計	總數ニ對スル百分率
支那人	一一三〇一〇〇	五七九三〇〇	一七〇九三九二	三九・〇
馬來人	九九五六〇〇	九六六四〇〇	一九六二〇三一	四四・七

人種	男	女	計	總數ニ對スル百分率
印度人	四二一〇〇〇	二〇三〇〇〇	六二四〇〇六	一四・〇
歐米人	一一六〇〇	六二〇〇	一七七〇八	〇・五
混血人	七九〇〇	八一〇〇	一五九三六	〇・五
其他	三一八〇〇	二四三〇〇	五六二七三	一・三
合計	二五九八〇〇〇	一七六七三〇〇	四三八五三四六	一〇〇・〇

これが前申す如く今から七年前の調査、そして最近、昭和十三年六月三十日現在のものでは、實に左の如くなるのである。

人種	人口	總人口ニ對スル百分率
支那人	二一九五六五六	四一・九
馬來人	二一九三二五五	四一・八
所度人	七四八六一四	一四・二
歐米人	二六五五三	〇・五
歐亞混血人	一八一四四	〇・二
其他	五六六六七	一・八
合計	五二三八九五九	一〇〇・〇

斷然、英領馬來の主人は支那人たるを知るであらう。さて、はや。

然り而して、これが新嘉坡、ペナン、マラツカの如き都市に於ては、更にまた次の如き驚嘆すべき支那人國たるの感深きことを見るのである。

三 植民地人種別人口示表（昭和十三年六月三十日）

人種	新嘉坡			彼南			マラツカ			三植民地合計
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
支那人	五四八〇八九			一五六〇〇〇			八五〇〇〇			七八九〇八九
馬來人	七二五八九			四〇〇〇〇			一七七〇〇〇			二八九五八九
印度人	六〇四二七			三三〇〇〇			二八〇〇〇			一一四二七
歐洲人	一二三一一			二〇〇〇			五〇〇			一四八一
混血人	七七五五			二五〇〇			二二〇〇			一四四五
其他	九九六六			三五〇〇			八〇〇			一四二六六
計	七二〇〇三七			二三七〇〇〇			二九三五〇〇			一一四一六三七

右の内、新嘉坡の他は確定數字で無いから後日總計に於て多少の訂正を加へらるゝとしても、假に右表だけで見ても支那人は三植民地總人口の大凡六割三分以上、また新嘉坡の如きにあつては實に七七・二プロセントといふ絶對多數であつて、近年までの約七五プロセントと考へられてゐた支那人在留民數が、實數に於ても増加し、又、他方、邦人などが漸減してゆくために百分率が著るしく高くなつてゆくことがわかる。

尙、昭和十一年十月、在新嘉坡帝國總領事館の調査によれば廣義に於ける英領馬來地方、即ち馬來半島のみならず、英領北ボルネオ、ブルネー、サラワク等の各地も合せて、邦人の在住するもの總計八三八五人を示し、前年度の邦人總數よりも八一九人、乃ち一割の増加を示してゐるが、内地出身者が絶對多數で、臺灣及び朝鮮出身の同胞は甚だ尠ない。乃ち次表の如くである。

英領眞馬來在留邦人數（昭和十一年十月一日）

出身	身分性別	新嘉坡		其他ノ海峽植民地		其他ノジョホール州		其他ノ馬來諸州		其他ノサラワク		英領馬來計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
内地	家長	二一七六	二二〇〇	一六六	五三	四〇三	六五	七二〇	三〇九	五五二	一〇三	四〇一七
	家族	四四〇	一一八六	二六	一一四	一二四	三四五	一七九	六四九	九九	一九一	八六八
朝鮮	計	一三	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一四
	計	四五	二六	一六	六	二九	二九	二〇	一六	三二	二一	一四二
臺灣	計	四五	二六	一六	六	二九	二九	二〇	一六	三二	二一	一四二
	計	四五	二六	一六	六	二九	二九	二〇	一六	三二	二一	一四二

邦人總計	合計	男	女
	二六七四	二〇九	一四四三
在留邦人實數	大正九年	五五六	九一九
	昭和元年	四三九	九七四
推測	十一年	一八九三	九七八
	十二年	三三八五	八三八五

また、大正九年以來、英領馬來地方全土に於ける在留邦人人口の消長は次の如くに示表されてゐて、其の時々の財界弛張を如實に物語つてゐる。

年次	在留邦人實數
大正九年	八五四八
十年	七二四〇
十一年	六四〇五
十二年	五五九三
十三年	五六〇二
十四年	七一〇〇
昭和元年	七六一八
二年	八四一七
三年	八七二一
四年	八七二八
五年	(記録逸失)

年次	在留邦人實數
六年	七二二四
七年	六六四〇
八年	六五四九
九年	六八三九
十年	七五六六
十一年	八三八五
十二年	推測八六〇〇

尙、邦人の動態總計、並びに活動情況等は又其の章下で詳説するところあらう。

政治。

前章申した如く廣義の英領馬來地方といふものゝ中、北ボルネオ、サラワク、ブルネーの三州と、ラブアン、コ、ス、クリスマス等の放洋諸島とを別にして、狹義の英領馬來、即ち、馬來半島の南部、ユニオンヂャツクの旗の下に保護せらるゝ諸地方は三大別して、海峽植民地、馬來聯邦州、及び、馬來非聯邦州から成つてをり、即ち、英國の領土たる三植民地、保護領たる九州がこれであつて、馬來諸州は夫々名目上獨立の主權君主たる支配者を有するが、其の聯邦州たる四州、即ちペラ州、スランゴール州、パハン州、ネグリスマビラン州は何れも西曆一八七四年乃至一八八七年の間に英國保護領となつて、其の統治に就ては英國政府の指揮を仰ぎ、また、聯邦會議に於て其の議

長たる馬來諸州統監、各州知事、法律、財政、醫務の各顧問官、勞働、鐵道、教育、貿易關稅の各局長、支那人事務局長、及び、統監の任命する一名の官吏議員と、英國皇帝の裁可を経て統監の任命する十二名の非官吏議員、合計、議長の他二十五名の議員で組織してゐるが、其の非官吏議員といふのは任期三ヶ年で、中、各州より一名宛選出してゐる四名の馬來人が居るのを例としてゐる。そして、馬來聯邦州に對する財政及び立法に關する聯邦會議の議決は絶対のものとなつてゐる。

それと各州に州會議といふ地方會議があつて、これは各州の支配者たる州王 (Sultan) が議長となつて地方的の立法機關を成してゐる。

又、非聯邦州たるヂオホール、ケダ、ペルリス、ケランタン、トレンガヌといふ五州に於ては、各州の統治は其の各州王、又は土侯といふのが英人顧問官の參與によつてこれを行ひ、又、各州議會を組織すること聯邦州と同様であり、外交關係事務は一切、英國政府の監督するところとなつてゐる。

更に、海峽植民地たる新嘉坡、ペナン、マラツカの三地は純然たる英領であるから、直接、植民地總督の主宰する總督府で、事務總長以下中央各官、それから地方長官たる各植民地知事で政廳を組織し、本國の植民省に直隸してゐるわけであり、其の植民地總督といふ最高指揮官は文官であるが、これが同時に馬來軍司令官と馬來聯邦統監を兼ねてゐる次第である。

交通

(一) 鐵道

馬來半島の鐵道は聯邦州政府の所有で、馬來聯邦州鐵道 (F. M. S. Railway) と呼ばれてゐるが、はじめ西曆一八八五年六月といふから、昭和十三年から起算して五十三年前の夏、ペラ州のポイトウエルドからタイピン驛まで約八哩を開通創業し、今日では延長一〇六七哩の鐵路を有するに至つたものである。

幹線は新嘉坡のケツペル路、つまり歐洲航路諸船舶の碇繋するタンヂオン・パガー埠頭前に偉容を誇る、新嘉坡驛を起點として、まづ、新嘉坡島を南北斷して有名なヂョホール國境の陸橋を越えて大陸に渡り、爾後、半島の西部を縱走して彼南のプライ驛を経て暹羅國に通するのであるが、更に、東部線といふのが有つて、ゲマス驛から分岐してケランタン州の北端タムパット驛に達し、其他、ヂョホール國有鐵道も亦、聯邦州鐵道局の監理下に置かれてゐる。

馬來半島の各都市、マラツカ、スレムバン、クアラランポー、イツポーへは、新嘉坡から毎日定期列車が発車するが、こゝには便宜上、彼南行きと盤谷行きの急行列車を紹介しておく。

彼南行。

毎朝。八時四十分發車 (翌朝七時彼南着)

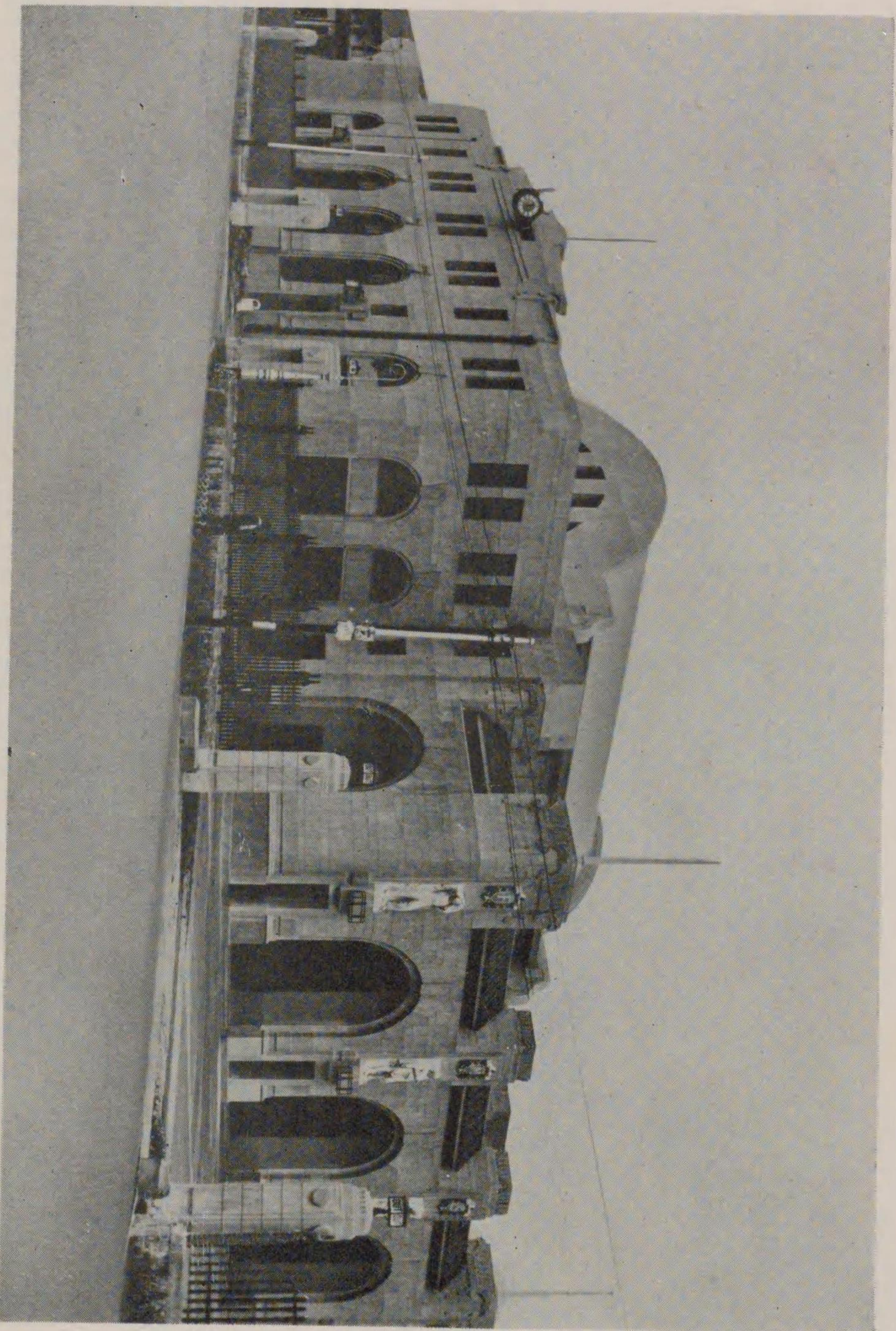
毎夕。十時發車（翌夕六時十分彼南着）

盤谷行。

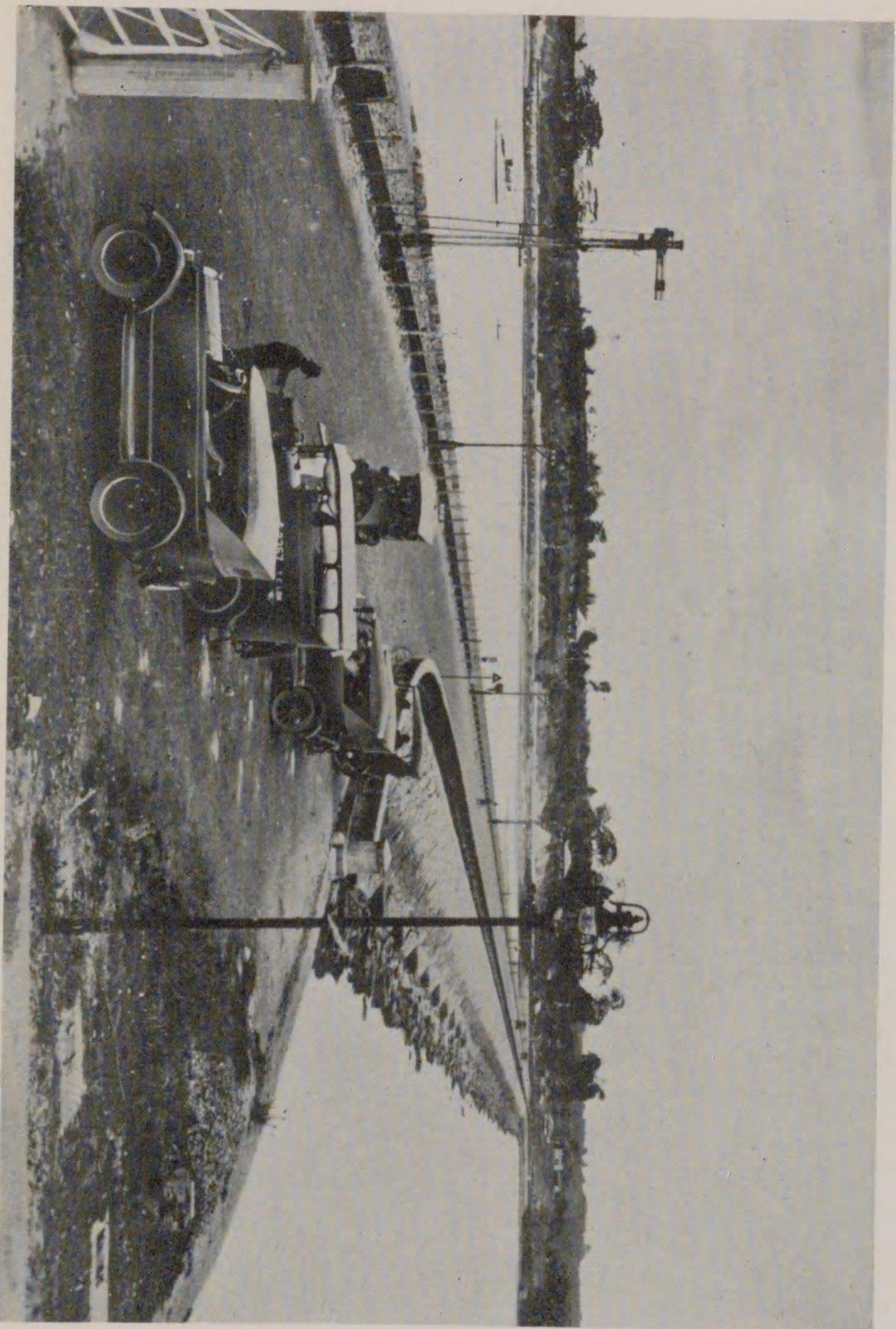
毎週。木曜及土曜、午前八時四十分發車、盤谷まで約五十一時間を費し、各々土曜及び火曜の午後十二時五分に盤谷驛に着。

新嘉坡驛を發車して走行約三十分間で前述のヂョホール國境の陸橋を渡り、ヂョホールの海峡を過ぎて馬來半島に入るのであるが、其の新嘉坡側をウツドランドと呼び、他端は乃ちヂョホール國の首都、ヂョホール・バル市である。海峡は幅員約一〇〇〇米突、今から二十年程前までは旅客、貨物、通行人、凡て汽艇によつて連絡したものだつたが一九一九年にこの陸橋の工事が起工され、一九二三年十月一日に開通したわけで、陸橋の總長、三四六五呎、幅六〇呎、それにヂョホール側に幅三二呎、深さ干潮面下一〇呎の閘門を電力で開閉する撥橋を架して小船舶の海峡縦過を可能ならしめ、他の部分は、橋脚式でなく下から石で疊み上げてある。其の北に向つて右側は太平洋、左側は印度洋の波が直ちに來つて車輪に親しむのも面白い。

(一) 海運



新嘉坡停車場（タンヂオン・パガー埠頭正面）



新嘉坡嶋と馬來大陸とを結ぶ陸橋（對岸はデヨホール・バル市）

世界交通の要衝に當り、且、東洋、南洋の外國貿易や、沿岸貿易の主要地點に位する新嘉坡であるからこゝに寄港する内外大小の諸船舶も亦、近頃一ヶ年約五千二百隻、三千五百萬噸と稱してゐて、内、主要なる船舶航路及び従業會社名だけでも左の如く數十社を算するが、これは何れも内外の郵便物を運輸する、政府の命令航路に従業する受命會社である。

(一) 歐洲航路

(日本) 日本郵船會社

(英國) P、&、O

青筒線

グレン、エンド、シヤイア。

ペンライン。

(獨乙) 北獨乙ロイド社

ハムブルグアメリカン會社

(伊太利) ロイド・トリエスチノ

(佛蘭西) シヤルヂユ・レユニ

佛蘭西郵船(M・M・線)

馬來半島

馬來半島

(和蘭) ネデルランド・ロイヤル

ロッテルダム・ロイド

ホルランド東亞細亞線

(丁抹) 東亞細亞線

(瑞典) 東亞細亞線

(北米合衆國) アメリカン・プレジデント・ライン

(二) 南米及阿弗利加航路

(日本) 大阪商船會社

(英國) ユニオン・キヤスル線

(和蘭) K・P・M・線

(三) 東濠洲航路

(英國) バインス・フィリップ線

(和蘭) K・P・M・線

(四) 西濠洲航路

(英國) バインス・フィリップ線

西濠線

青筒線

(五) 馬尼刺經由支那日本航路。

(獨乙) 北獨乙ロイド會社

ハムブルグアメリカン會社

(伊太利) ロイド・トリエスチノ會社

(和蘭) ホルランド東亞細亞會社

(六) 支那日本航路。

日本郵船會社

大阪商船會社

P・&・O

印度支那會社

チャイナ・ネヴィゲーション會社

佛國郵船會社

馬來半島

グレン・エンド・シヤイア會社
 シヤルヂユ・レユニ會社
 K・P・M

右の他、旅客輸送を兼營せる邦船としては優秀なる近代日本の造船技術を誇り、直航七日以内に神戸に到るといふ三井物産會社の快速船、國際汽船會社の諸船をはじめ、石原産業海運公司、或は南洋海運會社等の稍小型の貨客船なども、時に便利であるが、唯、惜しむらくは何れも不定期であるので好機會に恵まれてのみはじめて利用することが出來るといふ不安もある。大凡毎月二回位の出帆は約束されてゐるのであるが寄港地が、或は全然直航であつたり、又は時に意外の邊境に迂回を荏苒して思はぬ長航海を忍ばねばならぬやうなこともあり、何しろ不定期船といふ不便は覺悟してかからぬと、こゝに提灯を持つこの筆者があとで怨まれても困るから、前述の命令船舶發着とはまた別のお考へを以て宜しく其の都度御調べの上御利用が願ひ度い。途中の寄港地觀光に御用なきお急ぎの歸朝だつたら大阪商船會社の「急航船」は大凡九日間で門司へ直航するが、これは一ヶ月一回の出帆である。大いに用ふべきものであらう。又、途中充分なる寄港時間を香港、上海、乃至基隆に樂しみ得る日本郵船會社歐洲航路の巨船は、旅行そのものが一つの愉悅であり行樂である點で過去五十年盛名を恣まゝにしてゐるが、その割合に航海日數は短かくて、まづ十二日以内で神戸に着く

から、就航船の巨大なること、相俟つて船にお弱いお方などがよく本會社船を撰まるゝやうである。特別のお方の他は外國船にはお乗りにならぬやうである。これはいろいろ理由もあらうが、まづ、やはり邦船に越したことはあるまい。

當地方を中心とする近海航路の便船として前述諸幹線以外に次のやうな諸線出帆がある。

- (一) バタヴィア行。
 - K・P・M社船 毎金曜日及月曜日
 - J・A・L社船 毎月一回
- 和蘭郵船 火曜日、土曜日交互
- (二) スラバヤ行。
 - K・P・M社船 毎木曜日及金曜日
 - J・A・L社船 毎月一回
- 和蘭郵船 毎火曜日

(三) バリ島行。

馬來半島

馬來半島

(三) K・P・M社船 毎木曜日及金曜日

(四) ベラワンデリ行。

K・P・M社船 毎水曜、金曜及月曜日

S・S社船 毎木曜日

和蘭郵船 毎金曜日

(五) パレムバン行。

K・P・M社船 水曜日

(六) 盤谷行(直航)。

B・I社船 毎土曜日

S・S社船 毎火曜日

(七) 盤谷行(近海寄港)。

暹羅汽船 毎水曜日

(八) 英領北ボルネオ諸港行。

S・S社船 毎土曜日

(九) サラワク行。

S・S社船 毎月三回、土曜日

(十) ミリ行。

S・S社船 土曜日

(十一) ペナン行。

S・S社船 毎火曜日及木曜日

(十二) ポート・スエテナム行。

S・S社船 火曜、金曜及土曜日

(十三) ラングーン行。

馬來半島

馬來半島

B・I社船 毎木曜日

五八

(十四) カルカッタ行。

B・I社船 毎木曜日

(アツプカー社線) 二週一回

印度支那社船 毎週一回

(十五) サイゴン行。

M・M社船(郵便船) 二週一回

M・M社船(臨時船) 四週一回

S・M社線 毎週一回

(三) 空輸。

當地方現在の定期航空路としては帝國航空會社、王立和蘭航空會社、及び王立蘭領印度航空會社の經營に係はるものがあり、其他に民間會社であるワーンズ航空會社が新嘉坡からクーラランポルを経て彼南一保に到る間の航空路に従業してゐる。

以上各航空會社の定期出航日取は次の如くである。

(一) 帝國航空會社 (Imperial Airways)

毎週三回、火曜、金曜、日曜日新嘉坡出航、彼南、盤谷、蘭貢、カルカッタ、カラチ、バスラ、アレキサンドリア、アテネ、マルセイユ等の各地を経由して英國サザムプトン空港に到る。航程約六日間。

(二) 王立和蘭航空會社 (K.L.M.)

爪哇行 毎週三回(月、水、金)新嘉坡出航、パレンバング、バタビア、バンドン行、航程六時間弱。

歐洲行 毎週三回(火、木、土)新嘉坡出航、メダン、彼南、盤谷、蘭貢、甲谷陀、唐地、バスラ、バグダット、アレキサンドリア、ナポリ、馬耳塞、アムステルダム等の各地を経て倫敦に至る。航程約五日間。

(三) 王立蘭領印度航空會社 (K.N.I.L.M.)

西貢行、毎週火曜日新嘉坡出航、航程四時間強。

馬來半島

五九

馬來半島

バタビア行、毎週水曜日新嘉坡出航。航程約五時間。

六〇

(四) 帝國航空會社 (I. A.)

香港行 (彼南、盤谷經由)

毎週二回、日曜及火曜日出航

(五) Qantas Empire Airways

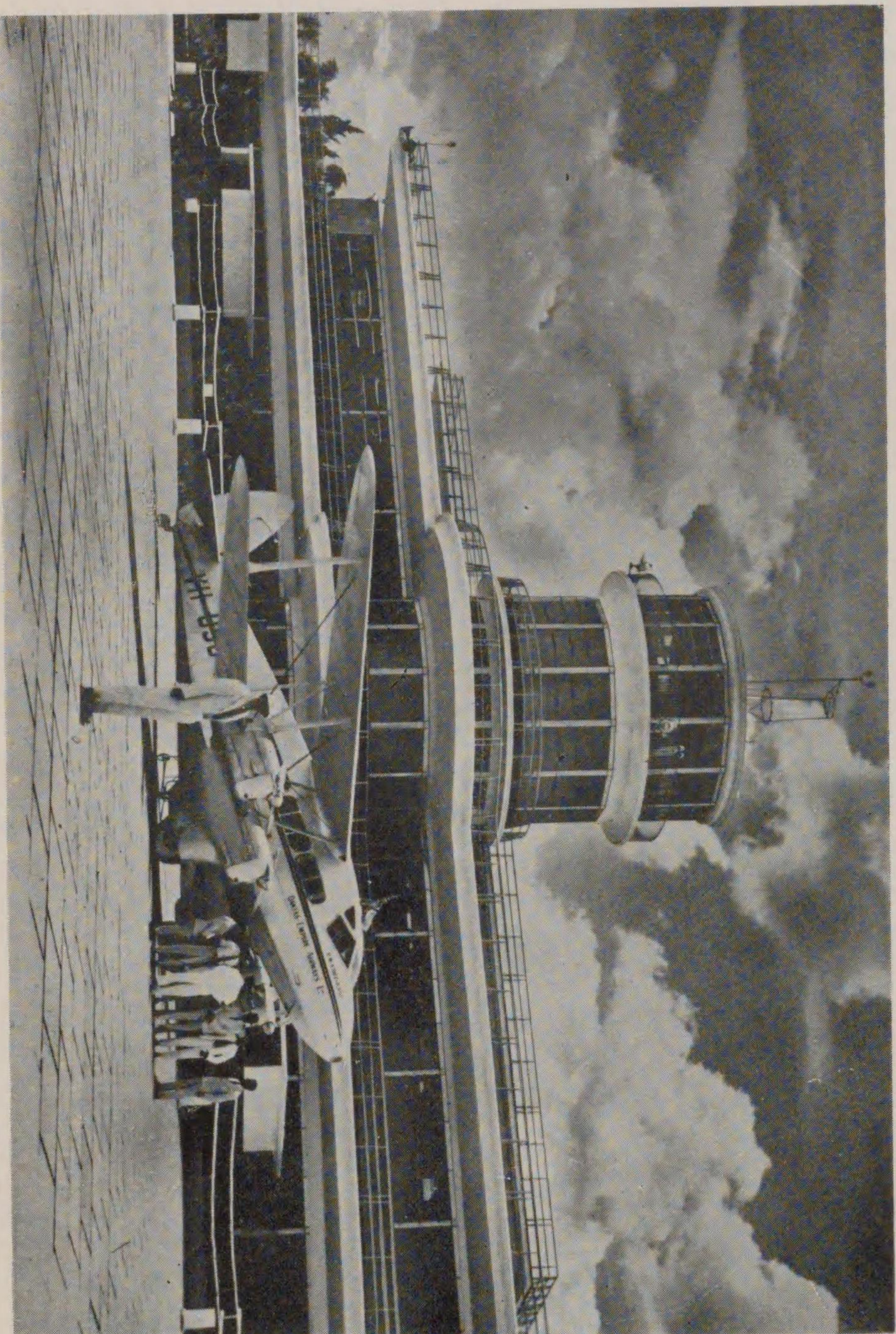
爪哇及濠洲行

毎週水曜、金曜、土曜日出航。バタビア、スラバヤ、ビマ、ケパング、ダルウイン、
タウンズヴィル、ブリスベンを経てシドニーに至る。

(六) Wearnes Air Services Ltd.,

彼南行

毎日午前七時新嘉坡出航、クーララムポー及びペラ州イツポー市を経て午前十時五
十分彼南着。航空三時間五十分。



新嘉坡空港 (カラン區所在)

通信

郵便切手は、一仙(黒)、二仙(緑)、四仙(淡橙)、五仙(褐)、六仙(紅)、八仙(鐵)、十仙(紫)、十二仙(藍)、の普通用ゐるものから、あとは二十五仙、三十仙、四十仙、五十仙、一弗、と、何れも二重彩色の美しいのが發行されてゐて、蒐集家フィラリスをよろこばせる。若しそれ銀二十五弗の切手などゝ來ると何しろ時價換算、我が五十五圓切手といふわけ、消印してあるもので一枚市價四弗見當といふ。

旅客、特に邦人旅客が最も多く使用せらるゝのは藍色の十二仙(封書用)と紅色の六仙(繪はがき用)でもあらうか。乃至、英領馬來地方(新嘉坡市中も)への通信なら褐色の五仙が封書用、端書は綠色の二仙であるが更に、小生出發の際は御多忙中御見送りを忝ふし、といふ開き封も、遠近にかゝはらず一律に綠色の二仙で間に合ふ。以下、少し詳しく説明すると。

(イ) 英領馬來地方全土、相互間。

郵便物	基本重量料	金	超過重量料	金
端書	片信	二仙	往復	四仙

書狀	二オンス迄
印刷物	二オンス迄
商業書狀	十オンス迄
新聞	五オンス迄
商業見本	四オンス迄

書狀	五仙
印刷物	二仙
商業書狀	十二仙
新聞	二仙
商業見本	四仙

書狀	一オンス毎
印刷物	二オンス毎
商業書狀	二オンス毎
新聞	五オンス毎
商業見本	二オンス毎

書狀	一仙
印刷物	二仙
商業書狀	二仙
新聞	二仙
商業見本	二仙

(ロ) 英本國及び他地方英屬領宛。

書狀	片信
印刷物	一オンス迄
商業書狀	二オンス迄
新聞	十オンス迄
商業見本	二オンス迄
商業見本	四オンス迄

書狀	四仙
印刷物	八仙
商業書狀	二仙
新聞	十二仙
商業見本	二仙
商業見本	四仙

書狀	一オンス毎
印刷物	二オンス毎
商業書狀	二オンス毎
新聞	二オンス毎
商業見本	二オンス毎
商業見本	二オンス毎

書狀	八仙
印刷物	四仙
商業書狀	二仙
新聞	二仙
商業見本	二仙
商業見本	二仙

(ハ) 外國宛。

書狀	片信
印刷物	一オンス迄
印刷物	二オンス迄

書狀	六仙
印刷物	十二仙
印刷物	二仙

書狀	往復
印刷物	一オンス毎
印刷物	二オンス毎

書狀	十二仙
印刷物	六仙
印刷物	二仙

商業書狀	十オンス迄
新聞	二オンス迄
商業見本	四オンス迄

商業書狀	十二仙
新聞	二仙
商業見本	四仙

商業書狀	二オンス毎
新聞	二オンス毎
商業見本	二オンス毎

商業書狀	二仙
新聞	二仙
商業見本	二仙

書留料。

書留料は郵便物の種類重量にかゝはらず、また仕向地の内外遠近にも關せず一律に銀十五仙である。であるから假令ば新嘉坡市内相互間で端書一通を書留で出しても合計十七仙、日本の留守宅へ風景繪はがき十二三枚程度（封筒とも）二オンス以内であるから、勿論通信文を認めては困るが、開き封なら書留で出して矢張り十七仙、寫真とか其他の印刷物でも同様と御承知あり度い。

保險料。

現金、有價證券、其他詳細は尙その都度郵便局に就て調べて頂き度いが、銀三千四百弗までの内容に對して保險を附することが出来る。保險料は最初の銀百弗に對して銀三十仙、あと百弗毎に銀十五仙づゝの加徴であるがこれは勿論、當然書留郵便になるから別に書留料は徴收されない。

(二) 航空郵便。

これは帝國航空郵便 (Imperial Air Mail) と王立和蘭航空會社便によるものと二つあるが、

(K) Imperial Air Mail 便。

これによると次の各地宛は

端書

四仙

書狀半オンス毎に

八仙

で、其の各地とは乃ち

British Malaya

Aden. Anglo-Egyptian Sudan.

Basutoland. Burma. Bechuanaland.

Canada.

Egypt. Eire. (Irish State).

Great Britain.

India. Ireland.

Kenya.

Mauritius.

Newfoundland. Nyasaland.

Palestina.

Rhodesia.

Seychelles. South Africa. South-West Africa. Swaziland.

Tanganyika. Transjordanian.

Uganda.

Zanzibar.

但シ、マルタ、サイプラスニ限り

端書 二十五仙
書狀 二十五仙

の二十地方、いづれも英領乃至保護領ゆきであるが、外国行は勿論高くて

端書

二十五仙

書狀半オンス毎 四十五仙

である。

それから次の特別諸外国に對しては夫々の如き特定航空郵税が徴收されることになつてゐて、普通の外国宛よりは低率である。即ち、

日本。(香港迄航空)

端書

十仙

書狀半オンス毎

廿仙

香港。

端書

拾仙

書狀半オンス毎

廿仙

馬來半島

濠洲。比律賓。ニューギニア。

端書 四仙

書狀半オンス毎 八仙

アフガニスタン

イラン國及イラク。シリヤ

端書 十五仙

書狀半オンス毎 三十仙

暹羅。

端書 六仙

書狀半オンス毎 十二仙

(英帝國及クアアンタス社航空郵便)

蘭領印度。スマトラ。

端書 六仙

書狀半オンス毎 十二仙

處で日本行の航空便であるが、これはよほど船便の都合や、航空便の香港着時間などを悉知した

上で發信せぬと或は時に却つて遅く着いた、などいふことも聞く。

次に第二の航空郵便機關たる王立和蘭航空會社便によると

(ロ) K. I. M. 便。

これは前記二十地方の英領、英國保護領宛のものを取り扱ひ

端書 三十仙

書狀半オンス毎 六十仙

蘭領印度スマトラ 端書 八仙
書狀 十五仙

を徴收してゐる。

(三) 電信。

(イ) 外國宛電信料金。

英國大東電信會社 (Eastern Extension Australia and China Telegraph Co., Ltd.) の世話になるのだが、左の表の如く各一語につき料金を徴收してゐる。

受信地	普通	後廻はし
濠洲	一弗一〇仙	五五仙
馬來半島		六七

馬來半島

新西蘭

ブルネ

サラワク

蘭領印度

暹羅

比律賓

香港

上海

日本

印度支那

伊太利

埃及

佛蘭西

瑞西

獨乙

英國、愛蘭

南アフリカ

桑港

シヤトル

紐育

一弗二五仙

六〇仙

五二仙

三五仙

一一仙

七〇仙

四五仙

七〇仙

九〇仙

四五仙

一弗二五仙

一弗二五仙

一弗二五仙

一弗二五仙

一弗二五仙

一弗二五仙

一弗一五仙

一弗六〇仙

一弗六五仙

一弗六〇仙

六八

六〇仙

三〇仙

三五仙

二〇仙

三五仙

三五仙

四五仙

二五仙

六五仙

六五仙

六五仙

六〇仙

六〇仙

六〇仙

六〇仙

六五仙

八〇仙

八五仙

八〇仙

至急電報は普通料金の倍額を徴収することになつてゐる。

(ロ) 英領馬來地方相互間電信料金。

普通電報最初の一〇語に對して四〇仙。あと一語毎に四仙を加徴。至急報はいづれも其の倍額。

(ハ) 内國用特定電信料金。

祝賀、挨拶等の電報で特に定められた信文は二五仙で打つてくれるものが出来てゐる。

尙、用語が日本語なることを明記した羅馬綴の邦文を打電するときには十五字を以て一語と見做し計算してくれる。従つて元來一語であつても十五字を超すものは二語になる。

また内地の電報と違つて、凡て外國電報であるから受信人の宛名も住處も料金を徴収される。

其他、Letter Telegram と云ふ特定のもがあつて長い通信なら——全部で二十語まで同額のミニマム・チャージだから——これが便利經濟である。

通貨

馬來通貨の沿革。

當方面の通貨を歴史的に概観すると、西曆一八九五年頃迄、メキシコ弗、乃ち、墨銀といふのが

最も一般的に流通してゐたが、同年二月、この墨銀が當領植民地の標準貨幣と公定せられ、其他に、英吉利弗、及び舊香港弗もまた法貨として流通して居つた。

紙幣がはじめて發行されたのは一八九九年で、其の以後、この政府紙幣と共に墨銀、英銀、補助貨幣と、凡ては銀を本位とする通貨が雜然として流通してゐたので、銀の騰落毎に多大の不利不便を免がれなかつたが、一九〇三年十月、從來のイギリス弗貨、即ち英銀と同等の重量並びに純銀量をもつ海峽植民地銀弗貨といふものが創定せられ、從來の墨銀及び英銀も漸次廢貨を宣せられて、こゝに當地方特殊通貨が統一的に制定せられた次第である。

次で此の新弗貨の金に對する價值に就ては一九〇六年一月、及び同年十一月の法令によつて海峽弗の磅貨價值は二志四片と定められ、新嘉坡に於て弗貨を支拂ひ、倫敦に於て磅貨 *Sovereign* を受取るには二志四片十六分ノ三といふ一定率により、又、倫敦に於て磅貨を支拂ひ、當地に於て弗貨を受取るには二志三片四分ノ三に對して海峽弗貨一弗とする定率によつて夫々政府財務部を通じて受拂を爲し得ることになつたので、弗貨の價值は兩限界内に限定さるゝことになつて茲に金爲替本位制が確立したのであつた。

歐洲大戰中、英本國が金本位を離脱するに及んで一九二三年九月、當領貨幣制の基準は磅爲替本位に改められ、前記の限界内に於て磅爲替に對する其の都度公示の定率によつて弗貨が賣買さるゝことになつて以て今日に及んでゐる。

現行通貨と爲替

海峽植民地の現行通貨は英領馬來全土、即ち海峽植民地、馬來聯邦州、馬來非聯邦州に對する大衆的通貨であつて、また、英領北ボルネオでも自由に流通する。

無制限法貨は一弗以上の紙幣で、一弗銀貨は十弗迄に限られてゐる。また補助貨幣としては、五十仙、二十仙、十仙、及び五仙の銀貨と、五仙の白銅貨、一仙、半仙、四分の一仙の各青銅貨があり、凡て二弗まで法貨として認める建前であるが、この中、一弗及五十仙の銀貨は殆んど市場から姿を消し、半仙、四分ノ一仙の銅貨も亦現在では稀に見らるゝのみである。二十仙銀貨は大き我が五十錢銀貨と全く同大であり、又、一仙銅貨には大型の圓形貨幣と小型の正方形のものがあるが流通價值は同じで、後者は新鑄のものである。

紙幣は一萬弗、一千弗、百弗、五十弗、十弗、五弗、一弗といふ額面のもの都合七種であるが、内、最も常用されるのは綠色調の十弗紙幣、紫色調の五弗紙幣、小型の藍色調一弗紙幣であつて何れも數年前より改制せられたもの、其の以前には紫色調の十弗紙幣、綠色調の五弗紙幣、赤色の一弗紙幣であつた。又、一萬弗、一千弗といふ紙幣は主として銀行間の清算等のみ用ゐられ市中に出て來ることは極めて稀であるから一生これ等を見ずに終る人の方が多からう。尙、一弗及び五十仙銀貨も、後に記すが如く實際には多數市場に流通してゐる筈になつては居るが、まづ見當らないと言ひ得るので、稀にこれを受取つたとしたら一應よく調べてみないと偽造かも知れない。二

十仙銀貨にも折々偽造や贋造がある。注意すべきであらう。

政府發表の報告によれば一九三七年末現在流通の通貨は補助貨を除きて

紙幣總發行高。 一〇四、九七五、五二一弗

純流通高。 八四、二二三、〇八一弗

各州政府財務部及び銀行所有高。

二〇、七五二、四四〇弗

といふことになっており、又、

一弗及五十仙銀貨。 二、九三九、八六八弗

が流通してゐる筈なのである。

で、尙其他に、香港上海銀行及び渣打銀行發行の紙幣が合計十三萬五千弗あることになつてゐるが一般に此等の紙幣を見ることが無い。

爲替は弗の價値が前記の如く磅爲替に對して二志四片十六分ノ三と、二志三片四分ノ三との間に限定されてゐるので當領方面財界景況の如何によつて多少の變動はあつても其の範圍は極めて狭く、大體二志四片を繞りて其の前後に安定してゐる。乍然これは弗の磅に對する關係であつて其他の國との爲替は磅爲替を通じて裁定さるゝので各對手國の對英爲替の關係によつて常に變動するのは當然である。

最近に於ける銀弗の爲替相場を概記すれば次表の如きものがある。

	一九三八年一月初	一九三八年六月初
(海峽銀弗一弗に對し) 英國貨(磅)	二志四片 $\frac{1}{32}$	二志三片 $\frac{11}{16}$
(銀百弗に對し)		
日本貨(圓)。	二〇〇圓 $\frac{1}{4}$	一九九圓
米國貨(金弗)。	五八弗 $\frac{1}{2}$	五七弗 $\frac{1}{16}$
爪哇貨(盾)。	一〇四盾 $\frac{3}{4}$	一〇三盾 $\frac{3}{8}$
印度支那貨(ピアストル)。	一七二ピアストル	二〇四ピアストル
印度貨(ルピー)。	一五四 $\frac{3}{4}$ 留	一五五ルピー
暹羅貨(バート)。	一二六バート	一二四バート
比律賓貨(ペソ)。	一一五ペソ $\frac{1}{2}$	一一五ペソ $\frac{1}{2}$
香港貨(銀弗)。	一八五弗 $\frac{1}{2}$	一八五弗 $\frac{9}{50}$

日本貨は正常換算では銀百弗に對して金百十三圓見當の筈なのであるが、過去約五年間ずつと安くなつてゐて、最近三年間は多くは一對二の割合を示してゐる。乃ち日本金の五十錢と當地の二十仙銀貨とが同大であるといふ次第、實際は日本金百圓で海峽弗五十弗に換算してゐる實狀である。尙、新嘉坡は東西交通の要衝に當り旅行者の往來頻繁であるため、常に外國の貨幣が這入つて來

るので所謂兩替屋 Money Changer といふ商賣が盛んであるが、これは主として印度人、就中モハメダン種族と俗稱する連中によつて營まれ、市中到るところに開業してゐるし、往復の着船毎に一定のライセンスを腕に巻いた者が、しきりに掌中の銀貨をチャラチャライはせ乍ら旅客の便利を計つてゐるが、時にまた、どんなことで偽造、贋造の貨幣などつかまされては大變、御注意も肝心であらうか。又、市中多くの邦人商店では必ずしも當地貨幣で無くては買物が出来ぬと申すわけ無く、毎日午前中に公表される公定の換算率で日本貨は勿論、磅でも何んでも受取つてくれるから御買物には御持ち合はせの貨幣で少しも不自由は無いのである。

貿易

英領馬來地方に於ける對本邦貿易は年々躍進的に増加の傾向を辿つてゐたが、時しも西曆一九三七年七月、蘆溝橋事件に端を發した支那事變が思ひがけなく全支那を擧げて戰禍の坩堝と化してしまつた過去一ケ年有餘、當方面華僑との商取引は勿論著るしく圓滑を缺き、乃至、其年末よりは完全な日貨排斥が全馬來地方を風靡するに至り、對日貿易は頓に激減し全面的に不況を來してゐる今日なのである。

從來、新嘉坡港をはじめとして、海峽植民地諸港は、特殊の禁制品、即ち、

(イ) 輸出禁制品。

コカイン。爆發物。銃砲類。阿片。

(ロ) 輸入禁制品。

爆發物。銃砲類。刀劍、其他武器。羽毛。或種の文書、書籍類。

(ハ) 專賣品。

阿片。

(ニ) 課税品。

酒類、煙草。

の諸品を除いては一般商貨は自由に無税輸出入を爲すことが出来たのであるが、最近、織物輸入割當制、織物製品、半製品輸入割當制を實施して、英國以外の貿易は障壁を造るに至つた次第である。顧みれば、英領馬來の諸港、特に新嘉坡の繁榮は、英國が一八一九年此の港を開いて以來、その通商貿易政策として自由貿易制度を採用した卓見に基くのであつたが、凡そ一國の海港を自由港となすことの可否は、其の地理的條件、住民の品性、文化の程度、物産の如何等によること論を俟たず、英領馬來に於ても當初英國が採つたこの自由貿易政策といふものがどの位當地方の繁榮を促進し、世界に冠たる東西兩洋の仲繼貿易港として新嘉坡今日の隆盛を來たしたかは何人も熟知するところであるが、近年、名のみ自由貿易港であつて實これに伴はざるを見るは彼我の爲め共に遺憾であり、吾人、英領馬來を第二の故郷として熱愛する在留邦人の齊しく嗟嘆するところである。



海峽植民地織物輸入制限に就て。

新嘉坡に於ては一九三四年六月二十四日付の官報布告を以て一九三四年織物輸入（割當）制限法といふものが發布せられ、同法によれば、關係五ヶ國、乃ち、日本、支那、伊太利、蘭領印度、和蘭の諸國には品種別輸入割當を、又、他の諸國に對しては總輸入額に對する割當を實施することとなり、其の制限適用織物は、綿、人絹、及びその交織物にして重量に於て綿又は人絹が五〇プロセント以上を含むもの、と定められ、人絹布、生地綿布（晒、未晒）、染色綿布、捺染綿布、捺染綿布、綿サロン（カイン及びスレンジンを含む）、人絹サロンの七種がこの割當性適用織物と指定され、輸入免許なくしては何人もこれ等の品を當領内に輸入出來ぬこととなつたのである。

又、近く一九三八年英領馬來織物輸入割當制が官報告示を以て布告せられたが、割當方法の從來と異りたるものは

- (一) ライセンス記載數量を平方ヤード單位とすること。
- (二) ライセンス發給手数料を徵收する事。其の料金は毎十ヤード銀一仙とすること。
- (三) 制限國として新たに佛領印度支那を追加すること。

現行の割當量は次表の如くである。（單位ヤード）。

制限織物一九三八年度割當表。

品名	日 本	支 那	伊 太 利	和 蘭	蘭領東印度
晒、未晒綿布	四〇二三七六四	八〇〇〇五一	一五六〇二六	二四五六二五〇	五六八四四
染色綿布	一四九九〇一八四	一〇一四五〇七五	七九四〇〇〇	四〇九七九五	一〇四一七二
捺染綿布	八七五八二九一	二三六一八四	三五九九七三	三二〇〇六	一一九一七五
絲染綿布	六一〇五七	一四六八	一五八七九七八	一七二	七四
綿サロン	七五七二〇	二九二	九九五〇	三一八三一七	三〇〇七八一八
人絹布	六六八五四五五	一〇〇五三三一	六七二一三三	八一一八	一二五二八
人絹サロン	七三九五二	二一五八	一一四九	一一六一	一五七四
合 計	三四六六八四二三	一二一九〇五五九	三五八一二〇九	三二二五八一九	三三〇二一八五

即ち關係各國は如上の各品目割當量以内に限り本年度中に當方面に輸入することが出来るわけなのである。

海峽植民地織物製品半製品輸入割當制限に就て。

右につきては海峽植民地政府官報第一〇四號告示第三四號を以て織物輸入割當の追加品目として綿製品及び人絹製衣類、綿製肌着、綿製肌着の輸入割當制が實施されたのであるが、其の割當基準及び方法は次の如きものである。

- (イ) 各國からの輸入數量は一九三二年乃至一九三六年輸入數量の五ヶ年平均値を超過せざること。
- (ロ) 一九三二年乃至一九三六年の馬來總輸入高、一年平均の五プロセントを最低限割當額とし、これに滿さざる輸入國は制限より除外すること。
- (ハ) 一九三七年十二月二日以前に注文し、又は、船積したるものにて、一九三八年一月一日以後に輸入されたものはこの制限より除外すること。
- (ニ) 一九三八年輸入割當の超過額は次期割當より控除すること。

割當國及び各割當數量。

綿製及人絹製衣類。		數量(ダース)
日本	支那	一〇五九三
支那	蘭領印度	三五二九
支那	其他	一〇二四〇
支那	綿製肌着。	一四〇〇
支那	日本	三八一八四五
支那	支那	一〇六三七〇

其他	人絹製肌着。	三六五八七
日本	其他	二八一〇二
其他	其他	一五五六
其他	其他	打
其他	其他	打

右に對するライセンス料金は、一ダースにつき銀一仙とし、最低限を銀一弗としてゐて、ライセンス發給完了のときに納付せしめることになつてゐる。

貿易統計示表。

一九三七年度中、英領馬來地方對諸外國の貿易輸出入統計を示表すると左の如くである。(單位、海峽銀弗)。

一九三八年度に於ける英領馬來對諸外國貿易輸出入統計表

(單位海峽銀弗)

國名	輸入總額	輸出總額	輸出入總額
英國	一〇二、三三一、八二八	八二、〇七一、七九八	一八四、四〇三、六二六
英屬領	一〇〇、四一八、六八六	一〇一、九七七、五三五	二〇二、三九六、二二一

歐大	陸	三五、八〇七、三七四	九六、五二七、九二一	一三二、三三五、二九五
北米	合衆國	一七、一二四、九八〇	一七二、七六三、三三二	一八九、八八八、三一二
日	本	一二、四二六、一六〇	五三、八八七、四九五	六六、三一三、六五五
蘭領	東印度	一五二、二二九、三九六	四〇、八七九、一五一	一九三、一〇八、五四七
其ノ他ノ國		一三四、六五四、七五一	三一、五四二、二〇八	一六六、一九六、九五九
合	計	五五四、九九三、一七五	五七九、六四九、四四〇	一、一三四、六四二、六一五

一九三八年英領馬來對日本並外國貿易統計
輸入之部

(單位海峽弗)

品名	數量單位	日本ヨリノ輸入額		總輸入額	
		數	金額	數	金額
鹽干魚	噸	四八	二七、四九五	五〇、八〇七	七、一五四、四一三
鱈罐詰	詰	一、〇六二	二〇三、〇九三	三、〇四七	八三九、四三一
其他ノ魚類罐詰	詰	二六	一〇、六四七	五八九	三二〇、三〇四
生果	實	一三	一、八八四	一一〇、一九〇	三、〇一一、〇九六
寒天	天	二五	五五、三六七	二五	五五、三六七

加糖煉乳箱	箱	三四、六〇六	一四七、八七九	一、四五七、一六〇	九、〇一七、三〇二
紅茶封度	封度	一一〇、五八一	一一、二六一	三、四六八、四〇八	一、〇六八、三五三
綠茶封度	封度	一八、四七六	四、五九四	一、三六七、九三九	三七一、三五三
馬鈴薯噸	噸	四、四九四	一七二、四三四	一五、八二二	八六七、七五六
乾野菜	菜	二五	一〇、一七三	一九、五七九	一一、二二一、〇〇五
料理用油脂類	類	三七三	八一、一九一	七八九	二〇一、六六〇
其他ノ食料品	品	二元	三九、八四九	二、一九二	一、四九三、六四〇
麥酒ガロン	ガロン	五八、五三〇	五三、八〇三	六五六、六三六	八七七、一七七
石炭噸	噸	一六、四九七	一、五七〇、八一七	四七五、七七二	四、八七一、二〇四
錫鐵	鐵	八三六	七五九、七〇〇	二七、七六五	三〇、〇五七、七五二
陶磁器價格	價格		一七五、四九四		六五二、九七六
セメント噸	噸	三〇、三一一	二三七、二二七	二八〇、二〇八	四、四二一、八三〇
家庭用硝子製品價格	價格		八〇、八七八		二二二、五二七
硝子瓶	瓶	三八、一四四	五五、六八四	一九五、三〇五	五六一、一三九
其他硝子及同製品價格	價格		一〇、七五三		二八六、六二九
魔法壺及壺價格	價格		一四、四九八		二〇四、九二六
瑛瑯鐵器噸	噸	二六〇	八四、二六一	一、八八七	八八八、一三三
亞鉛引鐵板	板	一三九	三三、二〇九	七、八七〇	一、四六一、三五二
鋼鐵板	板	一三三	一五、〇三〇	一六、七九四	二、〇一九、六七六
其他ノ鐵線	線	二	六七九	三、七五七	五五五、四六五

鐵線金網釘	〃	五
眞鑄及同製品	〃	四
時計類	筒	二、五六五
しるけつと綿絲	封度	六、一三〇
未晒綿布	碼	二、九五〇、九六一
染色綿布	〃	七、三五九、六六三
捺染綿布	〃	八、九二一、四四六
絲染綿布	〃	八、二五〇、三五
綿毛布	枚	二、三〇、三三
綿手巾	打	二、七八五〇
家庭用綿製品	〃	四七、〇九一
綿サロン	碼	七、三七、四五九
絹サロン	碼	二、二四六、九一〇
絹織絲	封度	六、一八、三五一
其ノ他ノ絹製品	碼	六、一九四
人絹	布	五、八四、〇九九
人絹手巾	碼	一、六二一、一九
家庭用人絹製品	打	二、三、九二七
卸飾ピンの類	價格	二、七〇一

一、一〇九	五、五一四	六、六五、七九七
四、八五六	五、一四	五、六〇、六三八
八、七七八	一一八、一〇三	三〇三、六四七
四三、一〇六	九四、四〇九	八四、七五六
二二、三三三	一一、三三一、五四四	一、二四一、五六九
七、八、〇四三	三〇、九四四、八一八	五、一七八、二〇五
八、八〇、四八四	二六、四九八、七三〇	四、六九一、四五五
五六、三九三	一七、四五八、一五八	二、六三四、八一
一四、六六七	八六〇、五八八	三、八六、九五二
一三、七二六	三二二、〇九八	二、七八、〇七〇
一〇五、一五八	四三七、一四九	六、六〇、五七八
八〇、八五三	七、六〇三、三六七	三、〇五五、〇三五
六四一、九九九	三、四〇四、七九〇	一、二五、一三六
一七六、三六九	六、二七、七六五	一、八七、三五七
一一、五八〇	五〇、一九〇	八、六、〇四二
一八七、四五〇	六、一一、〇三三	二、一三、四九三
一、五四、五八六	一四、七二七、五七七	二、六三五、〇四三
一九、七二五	二、三、〇〇四	一九、九九八
四五、二二五	二、七六、二	四、六、七八二
二四、四〇三		三四二、九三二

帽子類	打	二、五九四
綿及人絹製衣服	〃	四三、六七三
人絹製肌衣類	打	二、八六八
綿製肌着類	〃	二〇三、三三
其他ノ綿及人絹衣服	〃	七、四〇〇
右以外ノ其ノ他ノ衣服類	〃	一、八五三
カーバイト	噸	七、一
醫療藥品	封度	三三、二七二
精製油	ガロン	一、四一一
洗濯石鹼	Cwt's	一〇、五八六
印刷紙	噸	二〇二
其ノ他ノ紙製品	Cwt's	九六五
鐵道部分品	價格	
自動車部分品	〃	
自動車部分品	〃	
自動車タイヤ	筒	二、六〇七三
自動車タイヤ	筒	一〇
自動車タイヤ	筒	一五、八一六
自轉車チューブ	〃	二四、七四六
腕輪	打	九六、七九五

六、七四〇	三六、九〇一	三四五、〇五一
一五六、四八〇	五三、七八三	二八五、二三〇
六九、七二六	三一、一六	一八二、五五三
四四一、〇七七	七八二、七三六	一、九二七、八七一
八、九五九	三四、七三七	一一九、六九五
七、〇八八	二八、六二七	一四九、三九二
四、四一八	二、五七九	二七六、一六三
五四、三九九	四六、六〇〇	四八八、九四一
二四、五七九	一三、四三四	一三三、六八四
六四、四八〇	七九、六八〇	七二六、八九三
三九、九一三	二、一〇四	五二、七九四
三一、七五五	三六、七〇七	一、一六四、一五〇
二五、二四九		三四四、四五〇
二四		一、五三七、五九六
八四、五四三		九一九、二五五
九四、九八〇		四〇八、六三八
九四		一、七七、四〇三
七、五八七		二七八、三三八
四、四〇六		八五、二九四
四、二四一		一七、五四三

品名	數量	輸出額	
		日本へ	總輸出額
裝飾品	價格	二七、八九一	二二八、三三四
ラ	筒	九七、四八〇	二九、五六六
燐寸	萬本	一四、六七三	六四七、六七一
著音機	筒	一八、四五四	一、三四八、七七六
文房具	價格	三九、七二五	八、八二六
普通莫	Cwts	一〇、七九二	一、一八、四六〇
玩	具	七四、九一五	四三、〇六二
鳳梨包裝箱	筒	六七、五三九	三五、〇一四
其ノ他ノ木製品	價格	二、三三六、五七七	三六三、七一五
英領馬來へ輸入	價格	二、三三六、五七七	一七、九七五
其ノ他ノ商品合計	價格	二、三三六、五七七	四四三、五二五、六九五
合計	價格	二、三三六、五七七	五五四、九九三、一七五

輸出之部

品名	數量	輸出額	
		日本へ	總輸出額
鐵礦	噸	一、五三一、三三三	一、五三一、三三八
鐵屑	噸	二、八九二	三、三二七
滿	噸	三〇、五六九	三〇、五六九
鐵	噸	七、三五三、二五五	七、三五七、三八二
滿	噸	五七、二一九	七、一〇、〇九
鐵	噸	二八三、三五四	二八三、三五四

(單位海峽弗)

品名	數量	輸出額	
		日本へ	總輸出額
古金	ラ	二、七二三	一、一五四
コ	ラ	二〇、二九三	一八六、二七〇
パーム	油	四、五八七	五四、五三九
牛	皮	三〇、一九六	一九三
パ	ゴ	一七、四五〇、九〇二	五二、四〇一
籐	噸	一〇三、五〇八	八、〇九七
燐酸	噸	一、四四三、三三三	一四六、七三八
石灰	噸	九四、二八四	四四三
夜光貝	噸	二七三	三、九一六
高瀨貝	噸	一、二六、六六六	三、九一六
カ	チ	一四、〇三二、三三七	六二、一八七
錫	噸	一七、六三三、九六三	一一八、八二一
石	油	一〇、四八八、二八一	三六〇、六九三
ベン	油	四四、七八八	七二、三三三
テ	油	九三九、九六八	四六、二六三、八一四
英領馬來	油	五三、八八七、四九五	五七九、六四九、四四〇
其ノ他ノ	油	九三九、九六八	四六、二六三、八一四
品合計	油	五三、八八七、四九五	五七九、六四九、四四〇
合計	油	五三、八八七、四九五	五七九、六四九、四四〇

こゝに掲げた「貿易統計表」には紙面の都合により年額十萬弗以上の商品のみを示表するに止めたが、尙、この他に日本よりの輸入品は數百種を越ゆるであらう。これらを生産する日本内地の製造業者の中には大資本企業によつて「水の流るゝが如くに」大量的に製産される商品もあらうし、

又、純朴なる田舎の家内工業で丹念に製造された手工藝品もあらう。此等、愛すべき同胞によつて生産された日常必需品、乃至、郷土色ゆたかな美術工藝品などが、五つの人種みな擧つて重寶がり、よろこんで日々の生活に資してゐるのであるを思ふとき、われ等の前途まことにほゝ笑ましいものがあり、愈々國威國光の宣揚に努めねばならぬことを思はせる。

從來、内地商人の或るものは、一途に商品販路を擴張せんとのみ冀ふ餘りに、徒らに價格の引下げ競争のみを企て、兎角、質よりも量に重きを置いた傾向があつた。即ち、一方「日本品を取引せざれば利益なし」とまで好評を博して外商みな競うて國産品を歓迎してゐる反面には「どうせ粗製品たるは止むを得ない」といふやうな酷評をもまぬがれなかつた。近時、我國産は、其の價格愈々低廉なると共に、其の品質著るしく改良せられ、量、質ともに斷然他國品を抜いて天下によびかけてゐるのは寔に御同慶に耐へぬ。今後とも一層この好評を恣まゝにして、大商業國、大生産國の實を世に誇るべきことを忘るまい。

英領馬來在留邦人の三大事業

まづ英領馬來の産業一般であるが、後章更に述ぶるが如く、農業としては、護謨、椰子、鳳梨、檳榔子などを主とし、其の護謨の栽培面積は、一九三四年中の調査で、三百十五萬エーカー、即ち大凡百二十八萬五千二百町歩、恰度、百萬ヘクタール餘といふ廣さ、生産高四十八萬噸と稱して全

世界の護謨生産高の五割を占めてゐるが、内、本邦人の經營に係るもの大小合計百二十餘園、大凡八萬エーカー、まづ全栽培面積の四十分の一が邦人によつて經營されてゐるわけである。

又、鑛業の方は、錫、鐵、マンガン、金、水鉛、更に近ごろ石原氏によつて世に出るに至つたペラ州所産ボーキサイト、乃ちアルミニウム鑛、など頗る多種に亘つてゐるが、就中、錫はペラ州に多産して、一九三四年度の調査では一年三萬七千噸と稱し全世界産額の三割、また、鐵は本邦人の獨占經營といへる位でヂオホール州から出るもの、トレンガヌ州から産するもの、何れも邦人の手で開發された山の幸、年産七十萬噸といふのである。

林業は木材を主とし、又、籐、ダマール（樹脂）グツタペルカ（樹膠）、其他、香木、染料などである。

更に、漁業は殆んど本邦人の獨占で、後章述ぶるが如く、新嘉坡在住邦人の約三ノ一がこれに當つてゐる位、邦人の手によらずして當方面在留の誰れも彼れも鮮魚といふもの一切食膳に上すことは出来ないのである。

では、その邦人の經營する當方面三大事業に就て聊か述べさせて頂かう。

大體、新嘉坡——ばかりで無く當領一般に——於ける在留人士、何國の民でも皆、其の活動乃至將來の發展を一に英領馬來諸州に於ける豊富なる鑛産、農産、及び近海の水産事業の隆昌にかけて

ゐるのは當り前であるが、特に邦人にありては元々外地へ出向いて來てゐるのであるから其の殆んど全部が事業の興廢によつてのみ此の土地に係累するのはまた止むを得まい。但し、われ等、此土に來りて未だ久しからざるものと雖も、地とともに興り、地と共に樂しまんとする至誠は決して他國在留民、乃至、土着の民にも後れぬつもりである。

(一) 鑛 産

馬來に於ける鑛産事業中、その鐵鑛、水鉛鑛業は本邦人獨占と稱するを憚らないものである。乃ち、大正九年九月、石原廣一郎氏はじめてヂオホール州スリメダン鐵山の採鑛に着手して以來、そのケマン鐵山よりの産出を合はせ既に約一千萬噸の良鐵鑛を内地に輸送し、尙、愈々その業務を擴張しつゝあつて、初め設立した南洋鑛業公司といふものも今は改組して石原産業海運合資會社と稱し、所有船舶十五隻に上り、毎月その七・八隻をバトバハ港に廻航せしめて鑛石の輸送に力を盡しつゝあるので、僅か十五年前までは本當に地方の一寒村であつたバトバハ港近郊一帯が今ではヂオホール州下屈指の繁榮を示し、其のバトバハ市も人知らぬものなき一海港都市とまで發展してしまつたのである。また、大正六年十月創立、久原氏經營の日本鑛業株式會社によるトレンガヌ州ドンガン鐵山よりの採鑛は、半島隨一の良鑛石であつて、純鐵平均六四プロセントを含有し、八幡製鐵所と特定の賣鑛契約の下に現に年額百萬噸産出を目標に事業擴張工事中であるが、其の鑛石、

小は大豆大の細粒から、大は一塊八萬噸の巨鑛石に及ぶといふから驚ろく。更に、ケランタン州タマンガン鐵山といふのは昭和十年十月の創立で、日本鋼管株式會社川崎熔鑛爐と直接に連絡してゐて昭和十三年春、はじめて第一船の鑛石積出しを行つたが、其の將來は大いに囑望すべきものと聞いてゐる。

パハン州エンドウ鐵山といふのは昭和十一年一月、飯塚茂氏の創立起工で、其年初秋すでに二隻の巨船によつて一萬六千噸の良鑛石を輸出してゐるが、年産五十萬噸を約束して着々事業の發展を見てゐるものである。又、ヂオホール州シテリー河に於て飯塚氏が奇蹟的に發見した水鉛鑛も昭和十二年中から既に採鑛を開始し、前途洋々たるものとして知られてゐる。

其他には、前述した如く石原氏によつてパハン州ロビン鑛區に埋藏量六・七千萬噸と思はるゝ新鐵鑛も既に採掘許可を受けて活動の準備中であり、又、氏はアルミニウムの原鑛なるボーキサイトをも當方面で發見して、前述、飯塚氏のタンダステン鑛と共に將來その資源に乏しい我國の工業界に大きな約束をしてゐることは寔によろこばしい事である。

(二) 農 産

馬來地方に於ける農産としては、大作物として、護謨、古々椰子、米、油椰子、鳳梨などを算へ、中間作物として、タピオカ、檳椰子、魚藤、珈琲、茶、阿仙藥、煙草、芭蕉、蔬菜、諸種の果樹、

などを栽培してゐるが、又、小作物として、香料、藥草、雜穀、纖維植物、油草などを擧げることが出来る。

右の内で、邦人關係事業としては其の大作物、主として護謨、古々椰子。及び油椰子が算へられる。

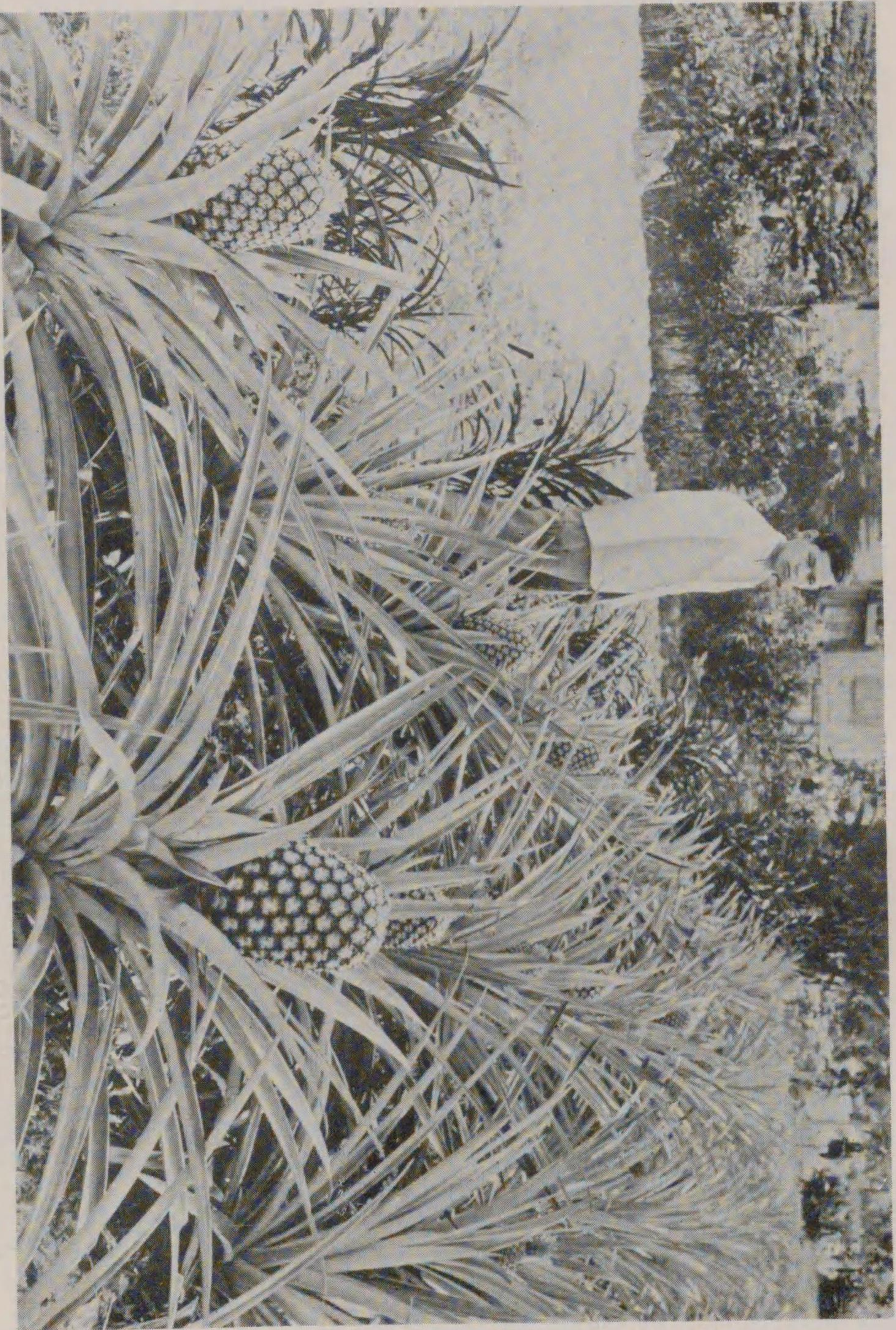
馬來に於ける最主要農産物たる護謨は、所謂パラ護謨樹 (*Hevea brasiliensis*) から採集する樹膠であつて、この樹は臺灣などで見るあの大型の葉を持つた護謨樹 (*Filica elastica*) とは違ひ、乃ち今から約六十餘年前、明治九年 (西、一八七六年) の頃、ムルトン氏等によつてブラジル國から輸入された外來樹である。

乃ち、原野を切り開きて此の護謨樹を植林し、一定の歳月を経て胸高樹幹周圍五十センチ内外に發育すれば、そろ／＼これに特製の小刀を以て斜めに樹皮削切を課すると白色粘稠樹膠——これをラテックスと稱してゐる——が滲出して来るから容器に受けて蒐集し、醋酸、蟻酸等の水溶液中に凝固せしめ、ロールにかけて板狀となし、更に燻烟處置を加へて初めて市場に出すのである。

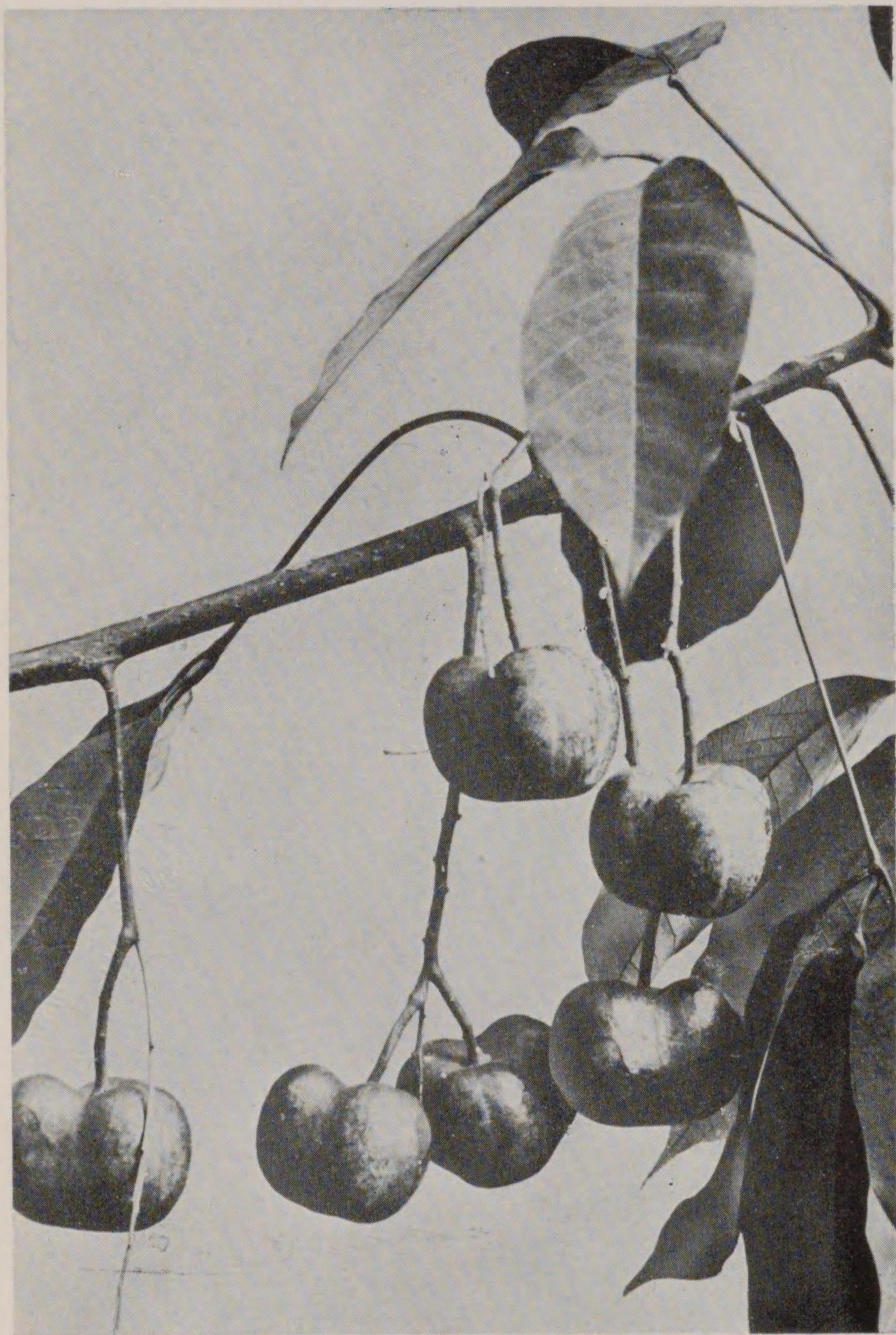
馬來地方に於て初めて護謨樹を栽培したのは我が明治十六年 (一八八三年) の頃、ペラ州コーラカンサ地方に於て、サー・ハフロー卿によつて企業せられた小規模の農園に於けるものであつたと云ひ、又、邦人で初めて護謨樹栽培を創めたのは明治三十六年 (一九〇三年) 中のことに屬すとあるが、爾來、護謨の市價騰落に伴ひて邦人の護謨園經營もまた一張一弛を免がれず、現在盛業中の



椰子樹



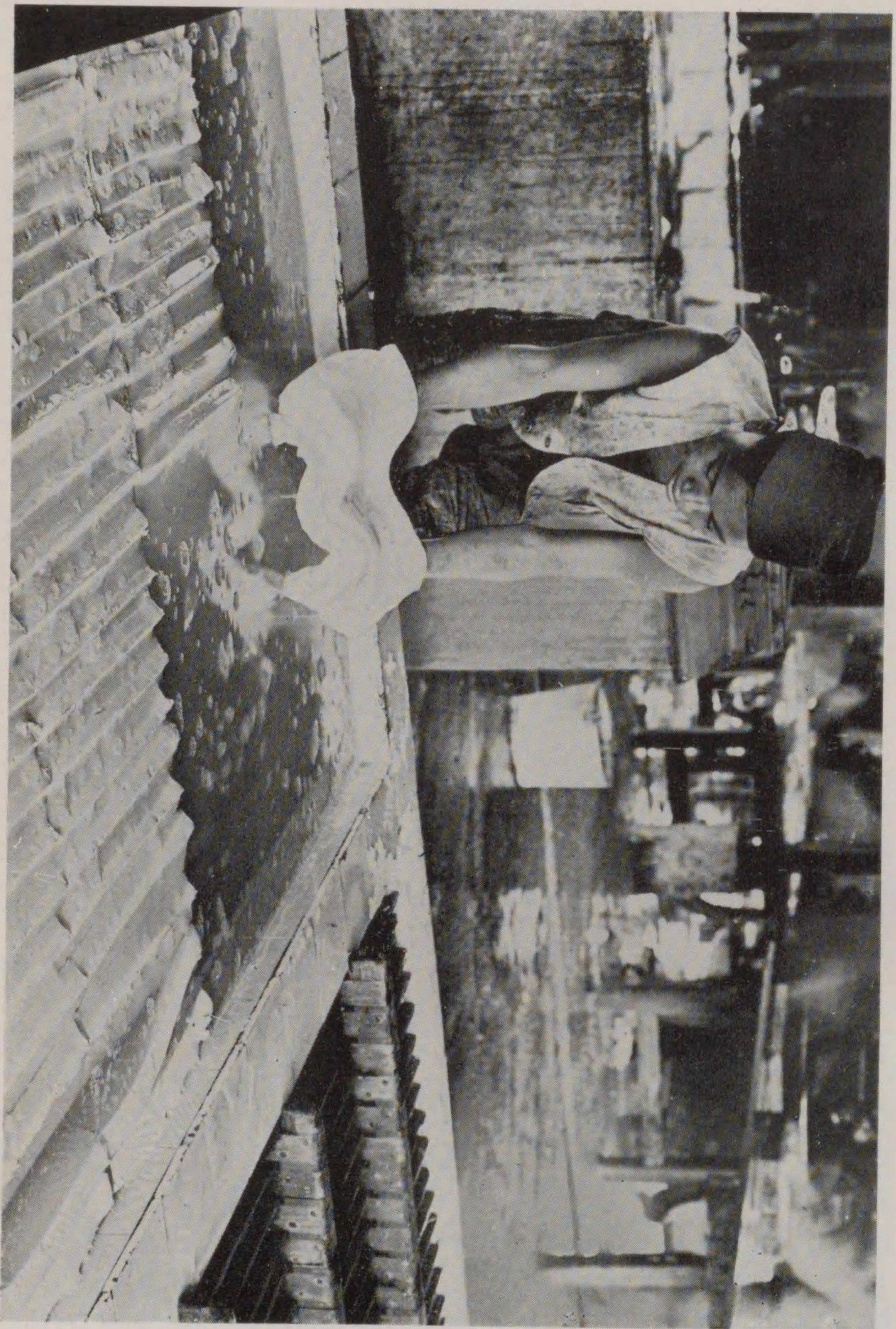
鳳梨 (パイナップル)



パ ラ 護 謨 (ブラジル原産)



護 謨 樹 (膠汁採集)



護謨樹膠汁の凝固作業

邦人農園中、主なるものは多くヂオホール州内にあるが恰度今は護謨の市價は稍低落してゐる際なので事業は以前ほど活潑で無い。主なる邦人農園はコタテンギ郊外に、眞植、速水、秋田、菅原、南洋護謨柘植の諸園があり、パンチョール區には南洋護謨、テロスンガイ區に南亞護謨、テコン島に三井の熱帯産業、ランサ區には南洋護謨柘植、バトバハ區に柔佛護謨、大和護謨、女羅園などがあり、又、三五公司はペンゲラン區に於ける其の植林地をはじめ、各地に植林してゐるし、其他、個人所有經營の護謨園、乃至椰子園も數十ヶ所に上り、みな相當の成績をあげてゐる。その内、面積五百エーカー内外のもの、乃至稍小規模の農園中、知名のものは、原口、得村、田尻、磯崎、三笠、石橋、松村、福田、太平、越後屋等の各園であらう。

(三) 水 産

外南洋(註。從來當方面を表南洋と稱し、わが統治下の南洋諸島を裏南洋と呼び來つたが、これは面白くないと思ふので、筆者等は常に内南洋、外南洋と區別してゐる、幸ひに御賛成を願ひ度い)に於ける本邦人漁業者の出漁圏は、西方はビルマ州の沿岸から東南方は濠洲近海、北はパラセル、新南の兩群島を覆ひ、又、臺灣の高雄港を本據とする高瀬貝其他の貝類採取漁船は遠く蘭領群島、新南群島あたりに出動してゐるから、其の漁撈區域は廣く東西二千哩。南北三千哩の大洋に汎り、堅忍不拔なる我が同胞漁業者の活動成績は巍然として諸外國同業者を壓倒し、近年、新嘉坡漁業市場のみにつ

いてこれを見るも、總漁獲高の約三分ノ二は本邦漁業者によつて水揚げせられ、其の價格は一ケ年百三十萬弗を下らないといふ盛況を示してゐるのである。

新嘉坡市に本據を有する本邦人漁業組合中、永福虎氏の經營に係る大昌公司是當方面邦人漁撈總高の約八割を收獲し、一ケ年賣上高約百萬弗に上るもので其の使用してゐる船舶も、運搬船二十五隻、内火發動機漁船三十餘隻、帆走漁船二十隻といふ數を算へ、從業漁夫約七百人、最新式の製氷工場と冷凍倉庫を備へ、現在、製氷能力一日二十五噸、冷藏庫積六百噸、しかも近く業務擴張の要に迫られてゐる上に、將來數千噸を算する冷凍船を用意せねばなるまいといふ位の勢である。其他、大城、金城、新里、の三漁業組合從業者を合はせ、新嘉坡在住本邦人漁夫の總數は昭和十二年度に於て合計一一二八人を示してゐるが、多くは沖繩縣乃至薩南出身の健兒であるのは頼母しい限りである。

(四) 畜産

昭和九年中、はじめて日本煉乳共同販賣組合といふものが開設せられ、事務所を新嘉坡に置いて其の販賣する國産煉乳は主として北海道に於ける極東農場所産の優良品で、アーム印、金線印、メリーミルク等の名で定評があり、既に一ケ年の輸入總額が十萬箱、五十萬弗を突破して英國製品を抜いて、和蘭、丁抹國產品に次ぎ數量では第三位を占め、その品質はまた甚だ優良で、新嘉坡市役

所衛生試驗所の定量分析成績に徴しても和蘭、濠洲、瑞西の諸國製品に比し一頭地を抜いてゐることとは争ふべからざる事實である。これ亦、當方面の生産物では無いが、邦人の事業として、鑛産、農産、水産と共に將來大いに囑望すべきものであらう。

新嘉坡

位置。面積。地勢。

何度申上げても一つ事は同じことである。新嘉坡島は赤道直下に位し、とあるが、正確には北緯一度一七分、東經一〇三度五〇分、一層やかましく申せば其の南端は實に北緯一度一五分四三秒であるさうな。乃ち、例の赤い線を北に距ること一二〇浬、昔の言ひ方では約七六哩、或は大凡三十里と四町位、いづれを採つても甚だ遠くないところにある南溟の一青螺で、其の面積ざつと五七〇平方浬、乃ち、二二〇方哩であるから約十四萬と飛んで八百エーカー内外、さまで廣くないが、これが東洋の玄關なのである。

で、島内には高い山は無く、最も秀でゝゐるのが新嘉坡島の中央、恰度、ヂオホール行の途中、市中心から走行八哩のあたり右側に聳え立つブキ・テイマ丘で、和譯すれば白錫山、標高一五二米突、乃ち約五〇〇尺ほどのもので、其他はいづれも一〇〇米内外の小高い丘が三四ヶ所。入港の際に見える燈臺山、あの信號旗を掲げて出入の船舶を送迎する升旗山、フォートカンニングといふ昔の砲臺の跡であるが、あれが海拔僅かに五〇米突内外のもの、また、多くの外航船舶が碇繋する埠頭、タンチオン・パガーの停車場脊後、西方に聳えてゐるマウント・フェーバーといふ氣象臺の所在地

が標高三四五呎、即ち、一〇四米突に過ぎないのである。島も小さいが外觀から申したら一向平凡なもので、沖合から見ると此のマウント・フェーバーが獅子の頭に、ブキ・テイマの丘が少し遠景になつて脊中のやうに見えるとか聞くが、まづあまり立派な獅子でも無いやうである。

一般に地勢が低濕であるから沼澤は到るところに多く、自然に渚水を落す泥川も島の北側、ヂオホール海峡に面して、東の方から算へてセラングーン川、ポンゴール川、セレタ川の他、尙、二三條の小川が流れ、ヂオホール街道に沿ふて克蘭ヂ川といふのも流れてゐる。克蘭ヂ川の河口に海軍の無線電信所が見える。

又、外洋に面して西の方にはヂュロン川といふ小流があり、更に流れは細けれど市の中央を貫くシンガポール川、この川の水上には所謂水上生活者といふ屋根舟に一家を營む先生方が一杯に纏つてゐるのも奇觀である。これは中央郵便局の裏手あたりからよく見える。

じめ／＼した沼澤は到るところにあるが、満々たる水を湛へてゐるのは二つ、トムスン路を行くと五哩から六哩を過ぎて七哩までの間、西側に近く二つの大貯水池、マツクリチ及びペアスと夫々稱せらるゝものが街道から百米突内外のところを横たはつてゐて、散策に、ランデヴーに、いと好適である。

而して、新嘉坡市といふのは此の島の東南側、外洋に面して東西に約四哩、それから市街の厚みといふか、奥行は平均して一哩見當の區域を申すのであるが、勿論、尙、少し奥の方にも住宅地が

追々發展してゐる次第で、所謂、市界といふものは主として東方、ゲーラン區、カトン區方面、及び、ヂオホールに通ずるブリテイマ街道に沿つて年を追ふて擴がつてゆくのを認めることが出来る。だから、理窟は別として、私共は新嘉坡市といふのは面積約六方哩、人口大凡六十萬、などゝ人にお話してゐるのである。

文化史。人種。人口。

大體、文化史などいふもの、必ずしもかくの如き小冊子にあつて、しかも倉皇として一宿一飯の觀光を急がる、「素通連者」^{ストレンジャー}諸客に對して、強要すべき必修課目では無いのであるから、若しまた此れを無益有害と御みとめの大人は、御遠慮なく飛ばして先きを讀んで頂き度い。乃至、残りの見物を明日に楽しんで御精進よく船にお歸へりになり、荷役のウキンチ、音轟々として夢まどかならぬ頃、催眠劑として御漫讀など、いかゞ、などゝ聊か記してみるだけのことである。

新嘉坡植民地の歴史は、西曆一八一九年一月、前に述べたスタムフォード・ラフルス卿の當地上陸に初まる、と思ひ込んでゐる無學な連中が多い位では無い、學校でも左様に教へてゐるし、事實其の以前史として世に普遍的に知られてゐるものは殆んど無い。唯、わづかにラフルス博物館の一隅に先人使用の石器が保存されてゐることや、フォート・カンニングの丘に古代墓地の跡などがある

る事によつて英人植民以前に前任の土人ありしことを察する程度の人が多數であらう。

この古墳は傳へらるゝところによれば新嘉坡の最後にしてマラツカの最初の王たりしサルタン・イスカンドル・シヤアの墓であるが、其の附近から出土した黄金製の飾りものなどには十四世紀初葉の製作にかゝるものがあり、又、博物館に保存されてゐる新嘉坡河口から發掘された古碑の破片に刻まれた文字によつても大凡その頃のものだと推察することが出来るさうである。

然らば新嘉坡島に於ける先住民族は、そも一體、何者であつたか。これは所謂オラン・ラウ、即ち一種の海賊でキプリングの所謂「オレンヂロード」これであるが、其の子孫は現に、恐らく當地御着船のとき御覽になつたらう、あのタンデオン・パガーの埠頭近く、往き來の船客が投げ與へる錢を波間に求めて魚の如くに水を潜る例のダイバーとして、棧橋對岸に原始的な一寒村を結んで暮らしてゐる連中、恰度、この稿を起した頃、本年七月下旬、仲間が一番といふ老人、推定年齢六十餘歳のダイバーが不幸にも投げ與へられたる錢を波間に追ふて飛び込んだ一刹那、四米突もある大鱈マサトにがぶりとやられて片手兩腿を美事に喰ひ取られ、赤道の海を眞つ赤に染め乍ら「孫をたのむ……」と一言叫びのこして死んで行つたのを現に目撃した邦人も少なくなかつた筈、此の老人など特に火の點いた葉巻をくゆらせ乍ら客の投げる錢を追ふて飛び込む瞬間、その葉巻を逆さに口中に含んで海に入り、錢を握つて波の上に浮き上るや、まだ火の消えぬ葉巻を元の如くに戻して悠々とこれを燻ゆらせる、といふ妙技を賣り物にしてゐた愛嬌者、度々當地寄港の諸客中には必ず御記

憶ある御方もある筈である。あの老人、鱧に喰はれて死にましたよ。と、御報告旁々、弔つておく次第である。

尙、新嘉坡島には有史以前、所謂モン・クメール族の植民といふのがあつたらしく、更に下つて西暦一二五〇年頃スマトラ島パレムバンの一王族が海を渡つて來寇し、當時テマセク、或はチュマシツクなどと呼ばれてゐた此の島を征伐して、シングハ・プラなるサンスクリット語源の稱呼を新らに宣したなどいふ話は前章にも一寸述べたが、此のシングプラなる地名は當地の土着民族が主として其の文化を印度から輸入し、従つて佛教の影響を多分に受けてゐた事實を思はしめ、その教化は漸く南下してジャヴァ、バリ等の地に深く根を下ろした。といふよりも當時西南季節風に乗じて印度方面から東通印度に渡つた文化が一と足遅れて馬來の地を訪づれた、と考へるのが本當であらう。

で、其後の話になると、南部馬來の統制はアレキサンダー大王の後裔たるサン・スペルバ王朝のときに形を整へたと信ぜられてゐるが、此のサン・スペルバ王といふのはスマトラのパレンバン土王で、其の弟に當るニラウタマ王といふのが最初のシングポール王として土民に君臨したといふことは、前章にも述べた通りで、今でも、ペラ、デオホール、リンガ、トレンガヌ、パハン諸州の王侯は皆自らサン・スペルバ大王の後裔と稱し、従つて、遠く先祖をたづねればアレキサンダー大王何

代とかの子孫だと力むでゐなさるが、就中、ペラ州王の如きは太宗直傳の神璽として一振りの太刀と神典を護持してゐて、其の太刀は鼈甲造りの刀柄に金銀の星を飾りちりばめ、アラビア語で頗るやんごとなき神句を刻してあるさうだが、考古學者の見るところでは、これは内證の話乍ら、あれは古くてせいぜい五百年、アレキさんの關係すこぶる曖昧朦朧だけれど、まあいゝぢや無いか、との説もある。また其の神璽と稱するものは木製だつたので久しき以前に白蟻にやられてしまつて、其の一片を取つて璽撮に填め込んだ銀製のものが現在傳はつてゐること。以上、馬來の傳説いろ／＼は必ずしも凡て信をおくに足りても足りないでも、兎に角、西暦六〇〇年以來の記録によつてパレムバン王が印度文化、乃ち佛教を崇信したことは確かであり、又、その王朝の威はスマトラ全島は勿論、遠くセイロン島まで及んでゐた事も西暦一二七〇年中のパレムバン軍セイロン遠征史に詳しいから、自然、新嘉坡乃至馬來半島の大部分が先づパレムバン王軍によつて統制せられたといふ話も疑ふ餘地は無い。

其後の新嘉坡は幾度か戦塵にまみれ、何回も復興せられた結果、五人の酋王によつて統治せらるること約百年間、一時は一大殷賑海港として繁榮を極めたことも馬來年代記に出てゐること、これ亦前章、馬來半島の文化史に略述しておいた如くである。

それで、十四世紀の初めに至つてシヤム國の一海將が新嘉坡港の侵略を試みて失敗したことも一八二二年に出版されたクロフォードの著書に明らかに述べてあるが、當時の新嘉坡の防備といふの

は高さ八尺乃至九尺、厚さ基部に於て十六尺といふ城壁が、今のフォートカンニング邊りからスタムフォード・キヤナル、乃ち、博物館附近まで約一マイルの間延々として築かれ、此の長城によつて北境を守り、東境は乃ち海に面し、西方は新嘉坡河が天然の守りを爲す、といふ三角形の城市を成してゐたといふから、其の當時の兵器では到底何んとも致しやうが無かつたものと見える。

で、其の城市の中心たりし地點は今のフォートカンニング丘で、あの頂上、例の燈臺のあたりが王城であつたらしく、これを圍んで各重要建築物が軒をつらね、其の多くは煉瓦造りであつたことは、今でも折々其の地域から發掘される土器、其他十世紀から十一世紀頃支那で發行された青銅錢などによつても、また實際、十四世紀の所産と印せられてゐる屋根瓦、鬼瓦、土臺石、煉瓦、其他の建築材料が夥しく出土することから測り知り得るし、尙、一八四二年度、乃ち我が仁孝天皇の天保十二年、といふから昭和十三年から算へて九十九年前に行はれた當地最初の國勢調査の結果として其の十二年後、乃ち西曆一八五四年に發行された政府の地圖などによつても當時の政廳は唯今のフォートカンニング丘頂に集中せられており、商家は主として現今の所謂「大坡」に楯比し、ラフルス廣場は直ちに海に面して其の兩翼端に砲臺があり、右側の砲臺背後には海に突き出した中央市場があり、バッテリー路、マーケット路などの名がこれから起つてゐることが判るし、又、觀光諸客にして少しく注意深いならば、乗船を出て市中見物の途、新嘉坡停車場を過ぎて突き當り左折すると間もなく右手海岸には今尙當時の名残りとして小さな岬が砲臺らしく南方海上を睥睨してゐる

のにも心付かれようし、又、路上に近い草原に、筆者が知つてからでも二十年そのまゝところがつてゐる舊式大砲の一門も見出さるゝかも知れぬ。この廢砲は今たしか清涼飲料水の廣告文字が白ペンキで醜く書かれ、世が世なればこそこの感深く見られるものである。

其他、西曆一八五四年ゑがところといふウオーリチ丘より新嘉坡鳥瞰圖、これは博物館にあるが、恰度、野毛の山からのイエといふ横濱村をそのまゝに其頃の異人さん姿を近景の、當時市中見取圖が昔なつかしく——と申しても筆者自身の話ではないが——多分いま土着三代の孫あたりの人、感慨無量の水ツ渙をそゝるかも知れぬ。升旗山から掘り出された澤山の古煉瓦には其の製造年號を刻み込んだものが多く、其のうち一部は港外セントジョンの檢疫島などで今だに石階のうちに使用されてゐるから驚ろく。

さて、英國人が初めて馬來半島乃至其の近くにやつて來たといふのは、前述べたやうに西曆一五七六年、わが足利時代の末、人皇一〇六代、正親町天皇の御宇から所謂、戰國時代に入つた頃、豊臣秀吉が躍進的に活動してゐた時分であつて、一番さきに來た海商の名は青史に詳かでないが、後二年、有名なサー・フランシス・ドレークが世界一週の途こゝに寄泊して新嘉坡の將來性を認識したと云ひ、又、最初に本當の植民地移住をやつた英人はロンドンの商人、ラルフ・フィッチといふ男、時は一五八三年のころであつたといふ。

とまれ、ドレーク提督の世界一週土産談に刺激せられて、一五八八年の頃當方面に乗り込んで來

たのがカヴェンディッシュ、續いて一五九二年にはランカスターが來航して着々として馬來貿易の歩を運び、一六〇〇年には例の東印度會社といふものが創立せられ、當時、今の海峽植民地と稱する諸海港がまだ印度人の支配下にあつたのを段々手なづけて一八七六年には全くこれを英人の手に收め、これを導火線として遂には今の英領印度、ベルマ州といふ廣大な國土を開發してゆくに至つた次第である。

であるから、前申す如くスタムフォード・ラフルスの當地上陸は一八一九年一月であつて、實は、これに先だつこと四十年前、すでに彼氏の先輩はこゝに兎も角大英國の國旗を樹てたわけ、但し植民とか鑛山でも發明でも同じだが、往來で墓口を拾つたのとは違つて一番はじめに氣の付いた奴必ずしも名を成さず、やはり新嘉坡の開發者はラフルス卿といふことになつてゐるのは止むを得まい。何しろラフルス卿上陸當時の辛苦はまことに恐察するに餘りあつて、まだ其頃、附近は海賊が横行してゐて些かも油斷は出來ず、これがまた恐ろしく狂暴で、商船どころか軍艦まで襲ふといふ勢、これは或は今の英國海軍名譽の爲めに申し述べぬ方が友誼であるかも知れないが、西曆一八四六年といふから我が弘化三年、今から九十二年前の話で極めてほんのト昔前だが、一英國軍艦の士官がカンポン・グラムに居た海賊の大將に武器を譲り渡したりしてゐる報告があり、カンポン・グラムと申せば今のピーチ路、ラフルスホテルの附近であるから、それこそ政廳の眼の下、お玄關先きで、しかも軍艦の士官が海賊を手なづける爲め左様の取引きまでやらざるを得なかつた程、事

ほど左様に惡魔であり難物たりしオラン・ラウであつたらしい。

但し其後、海賊も追々に打ちたされて絶滅し、其の殘黨も今のブラカン・マテの砲臺島附近寒村に逃竄して水潜りとなつて鱗に喰はれなどしてゐる間に、市の治安は愈々着々確固となり、一八二六年に發布された最初の法律、一八五五年に布かれた刑法、民法、諸君、驚ろく勿れ、現今尙そのまゝ適用せられつゝある當地の裁判法令が、それなのであるデスぞ。尤も多少は改訂しておりませ。更にまた、一八六七年中、乃ちわが慶應三年、英領馬來を印度總督の主權下より分離し、別に海峽植民地政廳を置く」と發令あり、初めは王領として香港やセイロン島の如く英國王室直屬の植民地とせられた。即ち香港が一八四〇年の阿片戰爭で英國に割讓せられ、其の新占領地への植民第一船が遠く喜望峯を迂廻して新嘉坡に寄港したのが翌一八一四年、當時の新嘉坡太守エルデン卿の進言によつて實現した本國からの王國政府郵便第一行囊がピーオー會社船によつて當地及び香港あてに送付されて來たし、其の前後、たとへば一八五七年の印度兵反亂などに際しても當地から兵を送つたなどの事もあり、香港駐屯軍も一とまづ此地に足をとめてから軍容を整へて出發するなど、漸く軍事上にも重要な地點といふことになつて來たのである。

一八六三年、史上に有名な巡洋艦アラバマ號の來航といふ事件があり、當時、米國では南北戰爭中であつたので此の附近海上でも商船が數隻撃沈せられたりしたことや、又、同じ年にタンヂオンパガー船渠會社が創立され、其後四十年を経てこれが政府の手に引き渡され、新嘉坡港務局が出來

上るまで長い間に亘つて東西兩洋交通の衝に當つて一大貢獻を爲したなど、算へ立てれば限りが無く、特に一八六九年、スエズの運河開通を見て以來、新嘉坡が世界有数の大海港にまで發達し、更に最近數年、空港として東洋航空路の最重要衝となつたまでの躍進的の活歴史は現存の先輩間にも或はまのあたり賭ておらるゝ方々もある位、茲で所謂文化史と申すもの、まづ以上の程度であらう。尙、ブラツデル氏の著「新嘉坡一百年史」大蘭王氏の筆になる「在南三十五年以前史」西村竹四郎氏の著「在南三十五年史」など、其の前後より現代までの新嘉坡文化發展のさまを詳説してゐる。就て見られ度い。

人口。人種。

人種の展覽會場と稱せらるゝ新嘉坡の相貌は、其の名に耻ぢぬ多種多様、つかまへどころの無い百面相そのまゝで、色の黒白、調の濃淡、同じ黄色にも純金あり赤銅ありでみな一樣ならず、其上にまた頗るやゝこしい雜種も多く、所謂ユーレシアンは歐洲人と亞細亞人と兩方の長所短所を持つと聞くが、幸ひにまだ「斑」の小供は一人も生れて來てゐない由で大慶だと申す人もある位、兎に角、各國別に考へただけでも無慮三十餘ヶ國を數へ、そのまた或る一ヶ國といふのが支那人、印度人、馬來人、といふ大雜把な話なので、馬來人にも大別しただけで十四五種、支那人にも一番親切的な分類でも十四五種、印度人に至つては誰か烏の雌雄を知らんやであるかと思へば中に白哲明澄

な先生方が居たりする、仔細に解剖すれば實に閉口の他なきを知るだらう。人口僅かに六十萬の一都市にして斯くの如きは、ひとへに此地が歐亞關門の要衝たることを如實に物語る、といふか、何しろ暮らしよい處だからといふ方が正直だらう。

そして其の一つの民族、各々の人種によつて語られ喋られ、わめき立てられ嘔鳴り散らさるゝ侃諤の辯、馱舌の調とくると、或は秋風松を拂つて素韻落つるが如く、又は溪水岩にむせんで流るゝことを得ざるが如く、嘖嘖として訴へ、歎歎して嘯するやうで、いやもう助かりつこなき修羅の巷といふべく、バベルの塔なんてのは此の邊の人足どもが應召して煉瓦運びをやつたのでは無いかと思ふばかり、官廳の告示でも停車場の「べからず」でも大凡、文字を以て何か爲さんとあらば少なくとも四通り以上のイロハが必要、まづ、英語、支那語、馬來語と印度語は、初めから皆無くば乃ちまた足る、其の一つや二つを採つて他を儉約したのでは全くものゝ用をなさんのだから仕方無からう。施療病院の掲示などは、時に八ツ位のナンデモンデヤが賑やかに並べ立てられ、そして其の以て言はんと欲するところは則ち一つ、曰く、病あつて錢無き者は來れ。當り前の次第であるが、その當り前を徹底するにはこれ丈けの手續がかかる新嘉坡なのである。

でも、まだ一つの文字、一句の綴りを同種齊しく同音に讀み立て得る連中は面倒も少ないが、これが中華民國、支那人と來ると大變。大體こゝの支那人といふもの、文字の國の後裔にして文字を皆目知らざるもの大多數で若い連中などは會々支那文でしたゝめたものを受取ると其れが洋服屋の

勘定書やら宋家の令嬢から来た戀文やら、とんと區別がつかぬ。で、よんでくれとなるが、其の發音がまた一々違ふので、吾人、北京官話とか廣東辯とか、永らくかゝつて一つ覚え込んだ支那語が一向御役に立たぬ場合が多い。百計盡きて「駄目だ」と、うつかり口をすべらせた馬來語が役に立つて結構「わかる」のである。

であるから見物諸君、この地では支那人相手に「吾は大日本帝國之人」なんて砂の上などに書いてみせても駄目ですぞ。

英領馬來半島の全人口を約四百五十萬として、馬來聯邦四州合計が約百七十萬、非聯邦五州が百五十餘萬、残りの大凡百二十萬が海峽植民地といふこと前章述べた通りであるが、其の植民地筆頭の新嘉坡がまづ五十六萬見當（これは昭和六年の國勢調査、現今では大凡六十萬と見るべきであらうが、官廳の統計基數は一九三八年度用、新嘉坡市内總人口は五三一〇九九人と定めてある。これは更に衛生の章下に述べるであらう。

庶莫、新嘉坡市第一回國勢調査、乃ち、西曆一八四二年中には市内人口總數一〇〇六八三人と公表され、内、支那人が三三〇〇人ほど、乃ち、全人口のほんの三プロセント程度であつたのが、一九三七年（昭和十二年）の調査では次表の如くになつてゐるには驚ろく。

支那人	三九八八七三
馬來人	五〇三六五
印度人	四六八三三
歐洲人	八四七八
混血人	二七四八
其他	八三六七
計	五二〇一六四

で、左留邦人の人口は昭和十一年十月一日調べで、新嘉坡市内計四一七人であつたこと前章に述べた通り、それが昭和十二年中から少しづつ減少してゐることは後章、衛生統計の項下に再説するであらう。

馬來人と一口に申すが其の原住民族は、これも第一章に述べた如く、ネグリト族、サカイ族、ジヤツクン族と三種族あつて、現今では山間蠻境に合計三萬五千人位が生き残つてゐるに過ぎず、あとは外來の馬來諸族、乃至原住馬來土人の後裔であるが、これも分類すると約十六種ほどになる。此等のうち海に親しむ奴、山に棲む者、いろ／＼あつて各々多少の差違もあるが、喰人種は皆無である。

一般には、短軀で肌の色は黄褐色、顔容は鈍調で活氣が缺け、概ね去勢された様な威勢の無い不景氣な様子をしてゐて、性質は懶惰。曾て同志を糾合し、遍ねく半島各地に呼びかけて馬來不精會といふのを創立しようといふ相談もあつたが、面倒臭いからやめた、といふ位、古來、ゆたかなる天恵の下に甘まやかされて育つて來た都合上、椰子の樹五本あれば以て一家を糊するに足ると云はれ、又そんなものが無ければお隣りのを失敬して、といふ無憂境であつたが、然し、近頃は不精戰線聊か異狀あつて、遊んでゐては喰へなくなつたため、大人、節を屈して多く庭掃除、小使、擔兵衛の役に當り、又は、少しく發奮して政廳、會社に書記見習、乃至、棍棒さげて市中警戒のお巡りさんあたりに出世した連中は、以て一家一門の榮譽であり更に近代文明の先覺者として自動車、バスの運ちゃんを志して男ツぷりを上げてゐる連中も多い。

凡て馬來人は敬虔な回教の信奉者であり、酒を飲まぬ事、宵越しの錢を持たぬ事、むやみに派手やかに大盤振舞をやらかして翌朝すこぶる後悔する、など、よほど他民族とは調子が變つてゐて、まづ泰平の逸民としては申分ないが、錢勘定が下手で商賣は損ばかりしてゐるし、嘘が吐けないから馬鹿ばかり見てゐる様である。

次に支那人と來ると前申す如く其の出身地方で性質も言葉も皆違ふわけ乍ら、一般に當地方では所謂「華僑」と稱せられ、殆んどみな南支那の漢民族、廣東、福建、潮州、客家、海南、と五大別

されてゐるが既に二千年前から馬來地方とは連絡があり、五六百年このかた發展し來つたもので、幾代を算へるほどの古い土着人もあり、植民まだ歳久しからざる邦人とはおのづから趣きを異にしてゐる。

元來、支那人は、以族援族、以戚引戚、進而至以郷援郷といふ立前で其の郷黨を互助するから、社會連帶觀念あつく、お互に援け合つて展びてゆくといふ心がけは、邦人の大いに學ばねばならぬところだらう。土産物を扱ふ者は主として福建人、吳服太物は潮州人、雜貨商は廣東、廣西人、料理屋、珈琲店、飲食店は海南人、靴屋は多く客家、就中、嘉應州の人、質屋、藥種屋は皆、客家と、一々其の種族の受持ち商賣で、相倚り相援けて實に強靱な組織でやつてゆく。其他、人力車夫、船夫、掃除人夫などの賤業、護謨、錫鐵等の農鑛業苦力としては、其の勞働力、生活力は寔に驚ろくべきものがあり、勤勉力行、營々として劬勞し、賤位から身を起してよく巨億の富を致した者が多く、兎角一攫千金の夢を追ひ、錦衣歸郷の日にあこがれてゐる邦人など初めから太刀打ちが出来る對手では無い。此の點では我軍大敗北、敵乍ら天ツ晴れの彼氏等である。

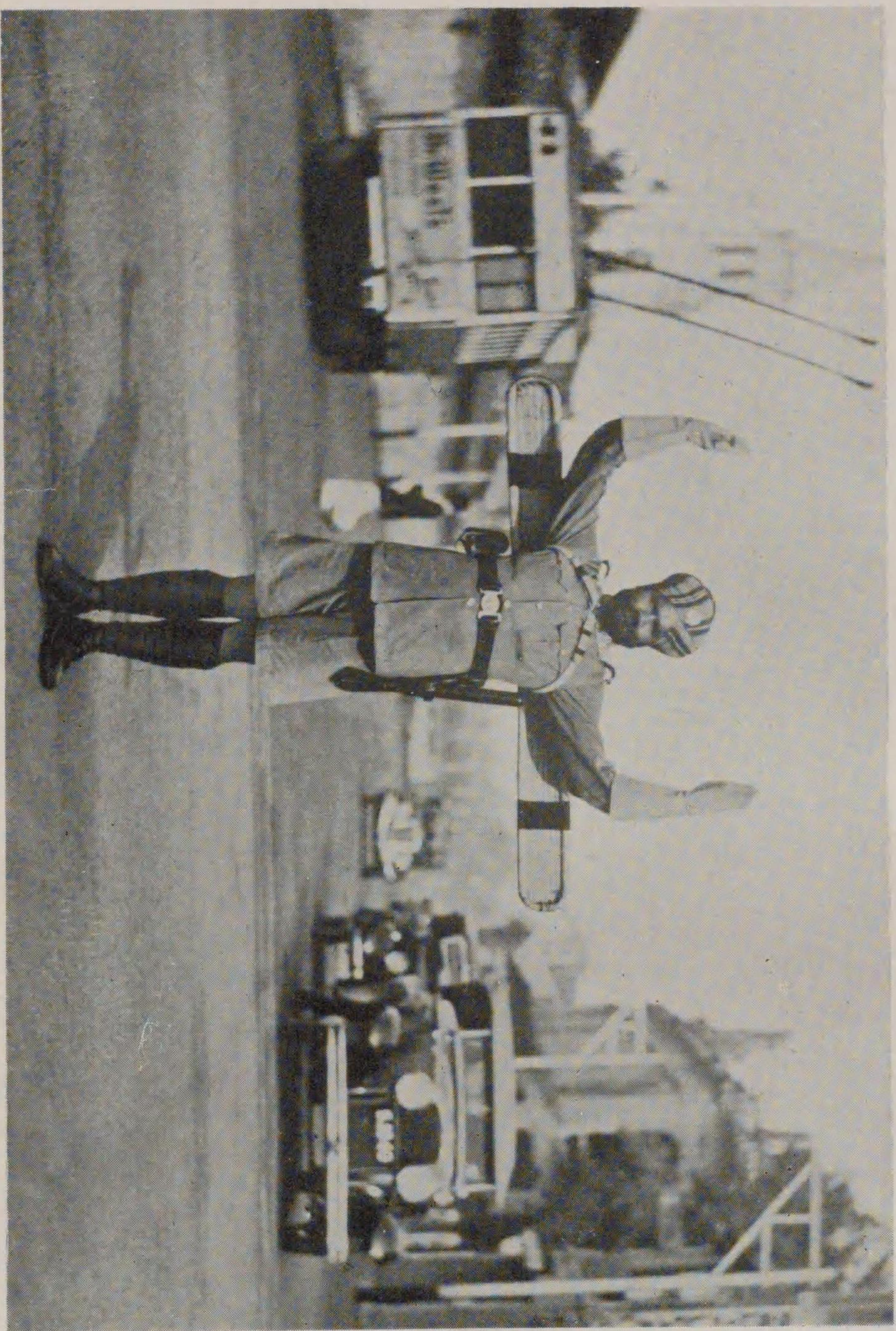
全馬來の商界を牛耳るものは此等華僑であり、苦力はよく働き、東家（一家一業の主人、恰かも我が旦那と呼ぶに比すべし）は正直にして企業心に富み、鑛山業、栽培業者は抜け目なく、金錢の持ちくされを惡み、同情心あつく寛大で公共心が強く、其の經濟力は絶大であるから、馬來今日の繁榮は華僑の力である、と結論して一向差支へなからう。更に支那本部に於ける「革命の母」と稱

せらるゝ南洋華僑、國民黨を育くんだ母體、孫逸仙や、黃興や、が失意のときも得意の時も、寸時も念頭より忘れざりし馬來の同志たる在南支那人であつてみれば、其の因縁たるや宿命的であり、其の果報たるや當然なる彼等なのである。

其上に此處には所謂「ババ南京^{チナ}」と呼ぶ南洋生れの二世、三世。これ等は英語を母語とする華僑中のインテリで、本國人とは思想的に相當の隔りもあるが、一と見識もあり、仕事も出来るし、分別もあつて、到底わが「ババ日本^{ジッポン}」の比にあらずと、残念ながら申すほか無い。第一、量に於て問題で無く、其の社會のこれ等待つこと、また甚だ我邦在留民間のそれとは違ふやうで、學ぶべきものゝ一つだ、と説く人もある。

最後に印度人であるが。船が港に着くと埠頭に群がる黒い顔の荷役苦力が、まづ新嘉坡の第一印象、これは俗に Kling とよび、南印度タミール、最も賤しい職業に携はつてゐるが恐ろしく粗雑な生活に耐へ得る底力を有する連中、南部印度コーチン、マラバル、マドラス方面からの移民、乃ち、マラリヤとかテルグとかいふやうな種族もあり、更に、ボムベイ人などは商人の間に多く見られ、又、洋服裁縫業など、いろ／＼の職業に従事してゐるものもある。

交通整理などに當つてゐる容貌魁偉、美髯の巨漢は俗にバンガリ人と稱し、シークの族の一種であるが、巡查、玄關番などが適職で、平生は猫の如くおとなしいが、内に潜める狂暴性は折々爆發



交通巡查 (藤製の標示板を負ふ)

して爲政者を心配させたこともあつた。

この他、チツテ族といふ金貸を專業の大坊主は皆一様に黒の蝙蝠傘と小型のスイツケースをかへて炎天の下を烏金^{カラスガネ}の利息集めに狂奔する先生方、また、セイロン人は官廳、會社の事務員、寶石屋などになつてゐたり、まづ夫々出身地方別で商賣も違ふやうである。

宗教。教育。新聞。

馬來地方での原始宗教といふのは矢張りネグリト族、ヂヤツクン族、サカイ族といふ馬來人植民前の原住民族が信仰してゐた非常に低級な、迷信的なものであるが、馬來人がスマトラ島あたりから移住して來ると共にヒンヅー教と回教とが交錯して此の地に植ゑつけられ、名目上は回教徒に屬してゐて、事實は、それ以前に影響を受けたヒンヅー教々理を抛つてゐないといふ工合な頗る曖昧な信教を以て生きてゐるのが彼等現在の馬來住民なのである。然し外面的には回教徒であるから毎金曜日の祈禱には必ず男子四十四人の出席を以て禮拜するとか、婦人は祈禱に出席出來ないとか、昔乍らの小むづかしい慣習を護持してゐる上に、毎年十二月頃（年によつて違ふ）から一ヶ月間、プアサ・ラマダンと稱する絶食を行ひ、日出から日没までは何物も口にせず、唾液さへも嚥下しないといふ熱心な信仰であつて、その絶食月が完了すると其の最終日に祭典を行ひ之をハリ・ラヤ・プアサと稱して、これでメツカの聖跡巡禮者は其の巡禮儀式を完全に果たしたとするのである。

以上は馬來人についての信教片鱗を述べたに過ぎぬが、其他、元より前述の如く多種多様の異人種を網羅して人種展覽會場の觀ある當方面のこととして、回教、ヒンヅー教以外、各人種夫々の信奉する宗教といふものもまた多種多様で、基督教各派の宏莊なる會堂が街の各所に聳え立つてゐるのに對し、不可思議奇怪な行者とか呪咀、贖罪、いろ／＼のことを標榜する私教や又、印度教、佛教、道教などの寺院、廟、祈禱所など、あらゆる布教機關が隨所に見られるのも面白く、邦人信教の本據としては、別項に再述するが如く、曹洞宗の西有寺、眞宗の本願寺、日蓮宗の妙法寺、東京中會に屬する日本基督教會、ホリネス教會、をはじめ、神道各派の布教所もあつて熱汗にまみれた肉體の疲れを、夫々の信奉する宗教によつて心神の底から淨化する有難い機構が具備してゐるのもうれしいことの一つである。

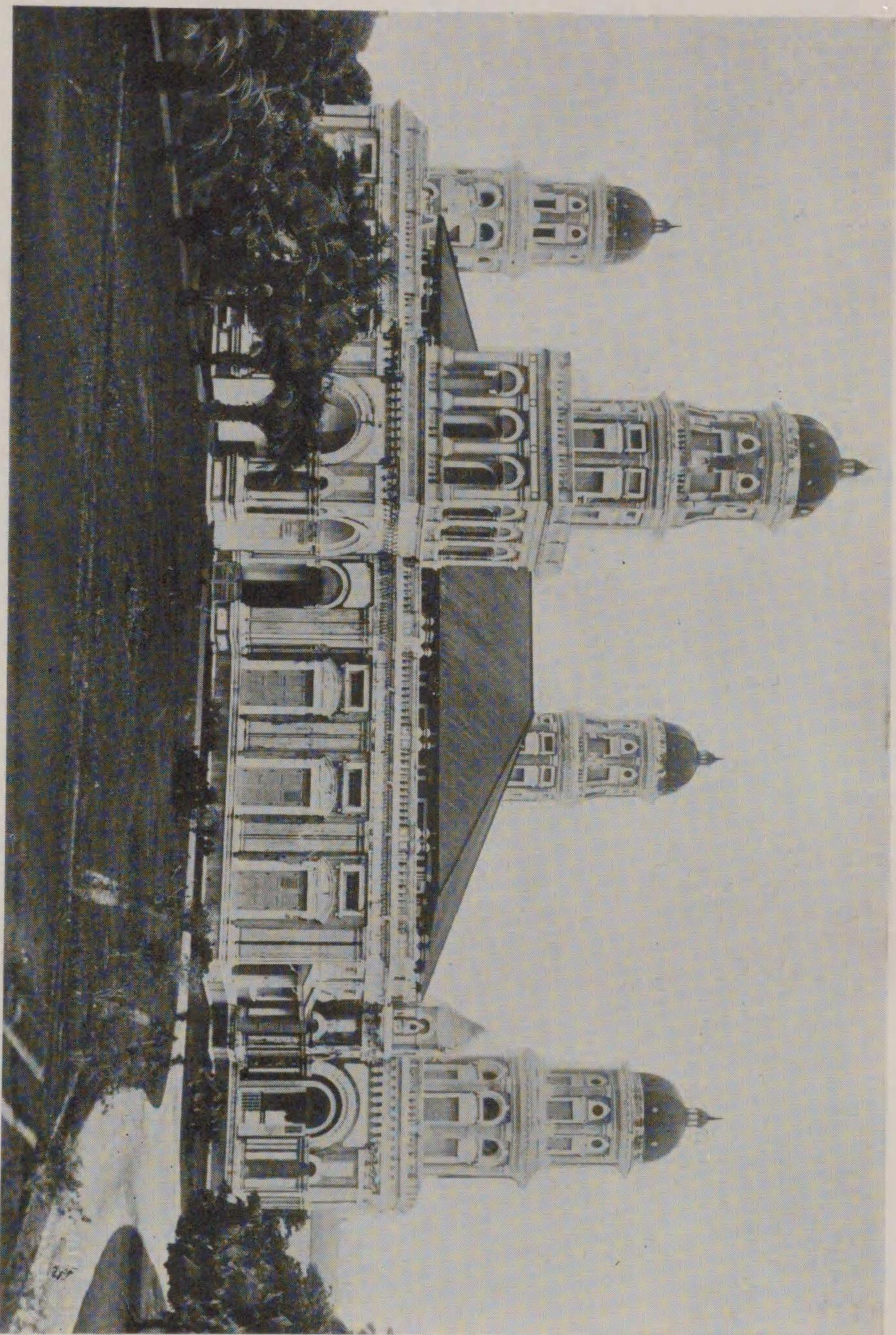
又掛卷くも畏き、伊勢の

皇太神宮遙拜所として、新嘉坡太神宮といふのが奉齋せられてゐて國民精神の陶冶、祖宗尊崇の大義を訓へ、神乍らの大道この南溟三千里の外にまで炳として昭らかなことは特にわれ等の感激して息まぬところである。

で、英領馬來に於ける宗教別人口を西曆一九三一年國勢調査の結果から示表すると

回教徒

一九九三〇〇〇人



デヨホール・パルの回教寺院



暹羅寺の佛像



タイプーサムの苦行



白銀の山車

ヒンヅー教徒	五二〇〇〇〇人
基督教徒	一〇一〇〇〇人
シーク教徒	一九〇〇〇人
其他	一七五三〇〇〇人
合計	四三八六〇〇〇人

といふわけ、其他といふ中には佛教各派の約百萬人も含まれてゐるが、所謂、淫詞、邪教とまで申さずとも公認せられてゐない私宗教も相當あることを知るのである。

それから矢張りその一九三一年度の國勢調査結果から、支那人百七十萬餘人の信仰を観ると、回教徒が計三四四三人といふ少數、基督教徒は其の九倍近い計三〇七三八人、あとの約一六七五二一人といふが「其他の宗教」を信奉してゐるわけで、勿論其の最大多數は佛教及び道教、特に關帝といふのを祭祀してゐるのである。

印度人間に於てはヒンヅー教、佛教、バラモン教、それから拜火教などや、一種のトーテム崇拜、ゾロアスター、其他の祓教、いろ／＼のものもあり、中々賑やかであるが、特に毎年一月中、ヒンヅー教徒の行ふタイプサムと稱する行事は一種の贖罪苦行で或は全身に長い針を穿刺し、重い荷を負ひて街をゆき或は舌、頬を太い銀針で貫いたり、いろ／＼の眞似をして熱狂的な一日の祭典を行ふが、これは多く南印度のヒンヅー教徒で、恰度工合よく其の祭典に當つて新嘉坡に寄港などされ

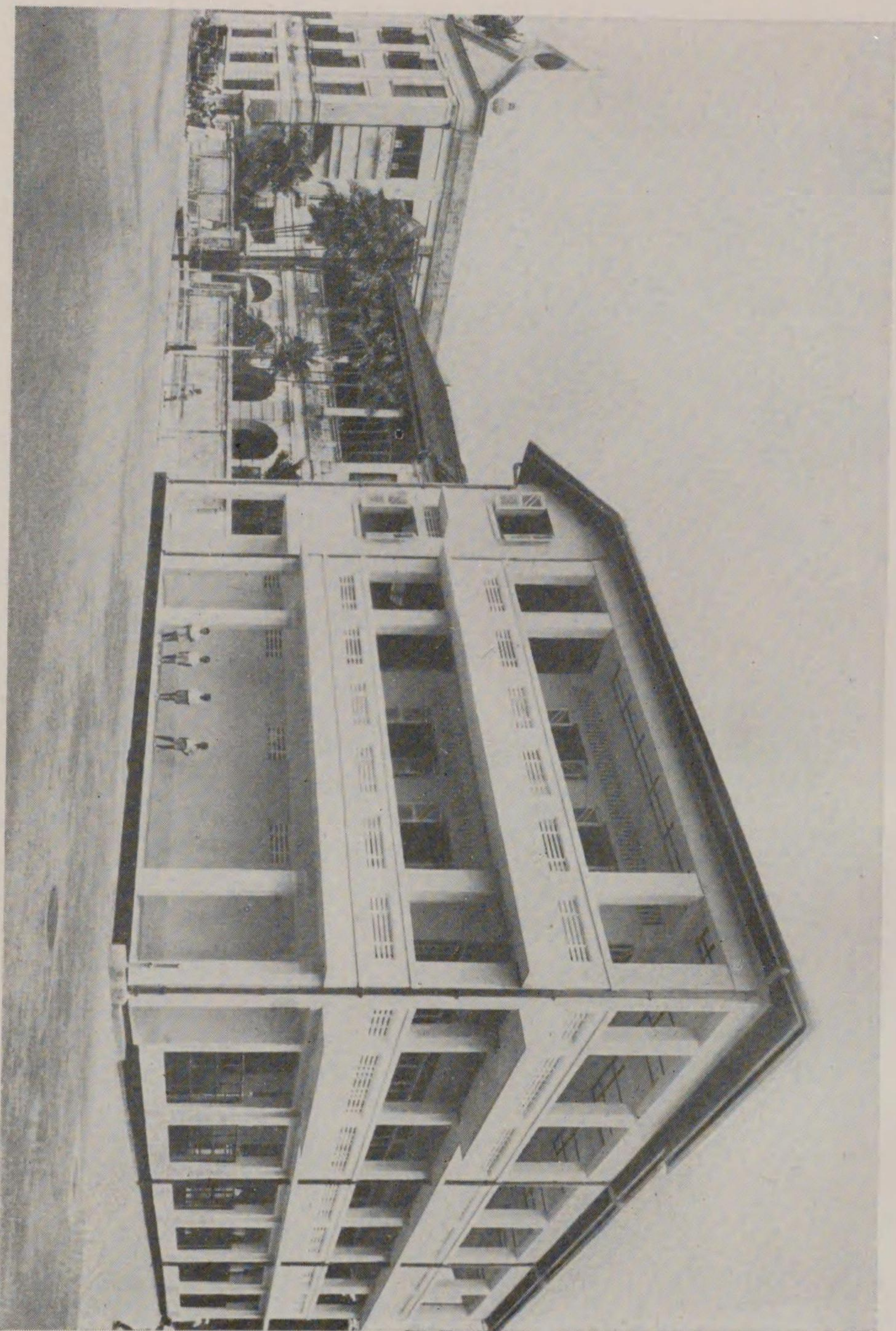
たら、それを實に一生の話しの種ともならう。夜分はまた銀の山車を引き廻はしたり、大花火をあげたりして頗る勇ましいところを見せてくれる上に、この花火が又、すべて邦人の手になるのだから、うれしい。

教育。

邦人子弟教育機関としては新嘉坡をはじめ主要各地に夫々、文部省、外務省の在外指定日本小学校、或は其の分校が設けられてゐるほか、農園其他で私經營の小學校程度教育機関を有してゐるものもある。

就中、新嘉坡日本小學校を例として概説すれば、教科は勿論全部内地同様のものを用ゐ、加之、この土地の明語 (Lingua Franca) といふ意味で尋常三年生から英語科を毎週四時間乃至五時間、高等科では毎週六時間課してゐる。昭和十三年四月現在の児童數は男生一八一人、女生一九四人、合計三七五人で、これを十三學級にして教育し、教職員は各府縣から新嘉坡帝國總領事館へ出向を命ぜられ、總領事から辭令を受けて赴任することになり、現在十五名、内一名はクアラ・ Lumpur 市に在る分校に勤務し、又、他の一名は囑託教員たる英國人女教師であるが、其他別に日本人會經營の夜學校に囑託教員一名が英語科を受持つてゐる。

本校は大正元年十一月三日の開校で、同四年十月以降、新嘉坡日本人會の經營するところとなり、



在外指定新嘉坡日本小學校

創立以來 / 卒業中途退學兒童 / 進路

年次 同數	卒業 同數	中途退學 同數	兒童 同數	其他 同數	內地歸朝者				當地居住者					
					上級學校進學者		義務-從事以者		外人學校進學者		義務-從事以者			
					人數	比率	人數	比率	人數	比率	人數	比率		
第一回 大正六年度	3	1	2	0			3	100.00%						
第二回 大正七年度	6	3	3	0	1	16.67%	4	66.66%	1	16.67%				
第三回 大正八年度	8	5	3	0	1	12.50%	3	37.50%	4	50.00%				
第四回 大正九年度	8	6	2	0	3	37.50%	2	25.00%	2	25.00%	1	12.50%		
第五回 大正十年度	16	6	10	0			8	50.00%	3	18.75%	5	31.25%		
第六回 大正十一年度	10	6	3	1			4	40.00%	3	30.00%	2	20.00%		
第七回 大正十二年度	18	5	13	0	1	5.55%	10	55.56%	4	22.22%	3	16.67%		
第八回 大正十三年度	11	1	10	0			9	81.82%	2	18.18%				
第九回 大正十四年度	22	3	19	0	7	31.82%	10	45.45%	5	22.73%				
第十回 昭和元年度	19	6	12	1	4	21.05%	6	31.58%	5	26.31%	3	15.79%		
第十一回 昭和二年度	19	7	11	1	6	31.58%	5	26.31%	3	15.79%	4	21.05%		
第十二回 昭和三年度	33	15	18	0	9	27.27%	9	27.27%	9	27.27%	6	18.19%		
第十三回 昭和四年度	22	4	16	2	8	36.36%	7	31.82%	4	18.18%	1	4.55%		
第十四回 昭和五年度	28	10	16	2	16	57.14%	4	14.29%	1	3.57%	5	17.86%		
第十五回 昭和六年度	40	9	31	0	19	47.50%	6	15.00%	5	12.50%	10	25.00%		
第十六回 昭和七年度	47	8	36	3	15	31.91%	10	21.28%	11	23.40%	8	17.03%		
第十七回 昭和八年度	52	16	36	0	21	40.38%	7	13.47%	8	15.38%	16	30.77%		
第十八回 昭和九年度	53	6	47	0	22	41.51%	4	7.55%	10	18.79%	17	32.15%		
第十九回 昭和十年度	73	16	57	0	38	52.05%	5	6.85%	11	15.07%	19	26.03%		
第二十回 昭和十一年度	66	16	50	0	32	48.48%	9	13.64%	4	6.06%	5	7.58%		
第二十一回 昭和十二年度	78	21	57	0	39	50.00%	10	12.82%	6	7.69%	2	2.57%		

大正七年七月五日附で外務、文部兩大臣から在外指定小學校として認定せられ、又、大正十年十月四日には學校登録法令により海峽植民地政廳の公認小學校となつたものであるが、其の生徒数は必ずしも他の在外校に比して多くは無いが、他にも特に誇り得べき數々のものある中で、最近落成した其の西校舎といふのは殊に熱帯に於ける教育機關といふ意味で、あらゆる長所を有し、來り觀る關係諸先輩なども異口同音に羨望賞讃の聲を惜しまないもので、文字通り在外第一の理想的校舎であり、更に近く攻築される筈の其の本館が落成した曉は東校舎と共に、たぐひ無き豪壯なる一大學園の完成を見るであらう。

第二世の卒業後進路は前表に示すが如く大別して三途とし、即ち

- (イ) 内地上級學校に進學するもの
- (ロ) 當地英語學校に進學するもの
- (ハ) 家事其他の實業に従事するもの

であるが、内地に歸還するものは總數凡そ三分ノ二程度であつて大多數を占め、次で多いのは英語學校を卒業して當地で就職する人達である。

當方面には邦人の爲めの中學校はまだ無い。

外人經營の學校

外人經營の諸學校中、高等教育を修めるものには、エドワード七世王立醫學專門學校（醫學・齒科醫學）と、ラフルス専門學校（農科、行政科、教員養成所）があり、何れもまだ單科大學程度の體制に過ぎないが將來は、これに機械科、工科、東洋學部などが併設されて綜合大學を實現する筈である。

其他、官立のものでは女教員の養成にラフルス女學校があり男教員の養成は臨時に教員養成所を開講するやうになつてゐる他、商業教育にラフルス・インスチテューションといふ所で商科一般を教へ、工業教育は直轄學校では無いが聯邦鐵道局機械部附屬工業學校といふものが現在では改組されて教育局の管下に在る。更に、職業教育には獨立したものとしては、クアラ・ルンポー、彼南、イツポー各市にあるものと同じのが新嘉坡にもあつて極めて初歩の職業、主として矢張り商店經營などの實務を教へてゐる。農業教育は農務局の所管で、セルダンに於ける農事試驗所附屬のものがあるが、新嘉坡市には此種のものはない。

尙、其他、公立學校も市内各所に散在してゐるが取り立てゝ述べ度い程の内容を有してゐぬ様である。

私立學校は多くはミツションスクールであつて、主なるものはアングロ・チャイニーズ學校、聖アンドリュース學校、聖アンソニー學校、聖ジョセフ學校、コンヴェント女學院など何れもこれに屬する。

教育局は其の管轄を左の如く定め、新嘉坡日本小學校はこの内、第一類の支那人學校中に加算してゐる。即ち、

- (一) 支那人學校。
小學校二十八校。中學校二校。其他四校。
- (二) 馬來人學校。
男生學校十九校。女生學校六校。
- (三) 歐亞人學校。
小學校。

で、英語學校の學制は、大凡六歳から十三歳までの間六年間を幼稚園から小學教育とし、更に次の四年間を中學校と上級學校進學の爲めの豫科としてゐて、まづ我國の學制と大差無いが程度は頗る低い様である。

新嘉坡の新聞。

英領馬來表玄關のプロファイルであり、新嘉坡の縮圖である新聞は英字紙、漢字紙が大勢力を占め、それに日本語、印度語、馬來語の新聞もあり、其他種々の雜誌類もあるが、一八三五年創刊のシンガポール・フリー・プレス紙が實に當方面最初の日刊新聞で、其の前年創刊のペナン・ガゼット紙と共に英領馬來地方操觚界の先達である。

(一) 日本新聞。

古くは明治の末期から大正の初めにかけて、バック、南洋自由評林、星坡サンデー、星架坡日報、南洋新報、南洋週報、などいふのが次々に發刊されたが、多くは手刷りの騰寫版印刷で、報道、言論機關といふよりも寧ろ其の時折の在留民間に蟠る黨派的な感情の捌け口といふやうな意味で思ひ／＼に創められ、泡沫の如くに次々に消えて行つて、結局大正三年、南洋週報から分立した南洋日日新聞が初めは矢張り騰寫版であつたが現在は堂々一流の日刊紙として残つており、又、其の南洋日々から分立した新嘉坡日報が、共に盛名を競ふて在留民の輿論指導に努め、更に後者は本年に入りてより英文別冊の週刊紙をも發行し、近く日刊とする豫定である。

又、日刊新聞とは撰を異にするが、週刊で『南洋及日本人』と題する雜誌もあり、數年前に暫時發行した南洋時代、赤道、などの趣味雜誌は今も廢刊されてしまつた。

(二) 英語新聞。

Singapore Free Press.

Straits Times.
Malay Tribune.
Morning Tribune.

などを算へるが、前三紙は前に述べた如く一八三五年、即ち百餘年前の創刊たるフリープレスは、じめ他の二紙もすべて十九世紀に於ける創刊で、最近、フリープレスとタイムス兩紙は同一資本の下に合併して一大勢力となり、トリビュンと競つてゐるが、タイムス紙は由來、稍高踏的で、歐洲人及び一般知識階級間に廣く讀者を有し、兩トリビュン紙とは對立的の立場にあつて後者の碎けた編輯ぶり、大衆的な論法が少壯事務員階級などに名聲を有するのと兩々譲らざる見識を持してゐる。

發行部數はタイムス、兩トリビュンが夫々一萬内外、フリープレス紙が七・八千と稱してゐるが、トリビュン紙の讀者の約八割までは支那人だといふ。

(三) 支那新聞。

(イ) 總匯新報 (Union Times)

これは一八九八年の創刊で、中立無色と見られてゐる。

(ロ) 新國民日報。

一九一四年創刊の國民黨系の御用紙であつた國民日報が筆禍の爲め廢刊となり、新國民日報として甦生したものである。

(ハ) 南洋商報。

福建出身の豪商、陳嘉庚の經營で、一九二三年創刊である。

(ニ) 星洲日報。

廣東出身の胡文虎經營に係り、一九二九年の創刊。

(ホ) 星中日報。

これも同一系で一九三五年の創刊である。

右の内、新國民を除いて全部朝夕刊制、從來朝刊であつたものが今次の事變による膨脹に、號外から夕刊に進んだものであるが、元來支那新聞は一八五五年創刊で數年前經濟難のため廢刊した叻報をはじめ、總匯新報などにしても華僑の報道、指導機關として黨臭も無く權威あるものとされてゐたが、國民黨執權と共に新國民が御用紙として設けられ、更に排日貨を煽るため當時飛ぶ鳥を落とす勢の豪商胡文虎がこれに對抗するため星洲日報を起し、更に星中日報を初めたが、陳嘉庚凋落の後、一層その勢力を伸して隆々たるものがあり、星洲日報は十餘萬弗を投じて大輪轉機を据付けるなど、今は當領に於ける最大有力紙として幅を利かすに至つてゐる。發行部數は星洲日報五萬と稱

し、其他は一萬から一萬五千といふところ、何れも一部二十頁の大冊を出してゐる。

(四) 其他

其他には馬來語紙で *Warta Malaya* と云ふ日刊紙、タミール語のタミール・マラス (隔日)、ヒンズー語のムンネラム (隔日) 紙等がある、特筆すべきほどのもので無い。

衛生。

馬來地方一般につきてこれを觀れば、衛生状態は未だ必ずしも良好とは云ひ難いが、新嘉坡のやうな都會地では、特に在留邦人及び歐米人間の罹病率、死亡率は高いとは思はれない。但し、下級の支那人、土着人などの間に、赤痢、肺結核、脚氣、小兒瘰癧 (ひきつけ) 等のやうな低文化諸病が依然として多く、一般住民の衛生思想が低いこと、生活の安易單純な爲めと、劣等體位者が勞働人口中に多いことなど、總括的に馬來の地を非衛生不健康の境として傳へ來つてゐるが、實際には、近年、一般死亡率は一般出生率よりも低くなり、概して昭和二年頃を死亡率最高記録として漸次に衛生状態が好轉しつつあるのを認められる。然し、乳兒死亡率、即ち生後一ヶ月以内に死亡する嬰兒の数は甚だ多くて、まだ〳〵母親の知識訓練が乏しいことを如實に示してゐる。

馬來地方の主なる風土病としては、マラリア熱、赤痢、脚氣、十二指腸蟲病、肺結核、小兒瘰癧、などを擧げることが出来るが、此等の諸病は殊に多く農村に於て甚だ執拗に浸淫してゐるのを見るべく、又、都會地に於ても勿論また相當の脅威となすところである。其他、最も普通なる熱帶性輕傳染病として、デング熱、パタチ熱、などの諸症があり、水痘、腸チフス、ヂフテリア、等も亦時に發生を報するが、これ等は常在性では無い。

マラリア熱の豫防に蚊遣香の燻烟、蚊帳の使用、家屋内外の排水、等は周知のことに屬するが、特に本病を媒介する羽班蚊 (アノフェレス蚊) の襲來は薄暮の頃から就床時に至る間に於て最も甚だしいこと、蚊帳の網眼は一時に對して十六目から二十目位の細眼でなくてはならぬ、といふ點なども一應知つておいてよい事と思ふ。更にまた、所謂蚊取線香、蚊取香水などの使用、或は赤色は昆蟲の視神には感ぜぬ筈といふので赤布を以て燈火を纏裝する、といふ様な手段も時に試みて多少の益はあらうか、だが、これを過信してはいけまい。キニーネ、アテブリン等の豫防薬内服は短時日中、流行地帯に滞在する者に對しては一應の良法であらうが到底長い間これを繼續出來得べきでも無く、たゞ、本病常在地點を通過するなどの際、鹽酸キニーネの〇・二五乃至〇・三瓦を稍多量の清水、又は牛乳 (苦味を緩和する) に溶解して毎晩就床時に頓服するといふ方法は推賞に價するだらう。特に、鹽酸キニーネ (硫酸キニーネでも同じである) を〇・二五瓦、硫酸マグネシア (瀉利鹽といふ苦い奴である) 五・〇瓦を清水大凡二〇〇^{ミリリットル}に溶かし、或はこれに數滴の橙汁、レモン汁などを滴加して酸性とすれば溶解が容易であり多少の調味ともなるが、これを臨床時に頓服す

ると翌朝快よい便通を促がし得ると共にマラリア熱豫防に効がある。但し、個人體質によつてキニーネに過敏なものがあるから其の邊注意が肝要、又、キニーネ剤の連用は多少の副作用を伴ひ、或は不測の中毒なしと言ひ難いから輕卒に右の如き豫防法を誰れにも慫慂出來ないのは遺憾である。

赤痢、腹カタルなどいふものもまた主として農村に於ける最主要死亡原因になつてゐるが、これ亦、都會地では、上、下水道の設備と共に漸く減少してゐる。但し、路上に呼賣してゐる支那人、印度人等の清涼飲料、生果、など何れも傳染源と見做して敬遠するに越したことは無い。新嘉坡市内などで呼賣してゐる所謂アイスクリーム・ポトンといふ氷小豆、いま手漬をかんだまゝの手でまゐめたアイバト・テツカンと呼ぶ氷玉など、大凡、命の大切な人々、夢にも近づくべからずの最たるものであらう。

肺結核は普通幼弱な年輩に最も多く又、中年以前に發病してゐるのを見るが、支那人間では中年以後の者、乃至、相當の年輩者にも亦多いので、心ある人士は、借屋、旅館などを撰ぶのにも一應の注意を怠らないやうである。在留邦人の間には本病は多くない。

十二指腸蟲、蛔蟲などの寄生は、土人、下級支那人の間では普通で、殆んど全農村住民凡てこれを帶ぶといふも過言で無からう。従つて不知の間に其の侵襲を受けてゐる邦人も尠なくない筈で、特に幼弱の子女等にあつては時々檢便、驅蟲は是非必要である。特にこれは子女を持つて親御さん達、殊に賢母諸姉に申上げるが、時々、お子様方の舌を見てあげて下さい。赤いブツブツが出来てゐたら多分蛔蟲ですぞ。夜分お尻の穴の周りが痒かつたら蟻蟲、鞭蟲と御承知あり度い。

脚氣は白米を主食とする支那人、馬來人の間に於て高度の罹病率と死亡原因となすは當然であつて、特に近年、脚氣死亡が頗る多いやうであるが、これは一つは報告が確かになつて來た爲めもあるらう。或は、土人間の所謂文化が高まつたことも一因である。由來白米は米の糟で、乃ち白米を横に並べると粕といふ字になる。骨を折つて米の粕を造つてこれを喰ひ、爲めに脚氣にかゝつて閉口し、止むを得ず、さきに棄てた米糠を拾つて來てこれからオリザニンとやらヴィタミンとやらを造り出して、痛い思ひして注射をやる。傍ら醫者は精米會社と結託して二重の儲けあり、なるほど糠といふ字は米屑に健康の康だナなど、感心するのを、近代文化と稱する。いや、お盛んなことござんす。

小兒痙攣と稱するのは本邦に於ける疫痢のやうな最急性の下痢症、又は腦性重患であつて死亡率は甚だ高い。多くは未熟の生果、腐敗に傾ける飲食物の攝取によつて發病する。

其他、デング熱、パパチ熱、などの諸輕症熱性病は何れも其の病原がまだ詳らかで無いが、前者は、熱帶蚊、又は、一筋蚊といふもので媒介され、右の蚊屬は何れも、有名な黃熱、あの西アフリカ邊で必死の魔病とせらるゝ最悪性の黃熱毒を傳汎するものと同一種で、其の特性として晝間、人を襲ひて吸血し、しかも其の螫刺に當つて皮膚に於ける痛痒が極めて僅微であるため不知の間に病毒を受けることが多く、又、此の蚊はマラリア毒の傳汎者たる羽斑蚊と違つて、池沼溝渠などに發生することは殆んど無く、すべて、清水、特に飲料タンクとか或は水盤、觀賞用魚の魚槽、花器等、寧ろ室内に裝備した人工容器内に産卵するから、常に其方面の注意が必要であらう。

パパチ熱といふのは所謂サンド・フライと稱する微細な昆蟲、乃ち、フレボトムス屬の咬螫によつて病毒を傳汎する熱帶性の輕傳染病であるが、元來は南歐地方、地中海沿岸の熱帶地方病であつたのが近年、當方面からも報告されるのである。

右二種の熱病の他、尙、大同小異の輕症熱帶病も亦幾多存在するやうであるが、何れも數日、乃至一週間内外で治癒し、其の臨床症狀は時に一見甚だ重篤に感ぜられ、又、特に高熱に比して脈搏數が少ない點で腸チフス等を疑つたり、自他とも、いろ／＼心配することもあるが、經過は極めて短かく、死亡率は殆んど皆無に近く、殊に前者は病後免疫の獲得が甚だ不確實、後者は恰かも麻疹に於ける如くに終世再び罹患しないといふ程に高度免疫を獲得るといふ差があるが、何れも該病常在地帯に來住するほどの人々にあつては、まづ必發不可避のものと言ふべき點が似てゐる。新嘉坡市

に在つても、新來の人士で突然急劇な頭痛、筋骨痛を伴ふて高熱を發し（三八・五度から四〇・〇度位も）それで脈搏が比較的緩徐で、一分間八〇至内外に止まるなんて場合、あはて、腸チフスなどを心配する前にまづデング熱と思ふのが常識であらう。凡そ高熱持續四日間位で一應解熱し、次で發疹を伴ふ再度の熱發が一兩日あつて後諸症狀が解消して治つてゆくのを常とし、經過中、自覺症狀相當重篤であるが一過性であつて生命の危険は殆んど無い。對症療法で煩渴を醫し、便通を適當に整へ、消化不良を起さぬやうに注意して餘病の併發を防ぐといふ家庭看護法が第一であるが、寧ろ病後の疲勞を大切に、體力の恢復に努められるやう致し度い。

次に熱帶旅行者及び在留者にとつて注意あるべきは日射病であらう。日射病は人の知る如く、輕症では急劇な頭痛、眩暈、と共に脈搏が微弱急速となり、體温は常温か、又は下降し、冷汗を發し、腦貧血様の發作を起して卒倒し、又は失神して人事を省みざることもあり、重症となると一層これが進んで虚脱症狀を發し、遂に呼吸困難、其他中樞神經の急劇な傷害症狀の下に呼吸麻痺、心臟麻痺を起して即死することも稀で無い。

日射病は主として頭部、頸部に對する日照射と共に體内の水分が平衡を失ふといふことから發病するが、又、必ずしも頭部、頸部を日光直射から保障するといふだけでこれを豫防出來るとは申し難く、長時に汎つて四肢、軀體を日照射に曝露するに因つてもこれを發し、或は午睡中、腹部

に日光照射を受けて發病した實例もある。特に注意すべき點は、本病が必ずしも烈日直射を要せずして發病するは勿論位か、寧ろ曇天無風で湿度が高く蒸發が悪るい、所謂「むし暑い日」に頻發すること、これは日射病の直接原因が近年我邦の醫學者特に臺灣中央研究所衛生部の富士貞吉博士と其の門下の人々によつて闡明せられたやうに、主として赤外線的作用によるらしいのであるから、曇天帶雲の日と雖も本病を發し得らるべきことは、元來、この赤外線といふものが左様の性質を持つて居る比較的長い波であることを考へてみればよくわかる話で、赤外線感光板を用ゐ、赤色の濾障によつて大凡七五〇以短の光波を遮りて寫眞撮影を試みると雲霧の日もまたこれを透徹し來る赤外線によつて充分なる結像を得るといふ事實に徴して明らかな筈、殊に、氣濕高く、無風で蒸發が悪るい爲に體內水分の平衡失調がある際、折から曇天であるから一見して日光の直射が無いのに安心して戶外に在ること久しきに汎れば、當然本病を發し得る筈なのである。

既に本病の徴候があつたら直ちに病人を通風佳良な綠蔭、又は屋内に靜臥せしめ、衣服を緩開し、特に、頸圍とか胸部を露出せしめ、或は涼風を送り、四肢を軽く按摩し、脚部に適當の「湯たんぽ」を置き、或は顔面、頸部、胸部に冷水を灌ぎ、多少の芳香性嗅入料等を用ひて鼻粘膜を軽く刺戟するなどの應急處置を講じて醫治を待つべきものである。

本病豫防の爲めには、晴天曇天を論ぜず戶外に在るとき必ず適當の帽子を用ゐ、着衣は可及的寬緩なるものを着用し、且、常に充分なる飲料を攝取すべきこと等、特に熱帶新來の客にとりて忘るべからざる注意といふべきであらう。

人口動態統計。

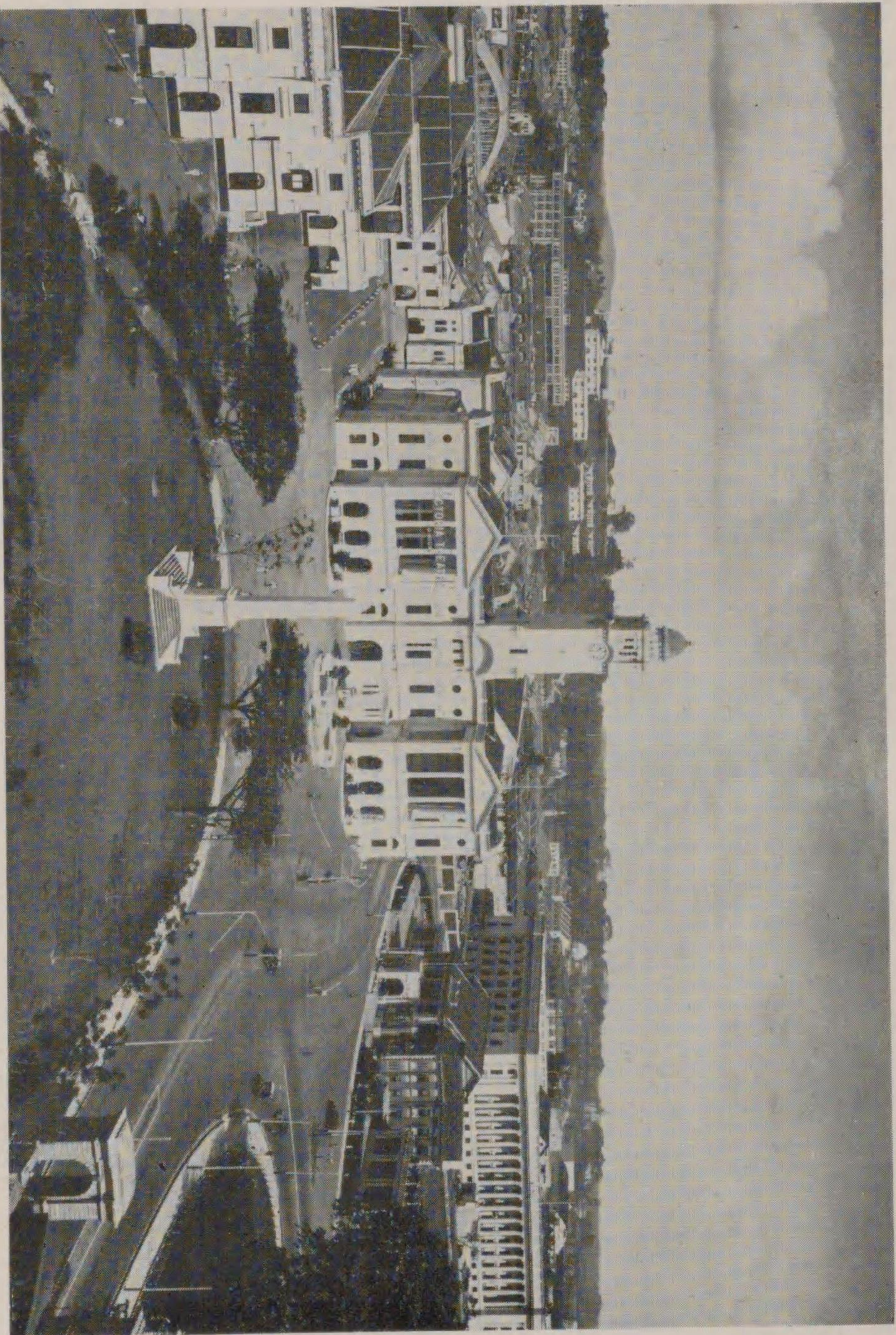
新嘉坡植氏地(全島)に於ける昭和十三年六月末日現在の總人口は前章に述べた如く、計七一〇〇三七人と算出せられてゐるが、其の新嘉坡市部のみに於ける人口は、新嘉坡市役所衛生局年報による昭和十二年度用の統計基數たる計五二〇一六四人といふのを以て最新發表の近確數とする。これを人種別とするときは次表の如くである。

人種	男	女	計
歐米人	五五一五	二九六三	八四七八
混血人	三五二八	三七二〇	七二四八
支那人	二三一五一三	一六七三六〇	三九八八七三
馬來人	二八三二一	二二〇四四	五〇三六五
印度人	三七二二四	九六〇九	四六八三三
日本人	二五五六	一四一七	三九七三
其他	二一一四	二五五〇	四三六四
計	三一〇七七一	二〇九三九三	五二〇一六四

右の内、本邦人に關する數字は昭和十二年十月一日の調査であつて、これを前年度に比して計一四四人の減少である。尙、右統計三九七三人の邦人中、本業者合計二二三三人を算へ、其他の計一七五〇人は其の家族といふわけであるが、本書の第一章、英領馬來半島の人口示表中、昭和十一年十月一日調査の結果を載せてあるから参照せられ度く、又、後章に昭和十二年十月一日調査の在留邦人職業別人口示表があるからこれ亦御一閱あり度い。因みに新嘉坡政廳發表人口動態統計報告に初めて本邦人の在留を記録したのは其の一八七四年度（明治七年）版であつて、即ち、在留日本人一名と登録してある。今を距ること實に六十四年前のことであつた。

昭和十三年一月一日から同七月二日に至る二十六週間、即ち半歳の間に、新嘉坡市に於ける總出生數として届け出られたものは計一一三三六人で、これを其の期間中に於ける推定人口計五三一〇九九人を基礎として計算すると總出生産率は四一・一八プロミルを示し、他方、同期間中の死亡總數は計六四二六人で人口對比總死亡率は二六・七三プロミルであるが、然らば其の期間中の市内人口自然増加數は、入出國者差數による増加を別とすれば、計四九一〇人となる。

又、右總死亡數、計六四二六人中には男の死亡者計三八九八人、女計二五二八人で、其の比は大凡六對四に當り、内、約五二・九プロセントは次表に示す様な主要死亡原因によつたものである。



新嘉坡市中心（陸地測量部元標地點）（解説参照）

死亡原因	死亡實數	總死亡數ニ對スル百分比
肺炎	一〇〇七	一五・六
肺結核	七二九	一一・三
小兒瘧疾	四九九	七・八
脚氣	四九七	七・八
腸炎、下痢	三七九	五・九
マラリア	一九二	三・〇
赤痢	一〇六	一・六

尙、昭和十三年六月中、新嘉坡市内に於て約三〇〇例以上の腸チフス患者發生が報ぜられ、本年初頭から七月二日までの半歳間の該病發生累計は、患者計四四六人、内死亡計一〇三人、その他に計三人のパラチフス患者が出て、臨床死亡率は二三・一プロセントといふ高率を示し、病勢甚だ猛烈なるが如くに見へたが、よい工合に七月初旬から疫勢頓に衰へて、間もなく絶熄した。畢竟かくの如きは甚だ稀有な現象であつて、本病は爾餘の諸傳染病と共に新嘉坡市内に於ては常時頻發するもので無く、消化器傳染病としては赤痢及腸炎を重大視すべきものである。

痘瘡は時々土人間に其の發生を見るが、コレラ、ペスト等は毎年其の流行期中、印度、支那などから來航する諸船舶が汚染してゐることを港外の檢疫で發見する位に止まつて、市内にこれ等の重

傳染病を報ずることは絶無なのである。其他の傳染病も亦特に記すほどの發生は無いが、土地柄であるから諸種の花柳病は相當あると思つてゐてよいだらう。

扱て、以上長々と第一章英領馬來半島の位置、面積、地勢、氣象から筆を起して、やつとこゝまで辿りついたわけだが、實は新嘉坡觀光の案内書としてはまづ此の邊からが本當の讀みどころであつて、今まで書いたのは畢竟、編輯同人われ／＼共が如何に博學にして物識りなるが上に、又、閑人であつて親切であるかを讀者諸賢に示威するためだつたのに過ぎぬのである。ではこの邊から本氣になつて讀んで頂かう。

解説

これは新嘉坡郵便電信本局樓上から北方を望んだ寫眞であつて、圖の手前右隅にアングラスン橋、左隅にカヴァナー橋が各一部見えており、乃ちシンガポール河口がこゝである。中央手前の尖塔はオベリスク、其の前方中央に白く見えるのは市公會堂ヴィクトリアホールと稱せられ其の前庭にタマス・スタムフォード・ラフルス卿の銅像が小さく見えて立つてゐる。この銅像は去る一九一九年二月六日に當市開設百年祭を行つたとき此の地點に建てられたもので、これを英領馬來地方の測量元標としてゐる。圖の右上方に鋭塔のあるのはセント・アンドリュース教會で當地最古のもの、其の前廣場はシンガポール、クリケット俱樂部の運動場、俱樂部會館は其の左側寄りに車寄せの附いてゐる建物がそれである。又、其の脊後の平らに見える大白聖館は市役所で、其の遙か後ろ左寄りに白いドームがあるのはラフルス博物館、其のまた後ろに木立と並んでスカイラインを爲すのは總督官邸である。

市公會堂の脊後には法院等があるがこの圖では指さすべくも無い。ずつと後ろにフォートカンニング丘の燈臺と信號柱、其の下の灰白の大きな建物は警察本署。半月形の橋梁はニューブリッジ、其の前には民政長官廳があつて此の圖の左端に僅かにシンガポール河の一部も見えてゐる。

この市公會堂は市中見物に目標とすべき中心點であるから、とくと其の形を覚えてゐて頂き度い。

空から見た新嘉坡

詩人ヨネ・ノグチ氏は當地を讚へて『樹々の緑と花々の榮光に満てる新嘉坡』と言ひ、『世界の樂園』だと詠つた。寔にこの直感力の鋭い詩人の申さるところ、一々御尤も様で、吾曹、造次にも顛沛にも異存は無い。

但し、不幸にして詩人で無く、幸ひにしてたゞ普通の旅客たる各位はまた、船がタンジョン・パガの岸壁に繋がる、前、左側にブラカン・マテの要塞島のお伽噺の國のやうな美しい姿に嘆聲をあげる反面、岩壁に働く印度人苦力の汚なさに驚くであらう、之が新嘉坡を最も單的にあらはした美醜の両面である。そして其の旅人が雜然たる所謂「波止場風景」から離れて自動車を走らせる

時、先づ眼につく本當の新嘉坡市街の印象は、橄欖樹の下蔭にねそべつて藍色の海を眺めてゐる土人の後姿と、海岸エスプラネードの絨毯のやうな芝生の美しさと、合歡樹ネムノキによく似たレインツリーの並木にみる可憐な花のつゝましさとであらうか。そして火焰樹ファイヤーツリーのチュリップ型の瓣が折からの俄か雨に濡れた黒いアスファルトの道の上に散つてゐる風情も見らうし、又、鳳凰木の梢を仰げばその強烈な花の色にも驚ろくだらう。横光利一氏は『新嘉坡は花が美しい。花に驚ろいてゐたら終日驚ろいてばかりゐなければならぬ』と嘆じたことがある。更に又、この花に對して、タンドオン・カトン（譯して龜ヶ岬）の濱には亭々として百五十尺の椰子樹が林立し、青空につきささつてゐるやうな其の梢には常夏を誇らかに唱ふ廣濶な緑の葉が微風にそよいでゐるが、これがすべて晝も夜もの、當地風景、満目緑ならざるは無く、見る限り絢爛たる花をつけざるは無い。これが新嘉坡である。で、若しまた其の上に友あり遠方より來り訪ふがごときある時んば、あゝ、これ正に極樂世界、無憂の秘境で無くて、一體何んだといふのだ。

昭和十三年八月、滿洲國訪歐修交特派大使、經濟部大臣韓雲階閣下を主班とする一行二十何仁が岡本帝國總領事の招宴に、こゝタンジョン・カトンの亭に旅塵を洗はれたとき、席に陪するよろこびを得た筆者の一人が大使に示した

相逢一笑舉杯頻

倫交何必問舊新

遍喜好風吹不斷

萬紅千紫四時春

といふ二十八字、吾等、擬して以て貴君にも彼氏にも常に獻ぜんと思ふのである。

樹木と花の美しさを先づ挙げた理由は、實は新嘉坡の誇は、大凡この二つと、或はアスファルト補装道路の美しさ位のものだけであるからである。これは大言壯語では無い。まづ自慢出来るのは以上三つ位より無いのだ。

道路だけは或は東洋一だらう。部分的には勿論新装の丸の内に於けるそれに較ぶべくも無いところも多からうが、市中如何なる貧民窟に入つても到るところアスファルトが敷きつめてあることを申し度いのである。この道路の完備は土埃といふものを殆ど立たせないし、市役所の苦力是一日中道路清掃に當つてゐる上に、多少の汚れも一度雨が降れば直ちに跪づいて接吻してもよい程、といふのはチト變態であるが、兎に角、鏡のやうに美しく輝やいてゐる清潔さである。さすがぢや。

この里に過ぎたるものが四つあり

樹と花と道と、我等同人

さて、では新嘉坡市の市街はどうか。まづ土庫街と支那人の書く大坡區、俗にグダンといふのは

昔此邊が商業地で倉庫即ち Godown が立ち並んでゐたからの名であるが、つまり新嘉坡河以西のその一區を別にしては、人口の八割近くが支那人といふから本質的には支那の町であつて、古い土造家屋が櫛比しており、漢字と英語を縦横にもした大型の看板が軒並みズラリと其の頗る悪趣味な風貌をさらして、以て所謂「下町」風景、彼氏等の小坡區を表現し、東西吳越の大衆によびかけてゐるのである。

多分、事變前の上海よりは美しいところもあるだらう、震災前の本所、深川の或る街々あたりよりも落ち付いてゐるかも知れぬ。が、畢竟するに都市美だの結構だのといふものからは大凡すこぶる縁遠い存在なのである。

大體、近代建築といふものからして當地はまだほんの其の黎明期のものよりほか無いので、たまに指すべき二三のビルディングありとしても、其のすぐ裏手には百年の風雨に耐へ來つた缺筋土ンクリート建の低い屋根が餘喘を辛く保つて、もう一年、もう一年と取り拂ひ命令、市區改正に最後の長期抗戦をつゞけてゐる痛ましい姿が見られるであらう。

こゝで一つ、空から觀た新嘉坡といふのを述べてみようか。

市の東郊外に近く、例のタンジョン・カトンの濱にゆく途中、カラン區とよばれるあたりの海岸に、昭和十二年六月十二日その開港式を行つた新嘉坡空港のターミナル・ビルディングが直径一千ヤード面積一六二英反、といふから大凡六六ヘクタール、二十萬坪ほどの大飛行場を擁して立つてゐて、其の圓型の芝生から大いなるは鳳の如く、疾きは小鷹の如く、蘭機が、英機が、亂れ飛んで雲を凌ぎ舞ひ上つて月を訪づれる。

Singapore と大きく地上に書かれた白い文字を乗機の手輪が蹴飛ばすと一瞬、下はエメラルド色の熱帯の海で、遠く蘭領の島々が龜が甲羅干したかのやうに點々として見える。機首を左へ廻はすと下はカトンの住宅地にまだ残る沼澤地帯、この飛行場も悪泥四十尺の沼澤を埋め立て、築かれたものであるが、この附近は兎角は低濕な沼地であるから陽光を一杯に浴びた椰子林の間に、或は銀の砂を撒いたやうに、又は毒蛇の脊を思はせるやうに、青い光を反射し、陽炎立つてみえる水溜り、細流が遠くつゞいて、其の果はチャンギの要塞、白や、赤や、美しい玩具のお城を見るやうな可愛らしい建物もチラチラと隠顯して、こゝに其の奥に十八吋の巨砲が潜んでゐるのかと思ふと何んだか嘘のやうな氣がする。

何しろ東西十六哩、南北十四哩の蕞爾たる小島であるから普通の高度まで舞ひ上ると、もうすぐデヨホール水道の銀波が光つてみえ、もつと高くあがれば全島が本當に一青螺となつて脚下にある。市街を俯瞰してみよう。

ローチヨ運河といふのは街の東部、新嘉坡河が中央稍西寄り、何れも水は眞つ黒で、これも黒く